長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第９集

原（はる）の辻（つじ）遺跡

原の辻遺跡調査研究事業調査報告書

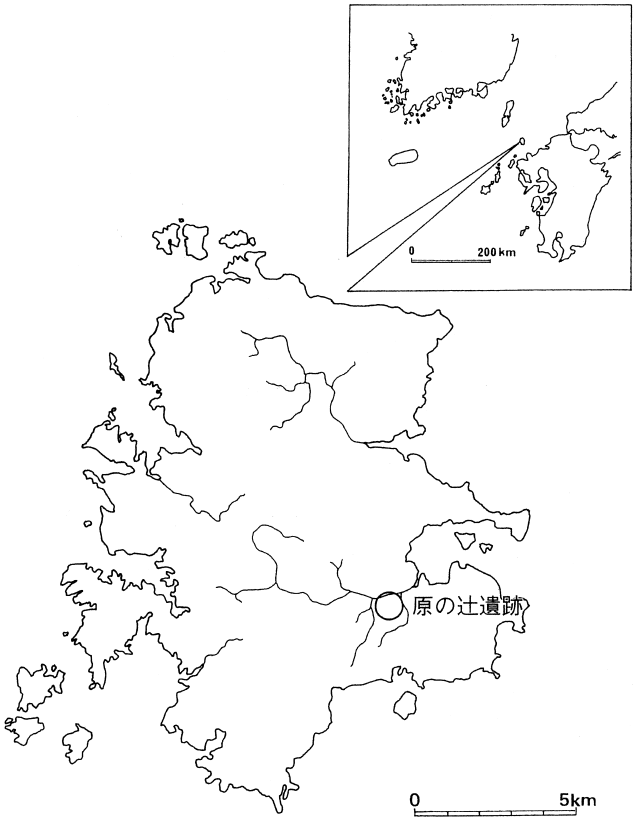
２０１３

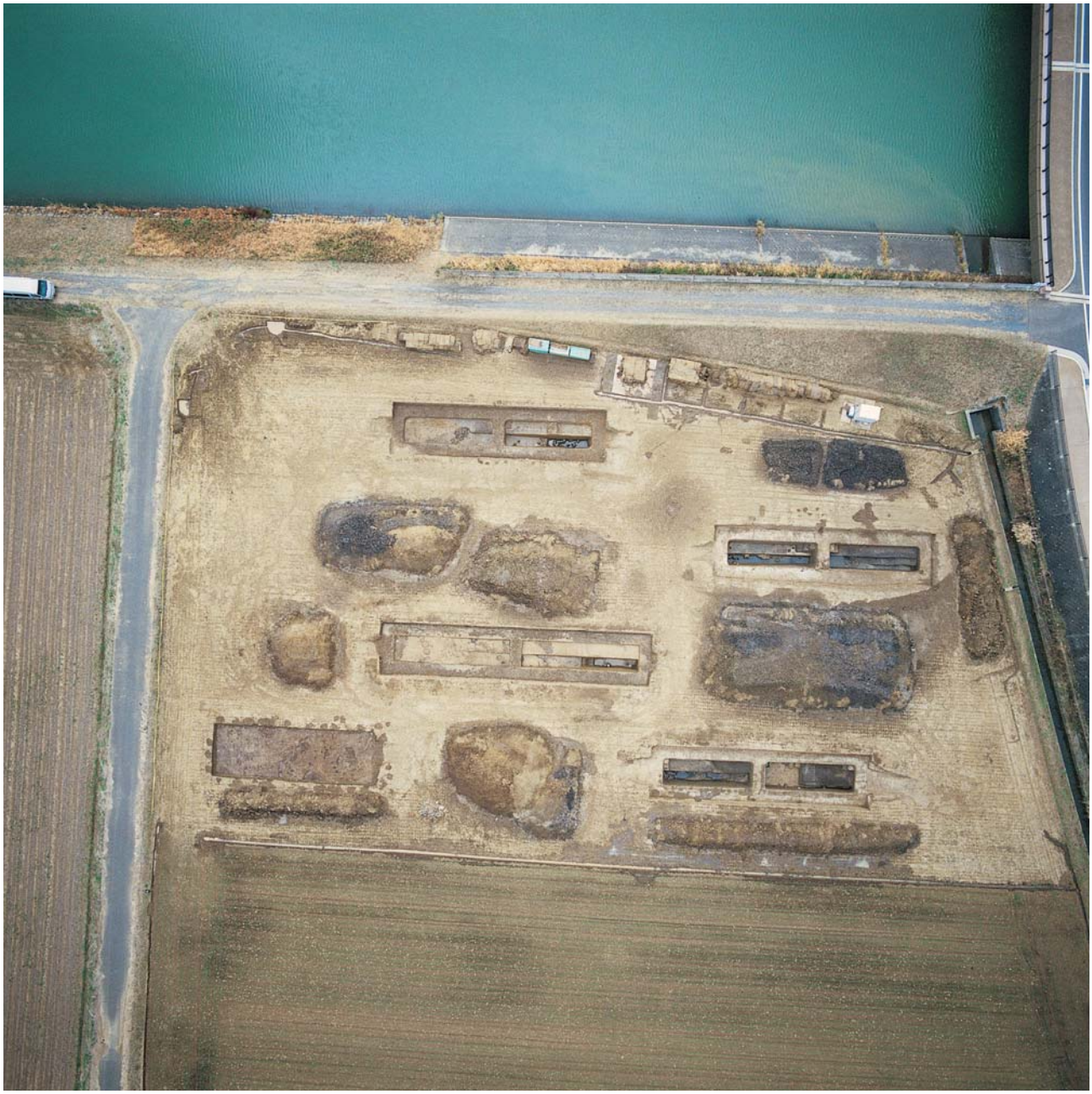
長崎県教育委員会

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第９集

原の辻遺跡

原の辻遺跡調査研究事業調査報告書





カラー写真１　2012年度原の辻遺跡川原畑地区調査区（上が南）

カラー写真２　川原畑地区遠景　北から丘陵部を望む

カラー写真３　４ａ区８層出土土器（183，184）

カラー写真４　４ａ区８層出土土器（178）

カラー写真５　４ｂ区８層出土土器（221，228等）

発刊にあたって

本書は，国庫補助を受けて実施した，平成24年度原の辻遺跡調査研究事業の報告書です。

原の辻遺跡は，これまでの調査で，多重の環濠や日本最古の船着き場跡などが確認されるとともに，中国や朝鮮半島との盛んな交流を物語る数多くの遺物が出土していることから，中国の歴史書「魏志倭人伝」に記載された「一支国」の国邑（こくゆう）と特定されました。「魏志倭人伝」の中には30余りの国の名前が記されていますが，国邑が特定されたのは原の辻遺跡だけで，当時の国の規模や構造を解明できる非常に学術的な価値の高い遺跡とされ，平成12年11月には弥生時代の集落遺跡としては全国で３例目の特別史跡として指定を受けました。また，昭和49年以降の発掘調査で出土した原の辻遺跡の遺物の中で，遺構や場所が明確で遺跡の時代や対外交流の歴史を裏付けることができる資料について，平成25年２月に文化審議会は新たに指定すべき文化財（重要文化財）として文部科学大臣に答申しました。

平成24年度の範囲確認調査は，壱岐市芦辺町深江鶴亀触字川原畑で実施しました。その結果，弥生時代の多数の土坑・ピット群，河川跡が発見されました。また多数の弥生時代の土器や石器なども出土し，この地域の歴史を復元する上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査の実施に当たり，ご理解とご協力をいただきました地元関係者の皆様方に深く感謝申し上げますとともに，これらの調査成果が学術的な資料として広く活用され，さらには地域の方々の郷土を理解する資料として役立てていただければ幸いです。

平成25年３月31日

長崎県教育委員会教育長
渡　辺　敏　則

例　　言

1．本書は，原の辻遺跡調査研究事業に伴って実施した，平成24年度の原の辻遺跡発掘調査報告書である。

2．本事業は，遺跡範囲内の環濠や旧地形等の状況調査を目的として，平成14年度から実施している。

3．本書に収録した調査区の所在地は，長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触字川原畑である。

4．平成24年度の調査は長崎県教育委員会が主体となり，長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室が担当した。

調査組織

調査指導委員会	委員長	西谷　正	（九州大学名誉教授）
	委　員	工楽善通	（大阪府立狭山池博物館館長）
	委　員	佐古和枝	（関西外国語大学教授）
	委　員	髙倉洋彰	（西南学院大学教授）
	委　員	武末純一	（福岡大学教授）
	委　員	本田光子	（九州国立博物館特任研究員）
	委　員	松井　章	（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）
	委　員	宮本長二郎	（別府大学客員教授）

［委員記載は50音順］

長崎県埋蔵文化財センター

所　長		木村忠男	
東アジア考古学研究室長		安楽　勉	（調査担当）
総務課長		北川和広	
調査課長		川道　寛	
東アジア考古学研究室	文化財保護主事（研修員）	田口貴久	（調査担当）
東アジア考古学研究室	文化財保護主事	古澤義久	（調査･整理担当）
調査課	文化財調査員	前田加美	（調査担当）
東アジア考古学研究室	文化財調査員	高　恩美	（調査･整理担当）

5．本書で使用した遺構・遺物の実測，製図，写真撮影は，長崎県埋蔵文化財センターが行った。

6．本書に収録した遺物・図面・写真類は，長崎県埋蔵文化財センターで保管している。

7．本書で用いた座標は旧日本測地系である。

8．本書で用いた方位は座標北である。

9．本書の中国語要旨の校閲は長崎県立壱岐高等学校講師張佳氏に依頼した。

10．本書の執筆担当者は，本文目次に（　）で示している。

11．本書の編集は古澤義久が行った。

本 文 目 次

Ⅰ　遺跡の立地する環境
　1．地理的環境……1（田口貴久）
　2．歴史的環境……1（田口貴久）
　3．民俗的環境……3（古澤義久）

Ⅱ　調査に至る経緯……4（田口貴久）

Ⅲ　川原畑地区の調査……6（古澤義久）
　1．調査概要
　2．土層
　3．遺構及び遺構に伴う遺物
　4．自然河川跡及び自然河川跡に伴う遺物
　5．包含層出土遺物

Ⅳ　総括……69（古澤義久）
　中国語・韓国語要旨……74

付　編
　平成24年度原の辻遺跡調査研究事業発掘調査における自然科学分析
　　……77（株式会社　古環境研究所）

挿 図 目 次

図１　壱岐島位置図と遺跡所在地……1
図２　2012年度調査研究事業調査区位置図（１/8,000）……5
図３　川原畑地区調査区位置図（１/1000）……7
図４　１区平面図・土層断面図（１/60）……9・10
図５　２区平面図・土層断面図（１/60）……9・10
図６　３区平面図・土層断面図（１/60）……11・12
図７　４区平面図・土層断面図（１/60）……13・14
図８　５区平面図・土層断面図（１/60）……13・14
図９　土坑・ピット断面図（１/40）……17
図10　１ｂ区１号土坑（１/20）……18
図11　１ｂ区１号土坑出土土器（Ｓ＝１/３）……19
図12　１ｂ区２号土坑（１/20）……21
図13　１ｂ区２号土坑出土土器（Ｓ＝１/３）……22
図14　１ｂ区２号土坑出土土器（Ｓ＝１/３）……23
図15　３ｂ区土坑出土土器（Ｓ＝１/３）……23
図16　３ｂ区東側遺構図（１/20）……25
図17　３ｂ区２号溝出土磁器（Ｓ＝１/３）・木製品（Ｓ＝１/４）……28
図18　５区９号土坑（１/20）……31・32
図19　５区９号土坑①層出土土器（Ｓ＝１/３）……33
図20　５区９号土坑②層出土土器・①層・②層出土石器（Ｓ＝１/３）……34
図21　５区９号土坑②層出土土器（Ｓ＝１/３）……35
図22　５区10号土坑（１/20）……36
図23　５区11号土坑（１/20）……36
図24　５区10号土坑出土土器（Ｓ＝１/３）……37
図25　５区10号土坑出土土器・石器（Ｓ＝１/３）……38
図26　５区11号土坑出土土器（Ｓ＝１/３）……39
図27　５区土坑・ピット出土土器（Ｓ＝１/３）……39
図28　２ａ区６層・５層（河川跡）・４～２層遺物出土状況（１/40）……45・46
図29　４ａ区東側８層（河川跡）土器出土状況（１/20）……48
図30　４ｂ区６層（河川跡）土器出土状況（１/20）……49・50
図31　１ａ区９層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１/３）……51
図32　２ａ区６層・５層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１/３）……51
図33　２ｂ区６層・５層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１/３）……52
図34　２ａ区４層・３層出土土器（Ｓ＝１/３）……52
図35　４ａ区８層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１/３）……53

図36　４ａ区８層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）……54
図37　４ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）……55
図38　４ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）……56
図39　４ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）……57
図40　４ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）……58
図41　４ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）……59
図42　４ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）……60
図43　弥生時代包含層出土遺物（Ｓ＝１／３）……62
図44　中世～近世包含層出土遺物（Ｓ＝１／３）……63
図45　４ｂ区４層出土木杭（Ｓ＝１／４）……64
図46　川原畑地区弥生時代遺構分布図（１/1000）……70

表　目　次

表１　2012年度川原畑地区調査区地点一覧……6
表２　遺構一覧表……16・17
表３　自然河川関係土層対応表……44
表４　遺物観察表（土器・陶磁器）……65～67
表５　遺物観察表（石器）……68
表６　遺物観察表（金属器）……68
表７　遺物観察表（木製品）……68

写 真 目 次

写真１　１ｂ区１号土坑出土土器（19）……75
写真２　１ｂ区２号土坑遺物出土状況（覆土１面）……75
写真３　１ｂ区２号土坑遺物出土状況（床面附近）……75
写真４　４ａ区８層土器出土状況……75
写真５　４ｂ区６層土器出土状況……76
写真６　５区土坑・ピット検出状況……76
写真７　５区９号土坑遺物出土状況……76
写真８　５区10号土坑検出状況……76

Ⅰ　遺跡の立地する環境

1．地理的環境

九州北西海上の玄界灘に浮かぶ壱岐島は，福岡県・佐賀県と対馬市の間に位置し，東西約15km，南北約17km，総面積約138.8㎢の小規模の島である。

島の基盤岩は，砂岩・頁岩からなる勝本層群であり，その上に壱岐層群，芦辺層群，郷ノ浦層群が順次形成され，島全体を覆っているのは第四紀に形成された玄武岩である。壱岐島は起伏が少なく平坦な地形をしており，高度100mを越す山地が占める面積は極めて小さく，島内最高峰の岳の辻でも標高約213mに過ぎない。島の西から東にかけて島内最大の河川である幡鉾川が流れ，原の辻遺跡から1.5km下ると内海湾に至る。この川の下流には，県内最大の沖積平野である深江田原が広がり，米・麦・たばこ・大豆などの栽培が年間を通じて行われ，県内有数の穀倉地帯となっている。原の辻遺跡は，この深江田原の中の南から突き出した標高８～18mの舌状台地及びその周辺の水田面に位置し，遺跡面積の規模は約100ha を誇る。

原の辻遺跡の周辺では多くの湧水箇所が存在するが，これは遺跡南後方の辻山から供給されたものであり，弥生時代から今日に至るまで，人々の生活を潤している。

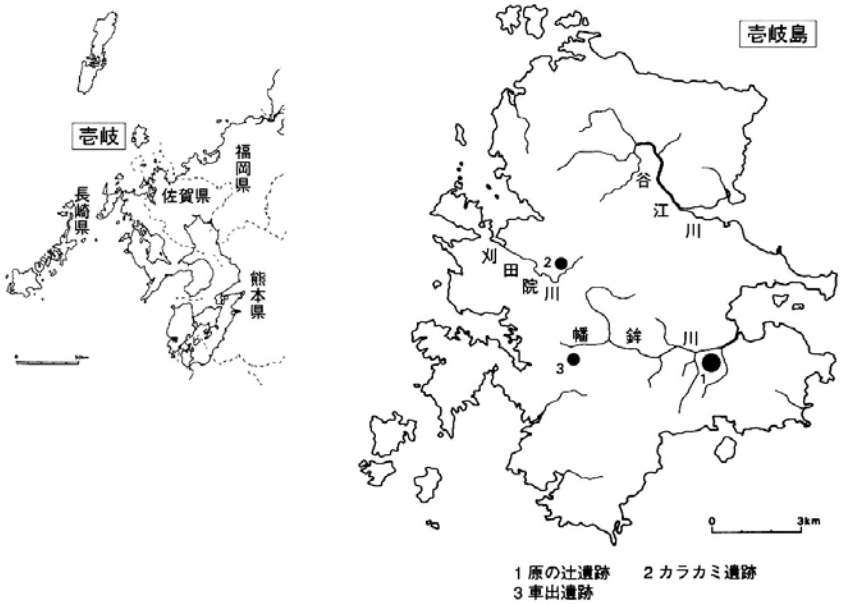


図１　壱岐島位置図と遺跡所在地

2．歴史的環境

壱岐島内で弥生時代の遺跡は約60箇所が確認されているが，代表的な遺跡は原の辻遺跡である。原の辻遺跡は明治時代に発見されており，戦後になって東亜考古学会，九学会，長崎県教育委員会等によって発掘調査がなされてきた。平成５年（1993）以降本格的な調査が始まり，多重の大規模な環濠集落跡であることや，国内最古の船着き場を有する大規模な集落であることが確認された。さらに，それまでの調査結果から「一支国」の拠点集落であるとされ，『魏志』倭人伝に登場するクニの中心地が特定された唯一の遺跡と評価された。そして，平成12年（2000）には国の特別史跡に指定された。原の辻遺跡の最大の特徴は，東アジアとの交流を物語る遺物が多量に出土している点であり，それに

は，三韓系瓦質土器や楽浪系土器などの韓半島系土器，五銖銭・大泉五十・貨泉などの中国貨幣，中国製鏡などが含まれる。『魏志』倭人伝には，一支国について「南北市糴す」と記されている。これらの遺物は，海を越えての活発な交流が行われていたことを裏付けるものといえよう。しかし，２世紀の後半から土器などの遺物が一括遺棄され，弥生終末から古墳初頭期には濠が埋没された状況がみられる。そして，４世紀中頃に入ると原の辻大集落は解体されていく（宮崎2008）。以後，原の辻遺跡を見下ろす標高74mの丘陵上に立地し，島内最古の円墳である大塚山古墳が出現するまで，いわゆる「空白の１世紀」を迎えることになる。

律令体制下において，壱岐は壱岐郡と石田郡とに区分され，国府と郡家が設置された。原の辻遺跡からも貢物や古代の食糧支給に関する内容を記した木簡５点が出土している（平川1995）。さらに，平成６年（1994）の川原畑地区の調査，平成18年（2006）の石田高原地区の調査で古代道路状遺構が検出されている。（川畑・寺田・溝上2007）

中世室町期に入ると，壱岐は，志佐・佐志・呼子・鴨打・塩津留の松浦五党による分割統治が行われた。志佐氏の代官真弓氏の居城であった覩城跡は，原の辻遺跡の西約１㎞に位置し，平成８年（1996）と平成17年（2005）に発掘調査が行われた。その結果，14世紀頃の高麗青磁・粉青沙器，ベトナムやタイ産の陶磁器が出土した（河合・田中2006，川口1997）。この時期は，倭寇が活発化していた時期であり，志佐氏も時代の流れに応じて東アジアと積極的に交易を行っていたことが裏付けられた。

しかし，松浦五党は文明４年（1472）に肥前上松浦岸岳城主波多泰に侵攻を受け，代官らは覩城で防戦したものの敗北を喫した。その後，波多氏が壱岐島内を支配することになるが，波多氏内部で騒擾が起こり，元亀２年（1571）の「浦海（うろみ）の合戦」では，松浦氏を頼った日高氏が波多氏を打ち破り，以後，松浦氏が島内での支配力を高めることとなる。

松浦鎮信は，豊臣秀吉によって平戸・壱岐の所領を安堵され，朝鮮出兵の折には秀吉の命に従い勝本城を築城した。関ヶ原の戦いを経て，鎮信は家康から６万3200石の旧領を安堵され，ここに平戸藩が成立する。壱岐は平戸藩領として引き続き松浦氏によって統治された。平戸藩は島内に壱岐郡と石田郡の２郡を設置し，在方では24の村を置き，その下に「触」とよばれる小地域を設けた。現在でも，壱岐市内では「触」という呼称が用いられている。

【参考文献】

河合雄吉・田中聡一　2006『覩城跡・車出遺跡』壱岐市文化財調査報告書 第８集

川口洋平　1997『覩城跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第３集

川畑敏則・寺田正剛・溝上貴稔　2007『原の辻遺跡』原の辻遺跡調査事務所報告書 第36集

中上史行　1995『壱岐の風土と歴史』

平川南　1995「長崎県壱岐郡原の辻遺跡出土の木簡」『原の辻遺跡』長崎県文化財調査報告書 第124集

福田一志・中尾篤志　2005『原の辻遺跡　総集編Ⅰ－平成16年度までの調査結果－』原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第30集

宮崎貴夫　2008『原の辻遺跡　壱岐に甦る弥生の海の王都』同成社

山口麻太郎　1982『壹岐国史』

3．民俗的環境

原の辻遺跡が所在する芦辺町深江鶴亀触一帯では，「川祀り」に代表されるように水に関わる民間信仰がみられ，幡鉾川を中心として水田農耕や畑農耕が古くから行われていたという歴史的環境が，水に関して特別な意識を持つという民俗的心性の形成に大きな影響を及ぼしている（古澤2012）。深江一帯において水に関わる民俗的心性を表象するものとしては民間信仰以外にも伝説などの口承が挙げられる。吉野秀政（1713年～1788年頃？）が1742年（寛保２年）に平戸藩主の松浦誠信から撰述の命を受け，著した『壱岐国続風土記』には，田河村深江や箱崎村鱸淵で採集された水に関する昔話が収録されており，山口麻太郎により活字化され再録されている（山口1973）。

〇水蜘蛛

箱崎村鱸淵の水上に，赤淵といふ所あり。むかし，夏の頃にやありけん，二民まぐさを刈りて，しばらく川辺の木陰に涼みしが，一民心とろけてまどろめり。時に，蜘蛛来りて其まどろめる所の民の，足の母指に糸をまとひ置き，川の方に這ひ行けり。まどろまざる所の一民，あやしんで，其蜘蛛の糸をはづし，傍の木の根に移し置きて，見そなはすに，蜘蛛川の中に至るとひさしく，其糸を移し置く所の木を，引き抜けり。其音にまどろめる所の一民も，目をさまし，共に逃げ去りけるとなん。

又皿川（＊）にも，かくのごとき事ありしとぞ。此事妖妄の説たりといへども，古老の説たるにより，今しばらくここにしるすのみ。

＊田河村深江にある地名。

この伝説が採集された田河村深江の皿川は現在の深江本村触付近を流れる川であるが，原の辻遺跡が所在する深江一帯にこのような伝説がみられることは重要である。伊藤清司は民間説話が弘布するにはそれなりの理由があり，話の表面には現れなくても然るべき歴史的事実の裏付けがあったために，虚構譚もそれなりに真実味をおびて人々の間に語り継がれてきた（伊藤2007）と指摘している。この指摘のように，伝説の伝承背景として然るべき歴史的事実の裏付けを求めるとすると，川に水蜘蛛という恐ろしい怪物が棲んでいるという伝説の背景には，実生活におけるさまざまな局面を通した川との関わりがあるものとみられ，そこから形成された川に対する畏怖という民俗的心性を看取することができる。前稿で触れた「川の神」の正体をみたものは，病気になったり死に至るとされており，「川の神」自体が畏怖の対象である（古澤2012）。このような民間信仰と本稿で扱った伝説の二者に共通する観念が存在することから，川に対する畏怖とは非常に強い民俗的心性であることが窺われる。「水蜘蛛」は遅くとも18世紀には成立しているものの，歴史的にどこまで遡るものか詳細に知りえないため，具体的な歴史的事象との結びつきは容易に判明しえないが，川を中心とした水辺という自然環境により形成された民俗的心性は，この地域の歴史的環境を評価する上で，参考になるものと考えられる。

【引用文献】

伊藤清司　2007「炭焼き長者の話」『史学』75－２・３
古澤義久　2012「民俗的環境」『原の辻遺跡』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第５集
山口麻太郎　1973「吉野秀政説話集」『山口麻太郎著作集－説話篇－』佼成出版社

Ⅱ　調査に至る経緯

原の辻遺跡は，壱岐在住の小学校教員松本友雄によって明治37年（1904）から明治38年（1905）頃に発見された。昭和初期に，松本は地元の郷土史家山口麻太郎と共に原の辻遺跡とカラカミ遺跡についての論文を発表し，その存在が中央学界に知られるようになった。

戦後の昭和26年（1951）から昭和39年（1964）には，九学会と東亜考古学会によって本格的な調査が行われ，大量の弥生土器の他，各種鉄製品，青銅器，韓半島系土器，楽浪系土器が出土したことから，韓半島や大陸との関連性が指摘され，中央学界でも注目を集めた。

昭和39年（1964）には，石田大原地区において耕地基盤整備に伴い長崎県教育委員会によって緊急調査が実施された。この時の調査では弥生中期を主体とする墓域が確認された。

石田大原地区における墓域の発見に伴い，長崎県教育委員会は昭和50年（1975）から昭和52年（1977）年度に範囲確認調査を実施した。このとき，新たに大川地区，原ノ久保Ａ・Ｂ地区で墓域が発見され，有鉤銅釧，鉄鏃，ガラス勾玉などが出土した。この３年にわたる調査により，遺跡の範囲が台地一帯に拡がることが判明した。

平成に入ると，幡鉾川流域総合整備事業が計画され，それに伴う発掘調査が台地周辺の低地部を中心に行われた。平成３年（1991）から平成４年（1992）の遺跡周辺の低地一帯を対象とした範囲確認調査を経て，平成５年（1993）以降，広大な面積の発掘調査が実施された。その結果，遺跡は100haの範囲にも及び，台地を多重環濠で囲む大規模環濠集落であることが判明した。平成７年（1995）には，原の辻遺跡が『魏志』倭人伝に記された「一支国」の王都であることが確定し，翌年の平成８年（1996）には，弥生時代中期前半に築かれた日本最古の船着き場遺構が発見された。この一連の発掘調査の成果により，平成９年（1997）に原の辻遺跡は国史跡に指定され，平成12年（2000）には特別史跡に指定された。平成14年（2002）以降は，原の辻遺跡の集落構造の把握を目的とした調査研究事業が進められている。

今年度は，川原畑地区の調査を行った。川原畑地区では平成４年（1992）に範囲確認調査が実施され，弥生時代の土坑群・柱穴群・溝状遺構が検出された。これをうけて，平成６年（1994）に本調査が実施され，古代の道路状遺構１箇所，溝状遺構や旧河道が検出された（山下・川口1997）。

今年度の調査は，平成６年の調査結果を基に，古代の道路状遺構と弥生時代の旧河道のさらなる解明を目的に，11月１日から平成25年（2013）１月18日にかけて実施した。

【参考文献】

宮崎貴夫　2008『原の辻遺跡　壱岐に甦る弥生の海の王都』同成社

山下英明・川口洋平　1997『原の辻遺跡・安国寺前Ａ遺跡・安国寺前Ｂ遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第１集

図２　2012年度調査研究事業調査区位置図（１/8,000）

Ⅲ　川原畑地区の調査

１．調査概要（図３，表１）

調査は2012（平成24）年11月１日から2013（平成25）年１月18日まで行った。当該地区は，東西方向に10m間隔で排水のための暗渠が設置されており，それをかわすように南北５ｍ×東西20mの調査区を３箇所（１，２，４区），南北５ｍ×東西25mの調査区を１箇所（３区），南北５ｍ×東西15mの調査区（５区）を１箇所設定し，１区から４区の番号をつけた。また，長辺が20m及び25mと長いので調査区の中で半分に分け西側をａ区，東側をｂ区（５区に関しては未分割）とした。

１～４区に関しては調査に伴う掘削深度が深くなることが予想されたため，周囲に1.25mの未掘削部分を設定し，階段掘りを行った。その結果，１ａ区，１ｂ区，２ａ区，２ｂ区，４ａ区，４ｂ区については南北2.5m×8.25m，３ａ区，３ｂ区については2.5m×10.75mについて調査することとなった。一方，５区では遺構面までの深度が浅いので，調査区全面を掘削した。

調査は，重機を使い表土及び客土を除去した後人力で掘削を行った。調査終了後は，掘削面に砂を30㎝程度，敷いた上で埋め戻し，遺構等の保護を行った。

表１　2012年度川原畑地区調査区地点一覧

		X	Y
１区	北西杭	84429.337	23359.461
	南西杭	84424.433	23360.467
	南東杭	84428.499	23380.054
	北東杭	84433.399	23379.031
２区	北西杭	84433.001	23328.027
	南西杭	84428.099	23329.081
	南東杭	84432.198	23348.633
	北東杭	84437.081	23347.613
３区	北西杭	84447.910	23350.502
	南西杭	84443.018	23351.519
	南東杭	84448.095	23375.993
	北東杭	84452.972	23374.971
４区	北西杭	84453.680	23328.883
	南西杭	84448.779	23329.900
	南東杭	84452.852	23349.482
	北東杭	84457.741	23348.470
５区	北西杭	84462.803	23372.956
	南西杭	84457.958	23374.014
	南東杭	84460.931	23388.668
	北東杭	84465.829	23387.642

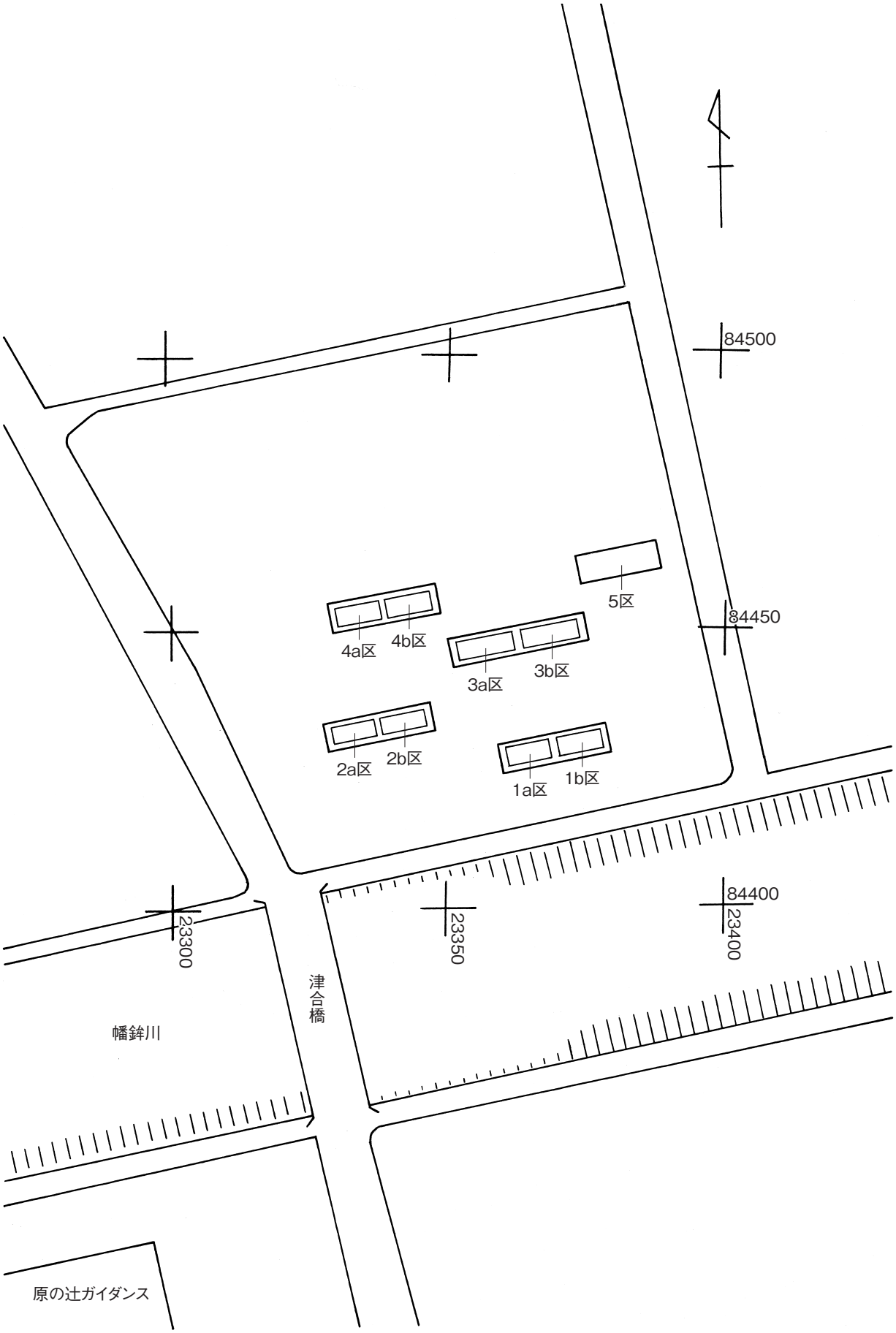


図３　川原畑地区調査区位置図（１/1000）

2．土層（図４～図８）

⑴　1区（図４）

１層：にぶい橙色（7.5Y7/4）粘質土。

２層：にぶい橙色（7.5YR6/3）粘質土。近世磁器含む。

２′層：まだらの褐色（7.5YR5/3）粘質土。

３層：にぶい橙色（7.5YR6/3）粘質土。

４層：褐灰色（10YR4/1）粘質土。鉄分及び炭化状粒子含む。

５層：黒褐色（2.5Y3/1）粘質土。炭化状粒子含む。

６層：暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土。鉄分を含み，さくさくしている。

７層：青灰色粘質土（5B5/1）粘質土。

８層：まだらの暗灰黄（2.5Y5/2）粘質土。鉄分をまだら状に含む。

９層：黒色粘質土（7.5YR2/1）粘質土。自然木を多く含む。河川堆積土。

10層：暗青灰色（5B4/1）粘質土。

11層：暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土。鉄分を含み，さくさくしている。

⑵　2区（図５）

１層：にぶい褐色（7.5YR6/3）粘質土。

２ａ層：明褐灰色（7.5YR7/1）粘質土。鉄分を多く含む。

２ｂ層：褐灰色（7.5YR7/1）粘質土。鉄分を含む。

３層：褐灰色（10YR5/1）粘質土。

４層：灰色（N4/）粘質土。中世土師器含む。

５層：黒色（10YR2/1）粘質土。河川堆積土。

６層：黒褐色（10YR3/1）粘質土。有機物を含む。河川堆積土。

７層：灰黄色（2.5Y4/1）粘質土。

８層：暗青灰色（10BG4/1）粘質土。

９層：明青灰色（10B7/1）粘質土。

10層：灰黄色（2.5Y4/1）粘質土。固くしまっている。

11層：青灰色（5B6/1）砂質土。

⑶　3区（図６）

１層：にぶい橙色（7.5YR7/4）粘質土。鉄分が混じる。

２層：にぶい褐色（7.5YR6/3）粘質土。

３層：まだらな褐色（7.5YR6/3）粘質土。中世陶磁器含む。

４層：青灰色（5B6/1）粘質土。

５層：にぶい褐色（7.5YR6/3）粘質土。白磁碗Ⅳ類含む。

６層：褐灰色（10YR4/1）粘質土。

７層：暗青灰色（5B4/1）粘質土。鉄分が強い。

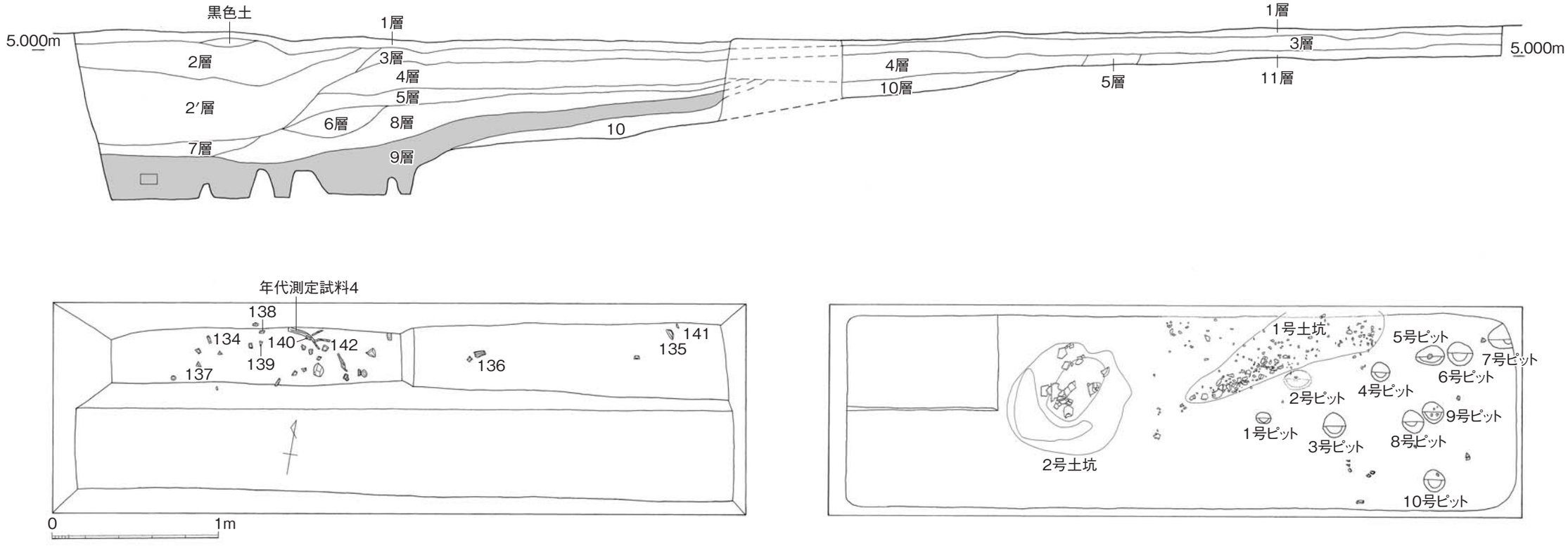


図 4　1 区平面図・土層断面図（1 /60）

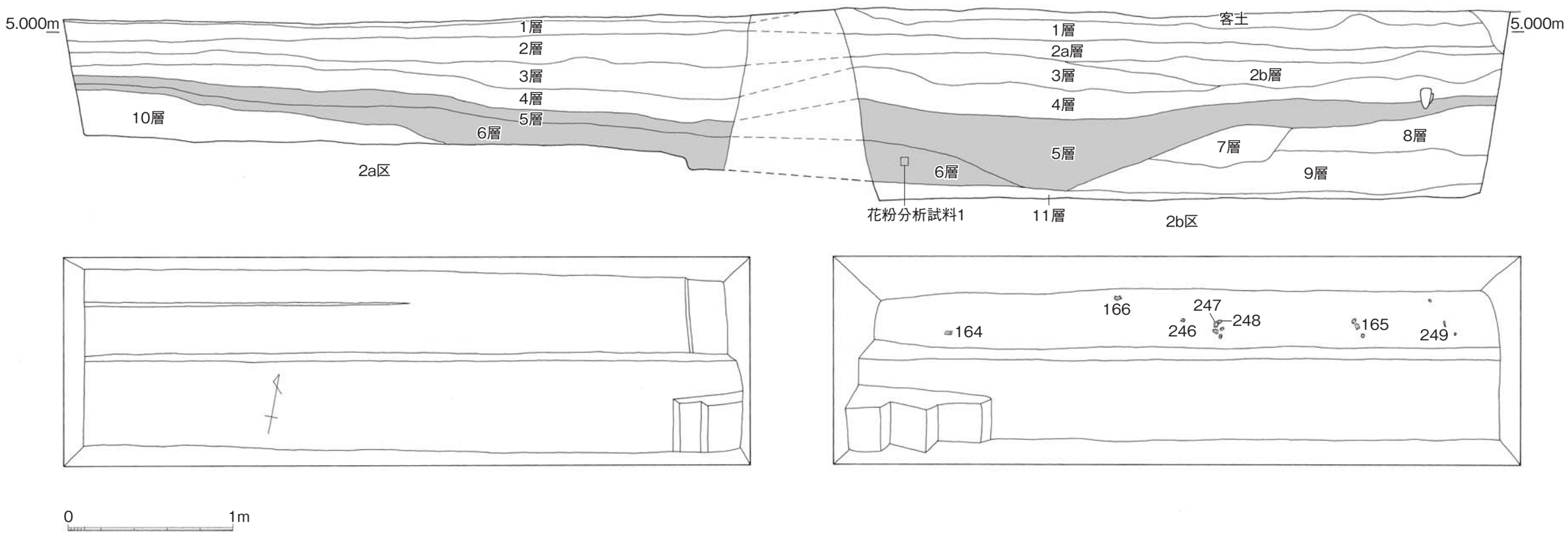


図 5　2 区平面図・土層断面図（1 /60）

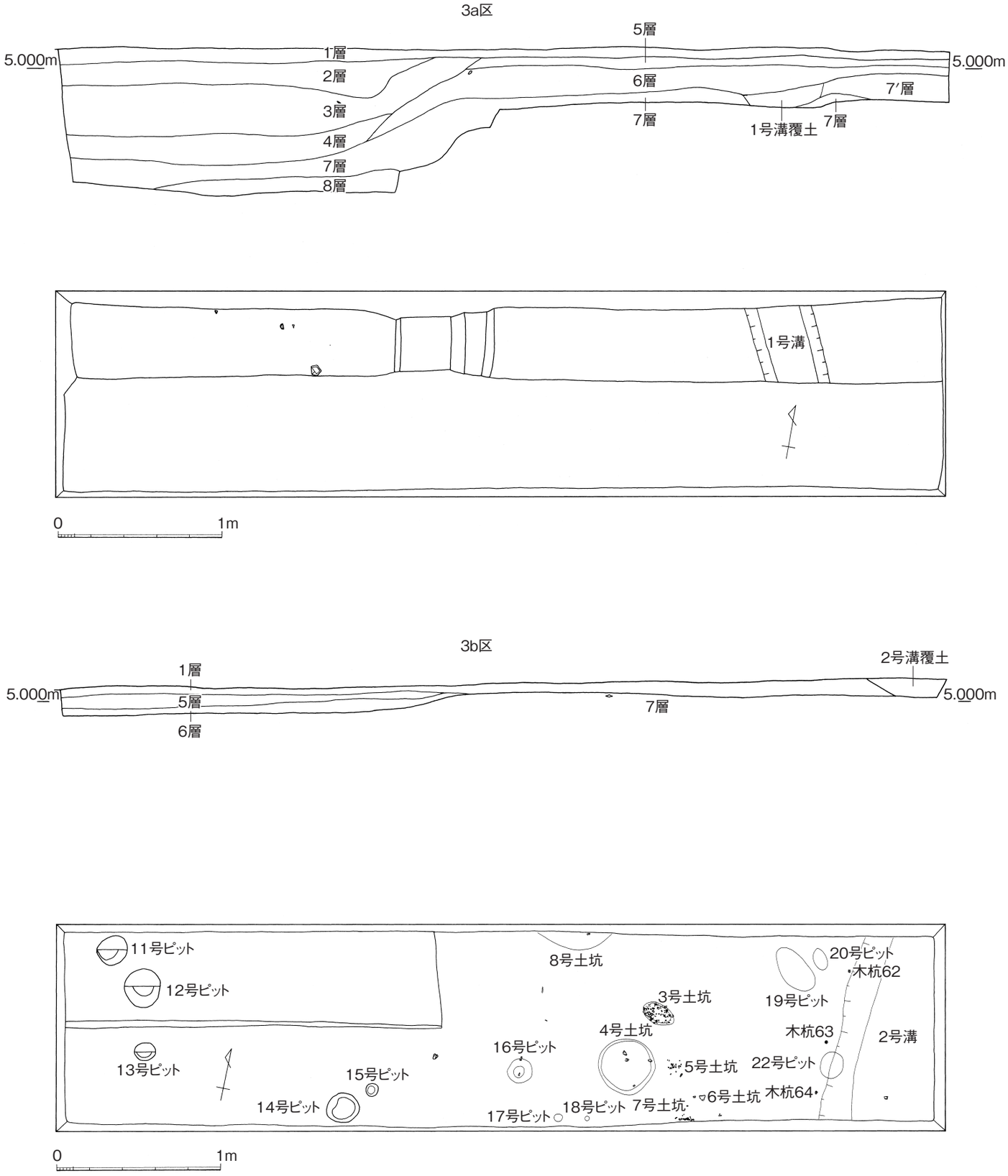


図6　3区平面図・土層断面図（1/60）

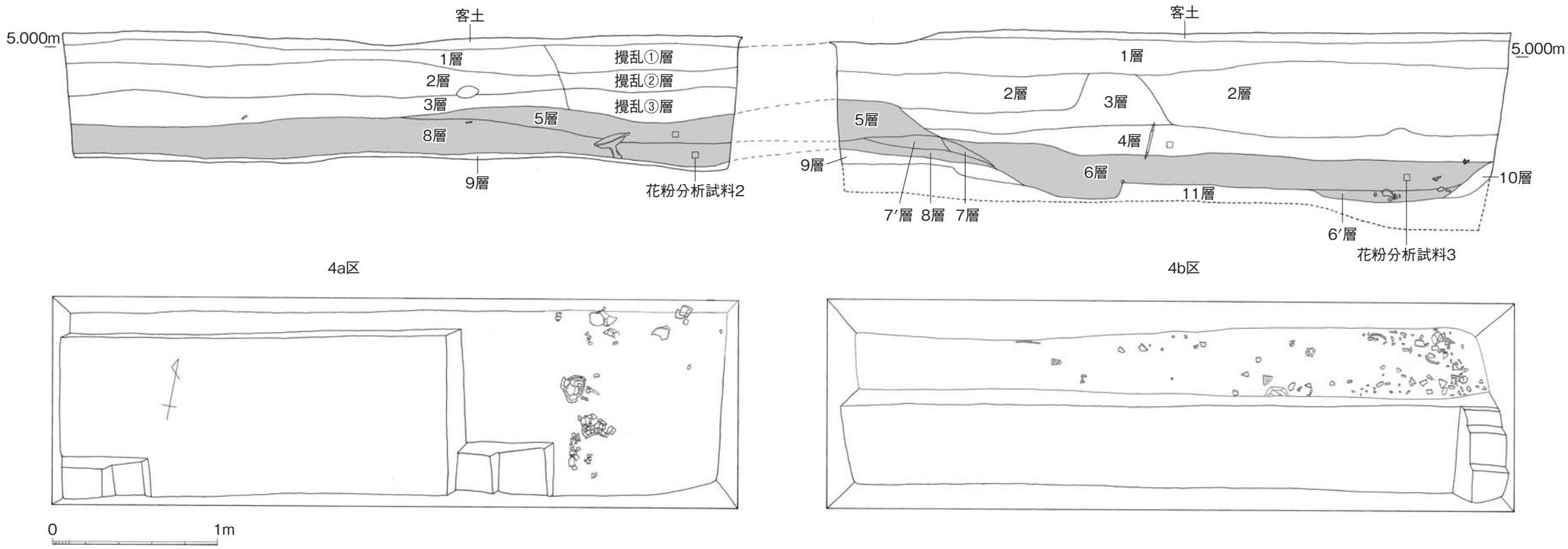


図７　４区平面図・土層断面図（１/60）

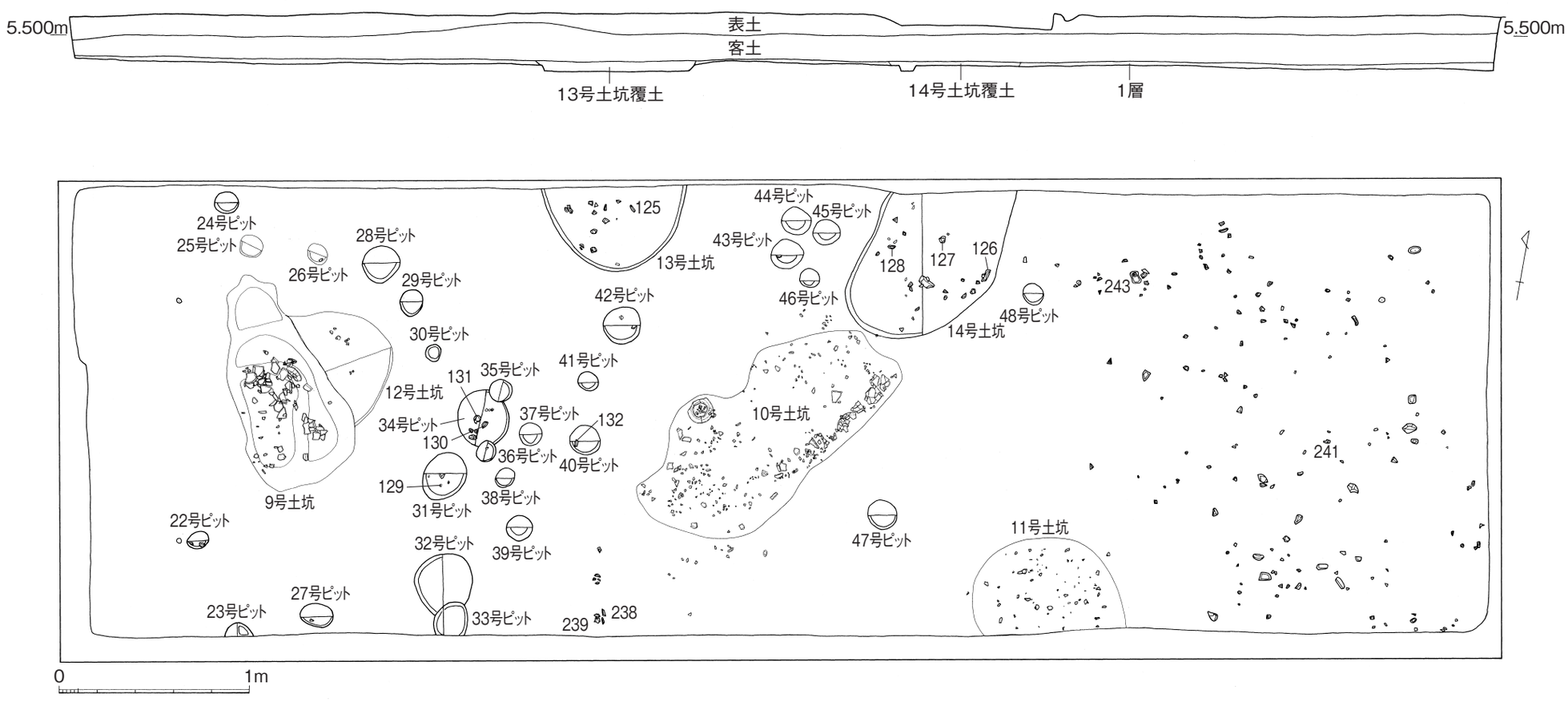


図８　５区平面図・土層断面図（１/60）

7′層：暗青灰色（５B4/1）粘質土。７層よりやや灰味がかっている。
８層：黒色（2.5Y2/1）砂質土。

⑷　**４区**（図７）
１層：にぶい褐色（7.5YR6/3）粘質土。鉄分を多く含む。
２層：褐灰色（10YR5/1）粘質土。中世磁器含む。
３層：褐灰色（10YR4/1）粘質土。
４層：黄灰色（2.5Y5/1）粘質土。
５層：黒色（10YR2/1）粘質土。河川堆積土。
６層：黒褐色（7.5YR2/1）粘質土。東側で弥生土器を多量に含む。河川堆積土。
６′層：黒褐色（7.5YR2/1）粘質土。弥生土器を多量に含む。河川堆積土。わずかに砂質。
７層：暗灰褐色（10GB5/1）粘質土。河川堆積土。
７′層：青灰色（10GB5/1）粘質土。砂を含む。河川堆積土。
８層：黒褐色（10YR2/1）粘質土。弥生土器含む。河川堆積土。
９層：明青灰色（10GB7/1）粘質土。緑灰色がまだら状に混じる。
10層：青灰色（5B6/1）砂質土。
11層：砂質層。

⑸　**５区**（図８）
表土
客土
１層：まだらの暗灰黄（2.5Y5/2）粘質土。鉄分をまだら状に含む。

３．遺構及び遺構に伴う遺物

今次の調査では，遺構として土坑（掘方が確認できなかった土器集中部も含む）14基，ピット48基，溝２条が確認された。遺構の諸属性については表２で整理している。

⑴　**１区検出遺構**

１号土坑（図10）

１ｂ区11層で検出した。内部の掘削は行わず，平面を確認後，露出した資料のみを収拾した。平面は長楕円形を呈し，長軸260㎝，短軸70㎝と比較的大型である。表面から観察される覆土は黒褐色（7.5YR3/2）粘質土で黒色（7.5YR1.7/1）の有機物が混じる。僅かに掘削すると覆土は除去されてしまうことから，上部は既に削平を受けており，ほぼ土坑底面に近い状況であると推定される。遺物は南側で比較的遺存状況が良好であり，北東‐南西方向に列状に分布していることが注意される。

【遺物】（図11）

須玖Ⅱ式を主体とする甕，壺などが出土している。丹塗土器としては甕，壺が出土している。19は内部から炭化材が出土している（写真１）。この炭化材について放射性炭素年代測定を実施したものが試料５であり，1970±30年 BP という測定値が出ている。

表２　遺構一覧表

遺構番号	調査区･層位	調査	平面形態	直径等		残存深	底面標高	覆土
				長軸	短軸			
１号土坑	１ｂ区11層	未掘削	長楕円形	260cm	70cm	－	－	黒褐色(7.5YR3/2)粘質土で黒色(7.5YR1.7/1)の有機物が混じる。
２号土坑	１ｂ区11層	完掘	円形に近い不整形	150cm	136cm	25cm	5.07m	褐灰色(7.5YR4/1)粘質土に黒色(7.5YR1.7/1)の有機物が混じる。
１号ピット	１ｂ区11層	半截	円形	18cm		6 cm	4.95m	褐灰色(7.5YR5/1)粘質土に明赤色(7.5YR5/6)が混ざる。
２号ピット	１ｂ区11層	半截	楕円形	32cm	24cm	10cm	4.90m	褐灰色(7.5YR5/1)粘質土に明赤色(7.5YR5/6)が混ざる。
３号ピット	１ｂ区11層	半截	円形	28cm	10cm	10cm	4.90m	褐灰色(7.5YR4/1)粘質土に黒色(7.5YR1.7/1)が混ざる。
４号ピット	１ｂ区11層	半截	円形	24cm		11cm	4.90m	褐色(7.5YR5/1)粘質土に明赤色(7.5YR5/6)が混ざる。
５号ピット	１ｂ区11層	半截	楕円形	32cm	24cm	6 cm	4.90m	橙色(7.5YR6/8)粘質土に褐色(7.5YR4/4)が混ざる。
６号ピット	１ｂ区11層	半截	円形	30cm		15cm	4.82m	明褐色(7.5YR5/6)粘質土に黒色(7.5YR1.7/1)が混ざる。
７号ピット	１ｂ区11層	半截	円形	30cm		12cm	4.85m	暗褐色(7.5YR3/3)粘質土に明褐色(7.5YR5/6)が混ざる。
８号ピット	１ｂ区11層	半截	円形	26cm		8 cm	4.90m	褐灰色(7.5YR5/1)粘質土に明褐色(7.5YR3/6)が混ざる。
９号ピット	１ｂ区11層	半截	円形	24cm		7 cm	4.91m	褐灰色(7.5YR5/1)粘質土に明褐色(7.5YR3/6)が混ざる。
10号ピット	１ｂ区11層	半截	円形	24cm		10cm	4.86m	褐灰色(7.5YR5/1)粘質土に明褐色(7.5YR3/6)が混ざる。
３号土坑	３ｂ区７層	完掘	楕円形	42cm	25cm	4 cm	5.14m	灰褐色(5YR4/2)粘質土
４号土坑	３ｂ区７層	完掘	楕円形	70cm		8 cm	5.10m	灰褐色(5YR4/2)粘質土
５号土坑	３ｂ区７層	未掘削	削平により掘方未検出					
６号土坑	３ｂ区７層	未掘削	削平により掘方未検出					
７号土坑	３ｂ区７層	未掘削	削平により掘方未検出					
８号土坑	３ｂ区７層	未掘削	楕円形	－	－	－	－	暗赤褐色(5YR3/2)粘質土
11号ピット	３ｂ区７層	半截	円形	38cm		36cm	4.45m	暗赤灰色(2.5YR3/1)粘質土に有機物が混じる。
12号ピット	３ｂ区７層	半截	円形	44cm		12cm	4.70m	灰褐色(5YR4/2)粘質土に有機物が混じる。
13号ピット	３ｂ区７層	半截	楕円形	26cm	21cm	11cm	4.82m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土に，有機物が混じる。
14号ピット	３ｂ区７層	完掘	円形	40cm		22cm	4.74m	黒褐色(7.5YR3/2)粘質土
15号ピット	３ｂ区７層	完掘	円形	16cm		10cm	4.90m	暗褐色(7.5YR3/4)粘質土
16号ピット	３ｂ区７層	完掘	円形	31cm		14cm	4.98m	暗赤褐色(5YR3/2)粘質土
17号ピット	３ｂ区７層	未掘削	円形	20cm		－	－	暗赤褐色(5YR3/2)粘質土
18号ピット	３ｂ区７層	未掘削	円形	12cm		－	－	黒色(5YR1.7/1)粘質土で有機物を多く含む。
19号ピット	３ｂ区７層	未掘削	楕円形	23cm	12cm	－	－	褐灰色(7.5YR4/1)粘質土
20号ピット	３ｂ区７層	未掘削	楕円形	63cm	34cm	－	－	褐灰色(7.5YR4/1)粘質土
21号ピット	３ｂ区７層	未掘削	円形	29cm		－	－	覆土は褐灰色(7.5YR4/1)粘質土
１号溝	３ｂ区７層	完掘	溝状	幅39cm		12cm		黒色(2.5Y2/1)粘質土
２号溝	３ｂ区７層	完掘	溝状	－		6 cm		灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
９号土坑	５区１層	完掘	長楕円形に近い不整形	233cm	119cm	35cm	5.00m	①層：暗赤灰色(2.5YR3/1)粘質土に赤褐色(2.5YR4/6)の焼土塊が混じる。 ②層：灰褐色(7.5YR4/2)粘質土に黒色(7.5YR1.7/1)の有機物及び赤色(10R5/1)の焼土塊が混じる。
10号土坑	５区１層	未掘削	長楕円形に近い不整形	310cm	155cm	－	－	褐灰色(7.5YR5/1)粘質土に黒色(7.5YR2/1)の有機物及び赤色(10R5/8)の焼土塊が混じる。
11号土坑	５区１層	未掘削	円形	153cm		－	－	褐灰色(7.5YR5/1)粘質土に黒色(7.5YR2/1)の有機物及び赤色10R5/8)の焼土塊が混じる。
12号土坑	５区１層	半截	円形	130cm		6 cm	5.14m	褐灰色(7.5YR5/1)粘質土に黒色(7.5YR3/1)の有機物が混じる。
13号土坑	５区１層	完掘	円形	152cm		10cm	5.12m	褐灰色(5YR5/1)粘質土に黒色(5YR1.7/1)の有機物及び明赤褐色(5YR5/8)が混じる。
14号土坑	５区１層	半截	楕円形に近い不整形	－	136cm	10cm	5.15m	黒褐色(5YR3/1)粘質土に黒色(5YR1.7/1)の有機物及び明赤褐色(5YR5/8)が混じる。
22号ピット	５区１層	半截	楕円形	22cm	18cm	10cm	5.11m	褐色(7.5YR4/3)粘質土
23号ピット	５区１層	1/4截	円形	30cm		11cm	5.11m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
24号ピット	５区１層	半截	円形	24cm		14cm	5.05m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
25号ピット	５区１層	半截	円形	24cm		6 cm	5.12m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
26号ピット	５区１層	半截	円形	22cm		13cm	5.05m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
27号ピット	５区１層	半截	楕円形	36cm	24cm	12cm	5.10m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
28号ピット	５区１層	半截	円形	40cm		15cm	5.05m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
29号ピット	５区１層	半截	円形	24cm		12cm	5.06m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
30号ピット	５区１層	完掘	円形	16cm		9 cm	5.11m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
31号ピット	５区１層	半截	円形	46cm		8 cm	5.10m	褐灰色(7.5YR4/1)粘質土
32号ピット	５区１層	半截	円形	60cm		4 cm	5.17m	褐色(7.5YR4/3)粘質土

33号ピット	5区1層	完掘	円形	32cm	4cm	5.17m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
34号ピット	5区1層	半截	円形	56cm	14cm	5.08m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
35号ピット	5区1層	半截	円形	22cm	16cm	5.05m	褐色(7.5YR4/3)粘質土
36号ピット	5区1層	半截	円形	24cm	12cm	5.09m	褐色(7.5YR4/3)粘質土
37号ピット	5区1層	半截	円形	24cm	13cm	5.06m	褐色(7.5YR4/3)粘質土
38号ピット	5区1層	半截	円形	20cm	12cm	5.09m	灰褐色(7.5YR5/2)粘質土
39号ピット	5区1層	半截	円形	28cm	21cm	4.98m	灰褐色(7.5YR5/2)粘質土
40号ピット	5区1層	半截	円形	32cm	17cm	5.04m	灰褐色(7.5YR6/2)粘質土
41号ピット	5区1層	半截	円形	22cm	10cm	5.11m	灰褐色(7.5YR5/2)粘質土
42号ピット	5区1層	半截	円形	39cm	14cm	5.05m	灰褐色(7.5YR5/2)粘質土
43号ピット	5区1層	半截	円形	36cm	18cm	5.05m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土に黒色(7.5YR1.7/1)が混じる。
44号ピット	5区1層	半截	円形	32cm	10cm	5.10m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土に黒色(7.5YR1.7/1)が混じる。
45号ピット	5区1層	半截	円形	28cm	11cm	5.09m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土に黒色(7.5YR1.7/1)が混じる。
46号ピット	5区1層	半截	円形	20cm	12cm	5.08m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土に黒色(7.5YR1.7/1)が混じる。
47号ピット	5区1層	半截	円形	30cm	12cm	5.07m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土に黒色(7.5YR1.7/1)が混じる。
48号ピット	5区1層	半截	円形	22cm	10cm	5.10m	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土

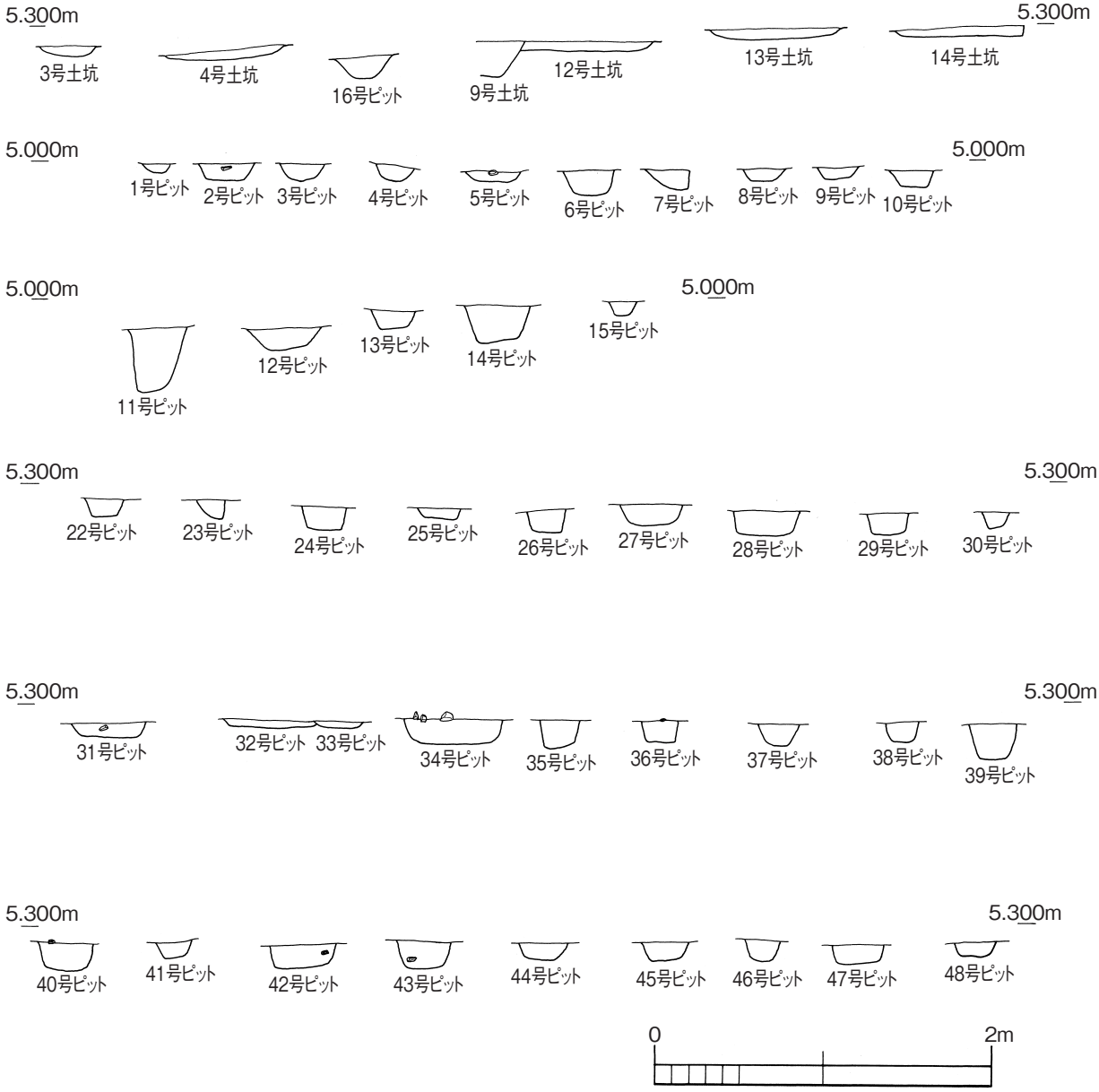


図9　土坑・ピット断面図（1/40）

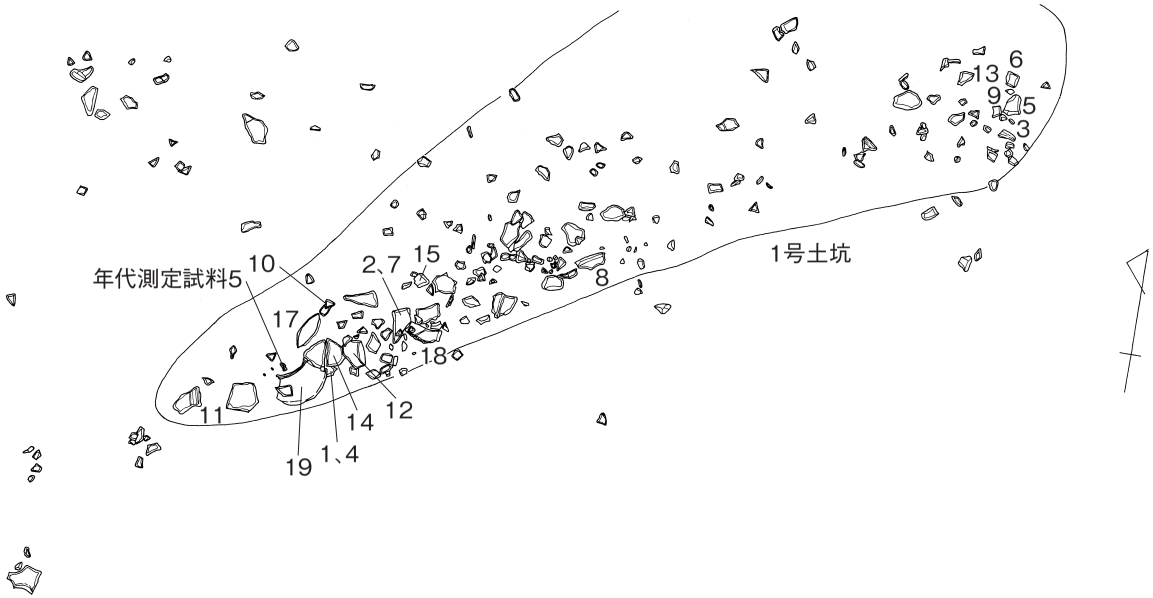


図10　1b区1号土坑（1/20）

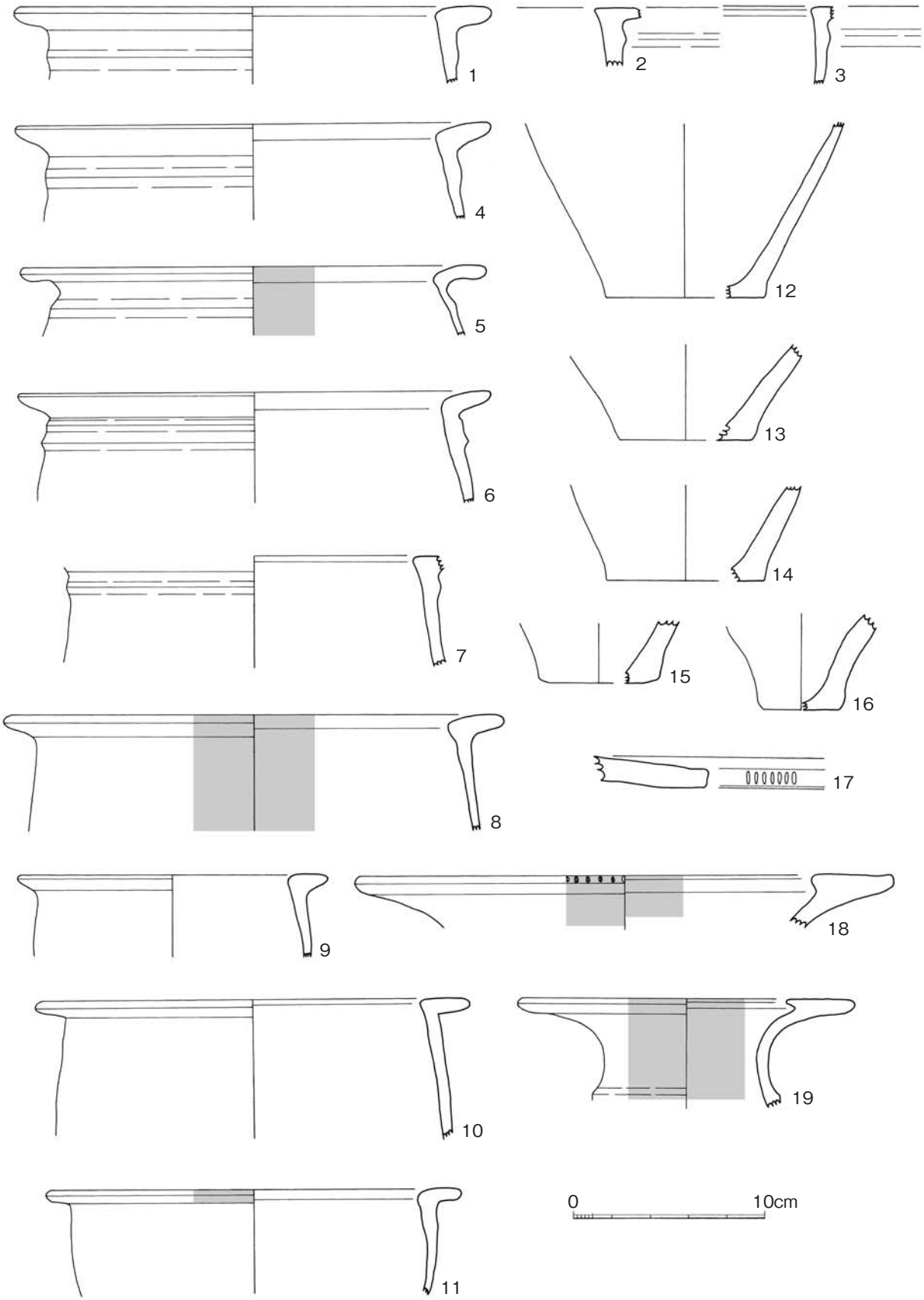


図11　1b区1号土坑出土土器（S＝1／3）

２号土坑（図12）

１ｂ区11層で検出し，内部を完掘した。平面は円形に近い不整形を呈しており，長軸は150㎝，短軸は136㎝である。残存深は25㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.07ｍである。覆土は１層で，褐灰色（7.5YR4/1）粘質土に黒色（7.5YR1.7/1）の有機物が混じる。土坑内にはテラス状の平坦部がある。遺物が多量に出土したため出土遺物については２面に分けて収拾した。検出状況（上部）では土坑全面に弥生土器片が散在する状況であり，土坑外にも一部，本来土坑に伴っていたと推定される遺物が分布していた（写真２）。土坑下部では底面に残存状況の良好な大きな弥生土器片が集中して出土した（写真３）。このことと，出土状況断面でも示されるように，土器は土坑最底部の傾斜に沿って出土していることから人為的に遺物を廃棄した状況を窺うことができる。

【遺物】（図13，14）

須玖Ⅱ式を主体とする甕，壺，高杯，碗が出土している。丹塗土器としては甕，壺，袋状口縁壺，高杯が出土している。２号土坑で出土した甕は遠賀川以西系が多く，遠賀川以東系の跳ね上げ口縁甕は出土しなかった（註１）。

１号ピット（図４，9）

１ｂ区11層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は18㎝である。残存深は６㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.95ｍである。覆土は１層で，褐灰色（7.5YR5/1）粘質土に明赤色（7.5YR5/6）が混ざる。

２号ピット（図４，９）

１ｂ区11層で検出し，内部を半截した。平面は楕円形を呈し，長軸は32㎝，短軸は24㎝である。残存深は10㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.90ｍである。覆土は１層で，褐灰色（7.5YR5/1）粘質土に明赤色（7.5YR5/6）が混ざる。

３号ピット（図４，９）

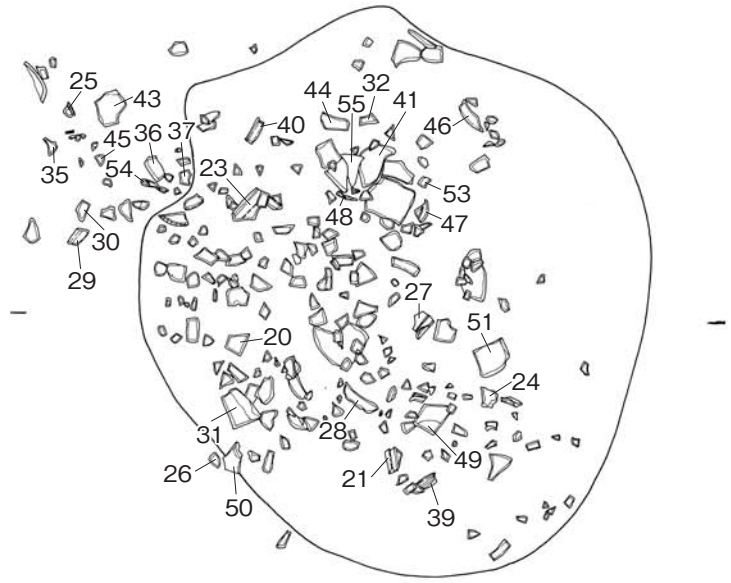
１ｂ区11層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は28㎝である。残存深は10㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.90ｍである。覆土は１層で，褐灰色（7.5YR4/1）粘質土に黒色（7.5YR1.7/1）が混ざる。

４号ピット（図４，９）

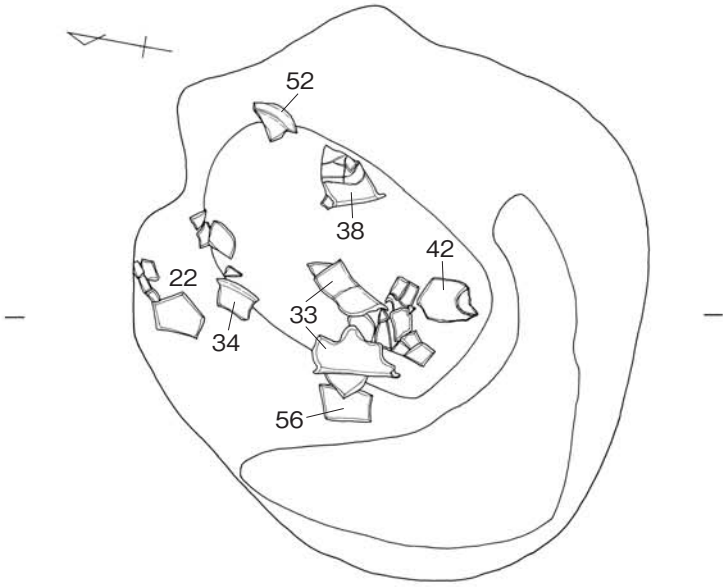
１ｂ区11層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は24㎝である。残存深は11㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.90ｍである。覆土は１層で，褐色（7.5YR5/1）粘質土に明赤色（7.5YR5/6）が混ざる。

５号ピット（図４，９）

１ｂ区11層で検出し，内部を半截した。平面は楕円形を呈し長軸は32㎝，短軸は24㎝である。残存



覆土1面



覆土2面・床面

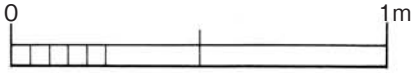


図12　1b区2号土坑（1/20）

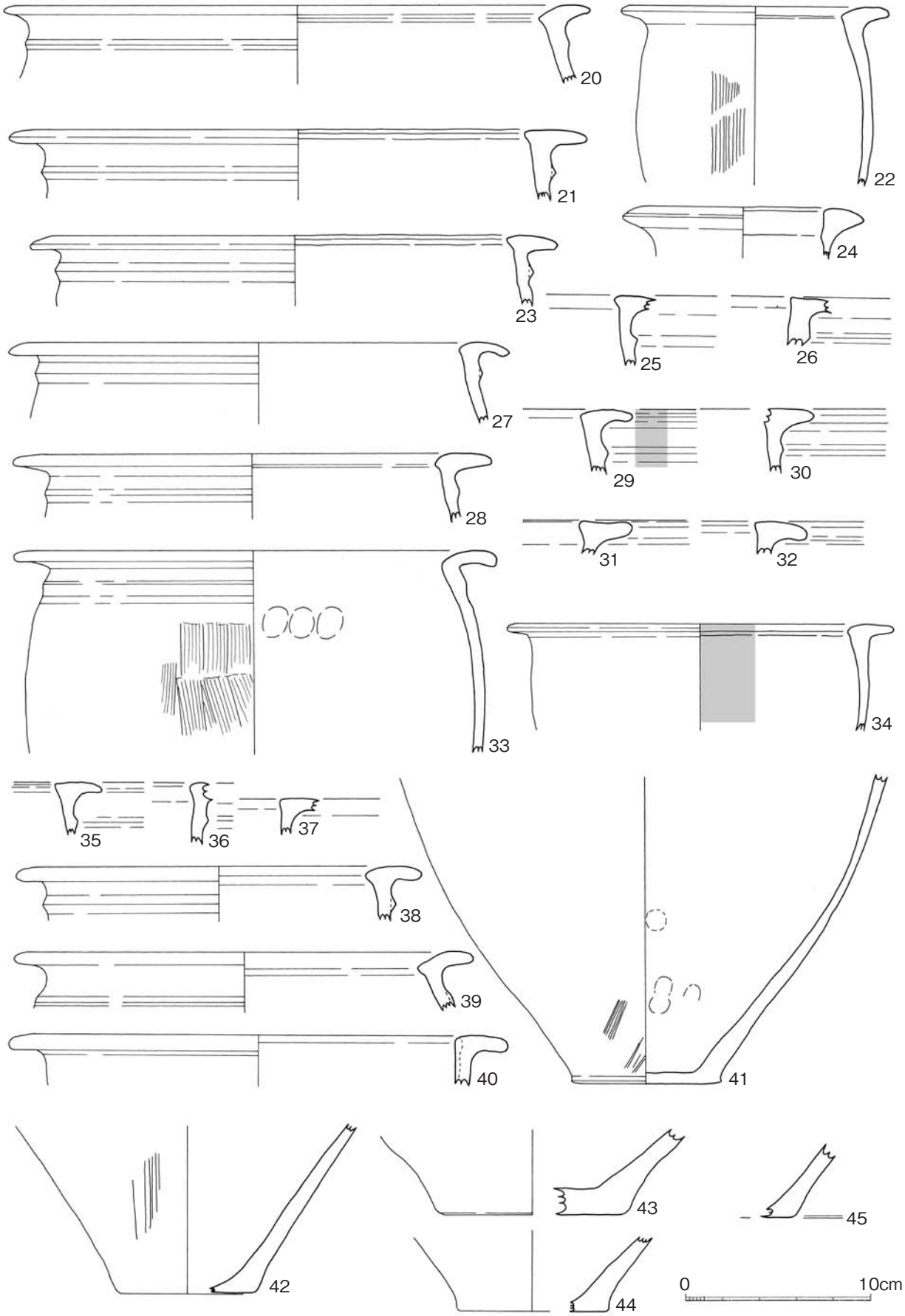


図13　1ｂ区２号土坑出土土器（Ｓ＝１／３）

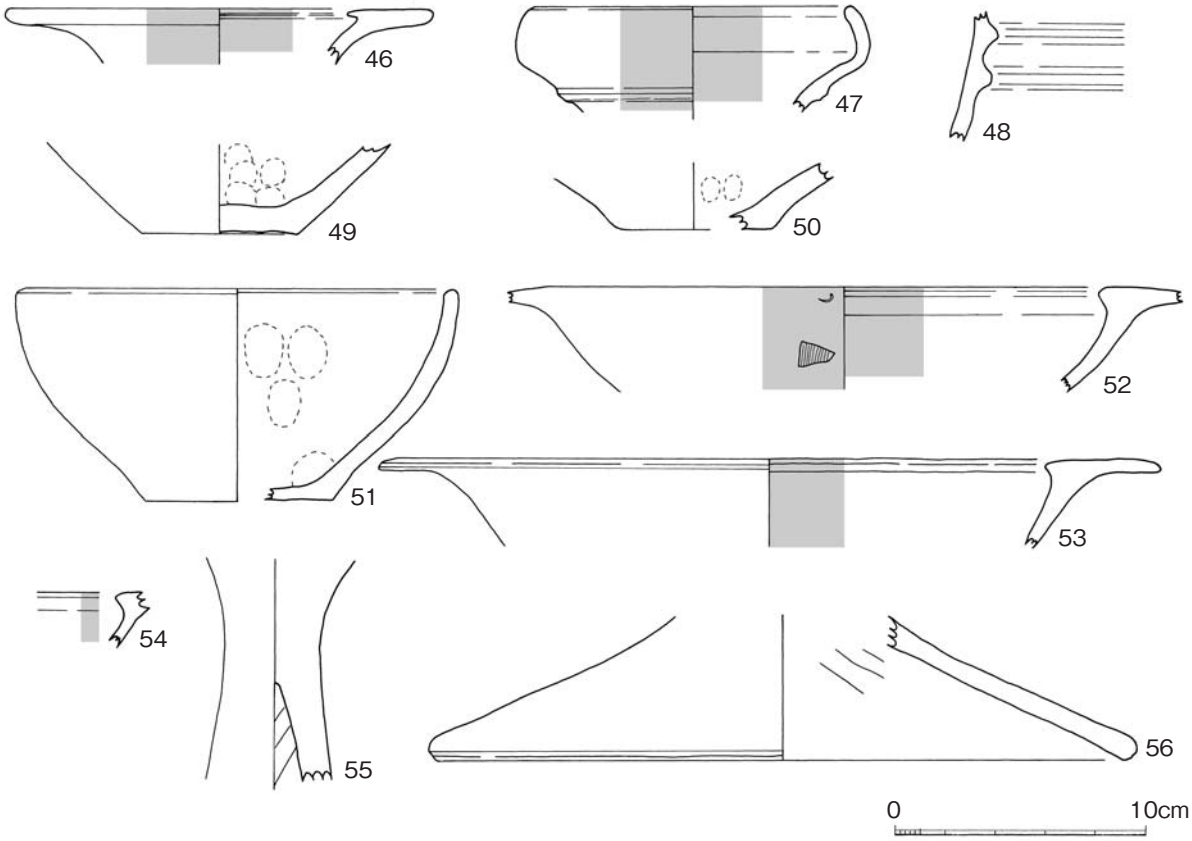


図14　1ｂ区２号土坑出土土器（Ｓ＝１／３）

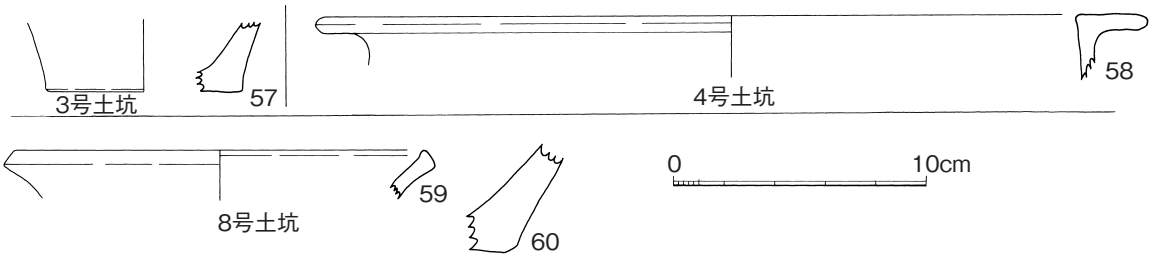


図15　3ｂ区土坑出土土器（Ｓ＝１／３）

深は６㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.90mである。覆土は１層で，橙色（7.5YR6/8）粘質土に褐色（7.5YR4/4）が混ざる。

６号ピット（図４，９）

１ｂ区11層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は30㎝である。残存深は15㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.82mである。覆土は１層で，明褐色（7.5YR5/6）粘質土に黒色（7.5YR1.7/1）が混ざる。

７号ピット（図４，９）

１ｂ区11層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は30㎝である。残存深は12㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.85mである。覆土は１層で，暗褐色（7.5YR3/3）粘質土に明褐色（7.5YR5/6）が混ざる。

８号ピット（図４，９）

１ｂ区11層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は26㎝である。残存深は８㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.90mである。覆土は１層で，褐灰色（7.5YR5/1）粘質土に明褐色（7.5YR3/6）が混ざる。

９号ピット（図４，９）

１ｂ区11層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は24㎝である。残存深は７㎝であるが，上部は既に削平を受けていらものとみられる。底面の標高は4.91mである。覆土は１層で，褐灰色（7.5YR5/1）粘質土に明褐色（7.5YR3/6）が混ざる。弥生土器を含む。

10号ピット（図４，９）

１ｂ区11層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は24㎝である。残存深は10㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.86mである。覆土は１層で，褐灰色（7.5YR5/1）粘質土に明褐色（7.5YR3/6）が混ざる。

⑵　３区検出遺構

３号土坑（図９，16）

３ｂ区７層で検出し，完掘した。平面は楕円形を呈しており，長軸は42㎝，短軸は25㎝である。残存深は４㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.14mである。覆土は１層で，灰褐色（5YR4/2）粘質土である。弥生土器の細片が集中して出土した。

【遺物】（図15）

甕底部が出土している。

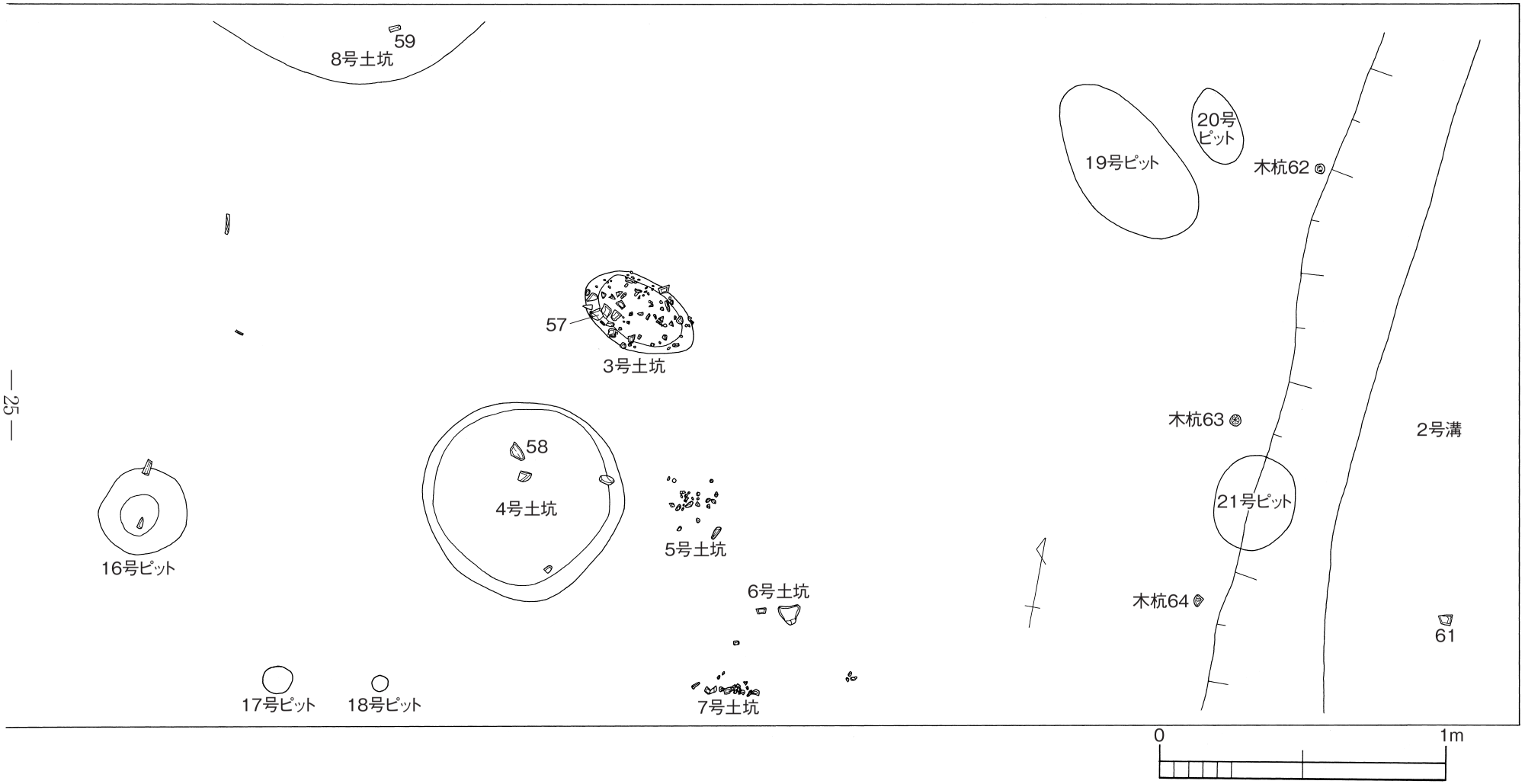


図16　3ｂ区東側遺構図（1/20）

4号土坑（図９，16）

３ｂ区７層で検出し，完掘した。平面は楕円形を呈しており，直径は70cmである。残存深は８cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.10mである。覆土は１層で，灰褐色（5YR4/2）粘質土である。弥生土器，黒曜石が出土した。

【遺物】（図15）

須玖Ⅱ式甕口縁部が出土している。

5号土坑（土器集中部）（図16）

３ｂ区７層で検出した。土器が集中して出土しているが，掘方は確認できなかった。本来は土坑で上部が大きく削平を受けたものと推定される。

【遺物】（図15）

遠賀川以東系の跳ね上げ口縁甕口縁部と底部が出土している。

6号土坑（土器集中部）（図16）

３ｂ区７層で検出した。土器が集中して出土しているが，掘方は確認できなかった。本来は土坑で上部が大きく削平を受けたものと推定される。

7号土坑（土器集中部）（図16）

３ｂ区７層で検出した。土器が集中して出土しているが，掘方は確認できなかった。本来は土坑で上部が大きく削平を受けたものと推定される。

8号土坑（図16）

３ｂ区７層で検出した。内部の掘削は行わず，平面を確認後，露出した資料のみを収拾した。調査区の関係で北側の状況は不明であるが，平面は楕円形を呈するものと思われる。表面から観察される覆土は暗赤褐色（5YR3/2）粘質土である。上部は既に削平を受けたものとみられる。遺物は弥生土器が少量出土した。

11号ピット（図６，９）

３ｂ区７層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は38cmである。残存深は36cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.45mである。覆土は１層で，暗赤灰色（2.5YR3/1）粘質土に有機物が混じる。

12号ピット（図６，９）

３ｂ区７層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は44cmである。残存深は12cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.70mである。覆土は１層で，灰褐色（5YR4/2）粘質土に有機物が混じる。

13号ピット（図６，９）

３ｂ区７層で検出し，内部を半截した。平面は楕円形を呈し，長軸は26cm，短軸は21cmである。残存深は11cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.82mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土に，有機物が混じる。

14号ピット（図６，９）

３ｂ区７層で検出し，内部を完掘した。平面は円形を呈し，直径は40cmである。残存深は22cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.74mである。覆土は１層で，黒褐色（7.5YR3/2）粘質土である。

15号ピット（図６，９）

３ｂ区７層で検出し，内部を完掘した。平面は円形を呈し，直径は16cmである。残存深は10cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.90mである。覆土は１層で，暗褐色（7.5YR3/4）粘質土である。

16号ピット（図９，16）

３ｂ区７層で検出し，内部を完掘した。平面は円形を呈し，直径は31cmである。残存深は14cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.98mである。覆土は１層で，暗赤褐色（5YR3/2）粘質土である。

17号ピット（図16）

３ｂ区７層で検出した。内部の掘削は行わなかった。平面は円形を呈し，直径は20cmである。表面で観察される覆土は暗赤褐色（5YR3/2）粘質土である。

18号ピット（図16）

３ｂ区７層で検出した。内部の掘削は行わなかった。平面は円形を呈し，直径12cmである。表面で観察される覆土は黒色（5YR1.7/1）粘質土で有機物を多く含む。木杭の痕跡であると推定される。

19号ピット（図16）

３ｂ区７層で検出した。内部の掘削は行わなかった。平面は楕円形を呈し，長軸23cm，短軸12cmである。表面で観察される覆土は褐灰色（7.5YR4/1）粘質土である。

20号ピット（図16）

３ｂ区７層で検出した。内部の掘削は行わなかった。平面は楕円形を呈し，長軸63cm，短軸34cmである。表面で観察される覆土は褐灰色（7.5YR4/1）粘質土である。

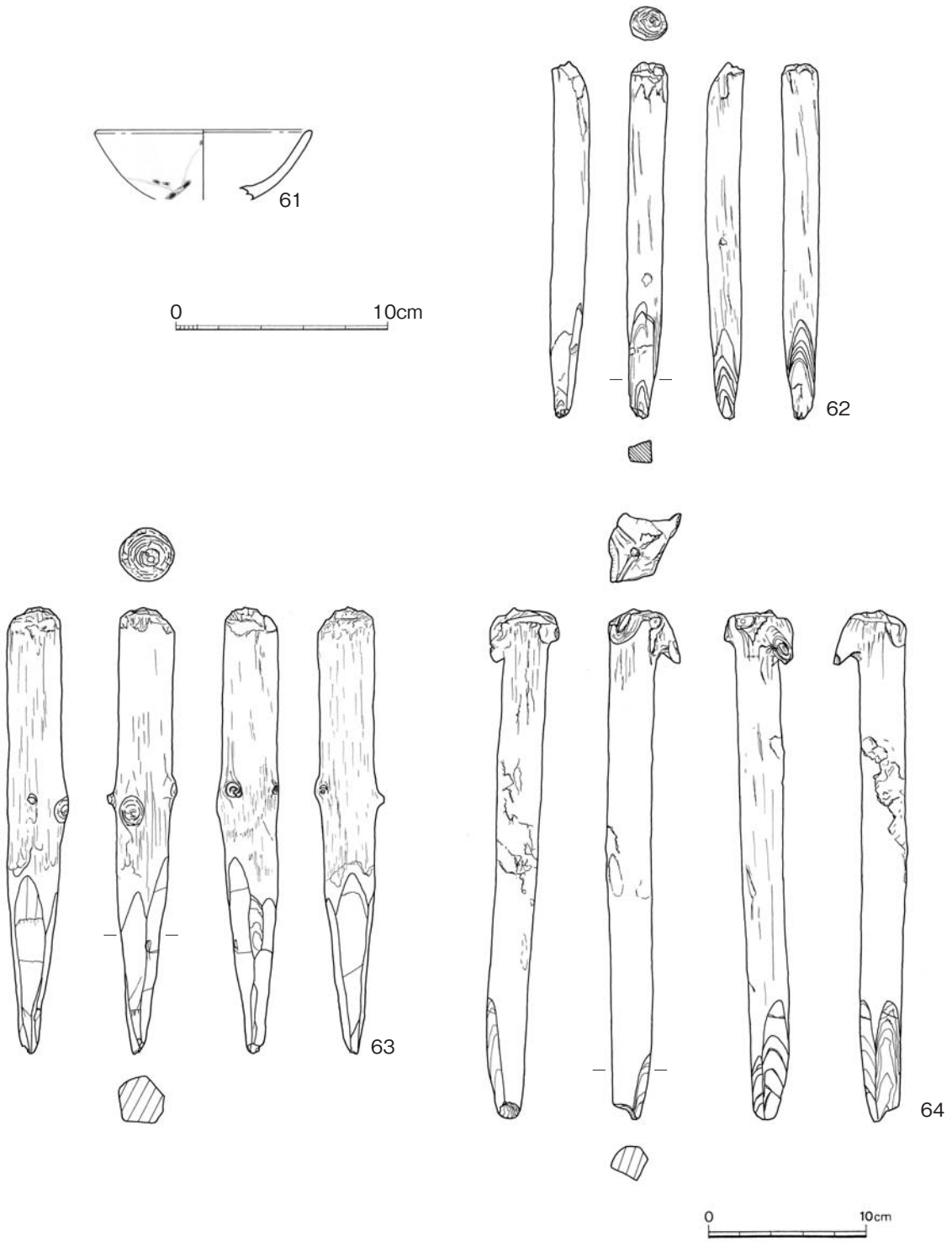


図17　3ｂ区２号溝出土磁器（Ｓ＝１／３）・木製品（Ｓ＝１／４）

21号ピット（図16）

３ｂ区７層で検出した。内部の掘削は行わなかった。平面は円形を呈し，直径29cmである。表面で観察される覆土は褐灰色（7.5YR4/1）粘質土である。２号溝に上部を切られている。

１号溝（図６）

３ａ区で検出された。７層を掘り込んでいる。内部を完掘した。南北方向に走る。幅39cmで，断面は緩やかに立ち上がる。残存深は12cmであるが，上部は削平を受けているものと考えられる。覆土は１層で，黒色（2.5Y2/1）粘質土である。遺物は出土しなかった。

２号溝（図16）

３ｂ区で検出された。１層を掘り込んでいる。内部を完掘した。南北方向に走る。断面は緩やかに立ち上がる。残存深は６cmであるが，上部は削平を受けているものと考えられる。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。この溝覆土から近世磁器片が出土しており，近世の所産であると判断される。この溝に沿って木杭が３本確認された。62と63の間隔は93cm，63と64の間隔は64cmである。これらの木杭は溝に沿って打ち込まれていることからみて，溝と関係のある木杭であるとみられ，同時期の所産であると推定される。

【遺物】（図17）

覆土から近世染付碗（61）が出土している。

⑶　５区検出遺構（写真６）

９号土坑（図18）

５区１層で検出し，内部を完掘した。平面は長楕円形に近い不整形を呈し，長軸233cm，短軸119cmである。残存深は35cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.00mである。覆土は２層に分層され，①層は暗赤灰色（2.5YR3/1）粘質土に赤褐色（2.5YR4/6）の焼土塊が混じる。②層は灰褐色（7.5YR4/2）粘質土に黒色（7.5YR1.7/1）の有機物及び赤色（10R5/1）の焼土塊が混じる。土坑内にはテラス状の平坦部２箇所がある。遺物が多量に出土したため①層出土遺物については２面に分けて収拾し，②層出土遺物については１面で収拾した。①層においては検出状況（１面）では土器細片を中心に土坑内に散在して出土しているが（写真７），下部（２面）では中央部・南部を中心に比較的遺存状況が良好な大きな土器破片が出土している。②層においては土坑中央部を中心に遺存状況が良好な比較的大きな土器片が群をなして出土している。特に②層では１個体を復元できる土器がまとまって出土していることも注意される。①層と②層に跨って出土する資料や接合することができる資料も確認されるため，①層埋没後，ほどなく①層も埋没したものと考えられる。出土状況断面でも示されるように，土器が土坑内で散漫に出土するのではなく，ある程度，集中して出土することもこのことを裏付けるものと考えられる。出土遺物の中に丹塗磨研土器，石剣切先片が認められ，祭祀的な要素を持つ土坑である可能性もあるが，断定する積極的な根拠をもたない。また，小さな焼土塊や被熱痕跡のある自然石１点も出土しているが，焼土塊は非常に小さく，面的に確認できるものでもないため，この土坑で火を焚いたものであるかはわからない。

【遺物】

①層出土遺物（図19，20）

須玖Ⅱ式を主体とする甕,壺,高杯などが出土している。丹塗土器としては袋状口縁壺胴部が出土している。甕には遠賀川以東系跳ね上げ口縁甕がみられる。石器としては磨製石剣切先が出土している。

②層出土遺物（図20，21）

須玖Ⅱ式を主体とする甕，壺，高杯などが出土している。丹塗土器としては壺が出土している。甕には遠賀川以東系跳ね上げ口縁甕がみられる。石器としては砥石が出土している。

10号土坑（図22）

５区１層で検出した。内部の掘削は行わず，平面を確認後，露出した資料のみを収拾した。平面は長楕円形に近い不整形を呈し，長軸310㎝，短軸155㎝と比較的大型である。表面から観察される覆土は褐灰色（7.5YR5/1）粘質土に黒色（7.5YR2/1）の有機物及び赤色（10R5/8）の焼土塊が混じる。上部は既に削平を受けたものとみられる。遺物は比較的遺存状況が良好で，大きな破片もみられる。土坑内で全面的にみられるが，東側で列状に分布していることが注意される（写真８）。

【遺物】（図24，25）

須玖Ⅱ式を主体とする甕，壺などが出土した。丹塗土器としては甕，壺，高杯が出土した。甕は大部分が遠賀川以西系であるが，わずかに遠賀川以東系もみられる。

116は全体が研磨されているが，上面・下面の１箇所，左面・右面の２箇所を特に強く研磨し，凹部を作り出している。漁網錘などの用途が考えられる。このような遺物の類例は2004年度調査不條地区河道２で出土している（林2005）。この河道２では弥生時代中期後葉から後期初頭の土器が出土しており，今次の調査で検出された５区２号土坑の年代とほぼ同一時期である。

11号土坑（図23）

５区１層で検出した。内部の掘削は行わず，平面を確認後，露出した資料のみを収拾した。南側は調査区の関係で形態は不明であるが，円形を呈するとみられ，直径は153㎝である。表面から観察される覆土は褐灰色（7.5YR5/1）粘質土に黒色（7.5YR2/1）の有機物及び赤色（10R5/8）の焼土塊が混じる。上部は既に削平を受けたものとみられる。遺物は細片が多く，土坑全面に散在している。

【遺物】（図26）

須玖Ⅱ式を主体とする甕が出土した。

12号土坑（図９，18）

５区１層で検出し，内部を半截した。９号土坑によって切られている。平面は本来は円形を呈していたものとみられ，直径は130㎝である。残存深は６㎝で，上部は既に削平を受けたものとみられる。底面の標高は5.14ｍである。表面から観察される覆土は褐灰色（7.5YR5/1）粘質土に黒色（7.5YR3/1）の有機物が混じる。遺物は細片が多く，少量出土した。

【遺物】（図27）

須玖Ⅱ式甕口縁部が出土した。

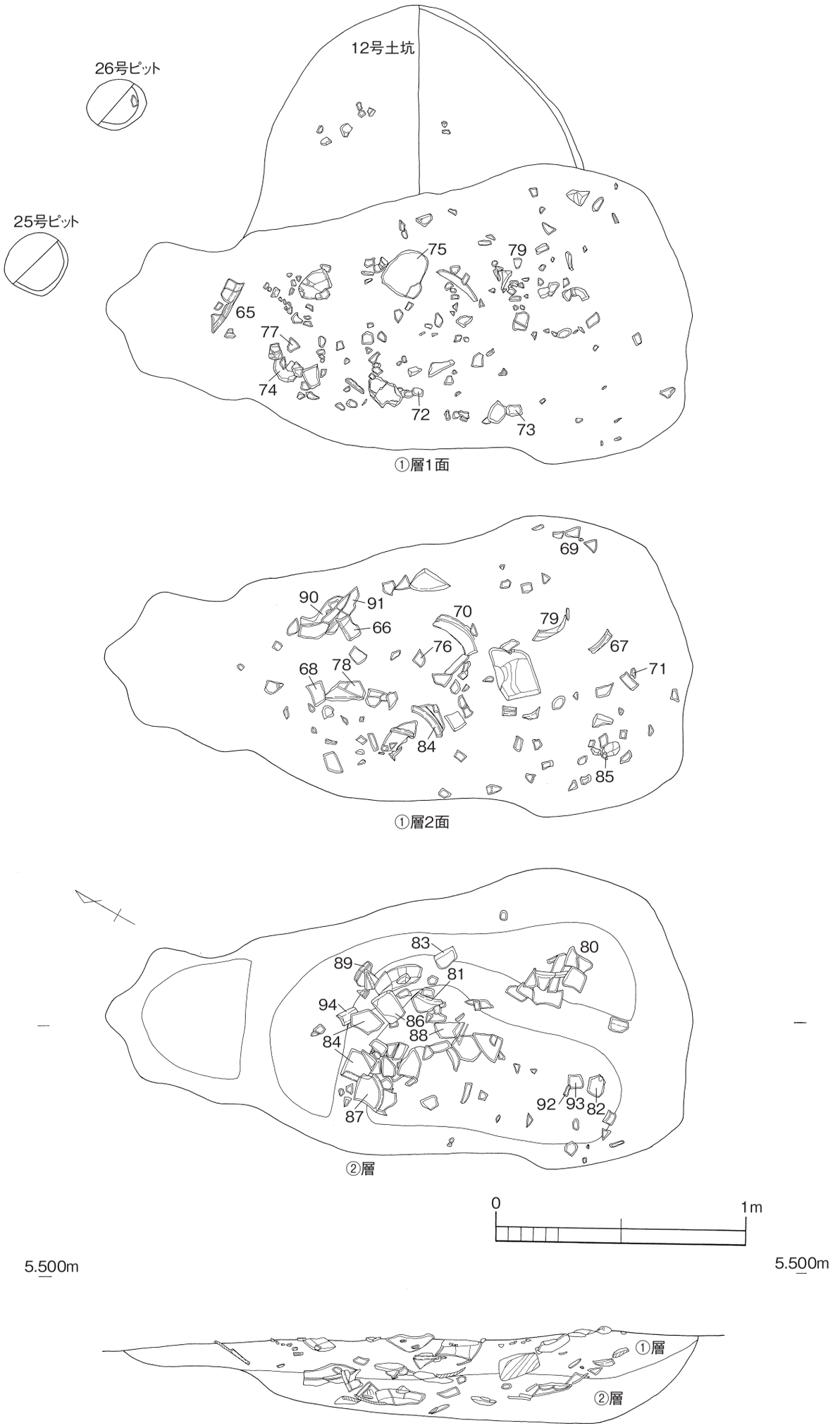


図18　5区9号土坑（1/20）

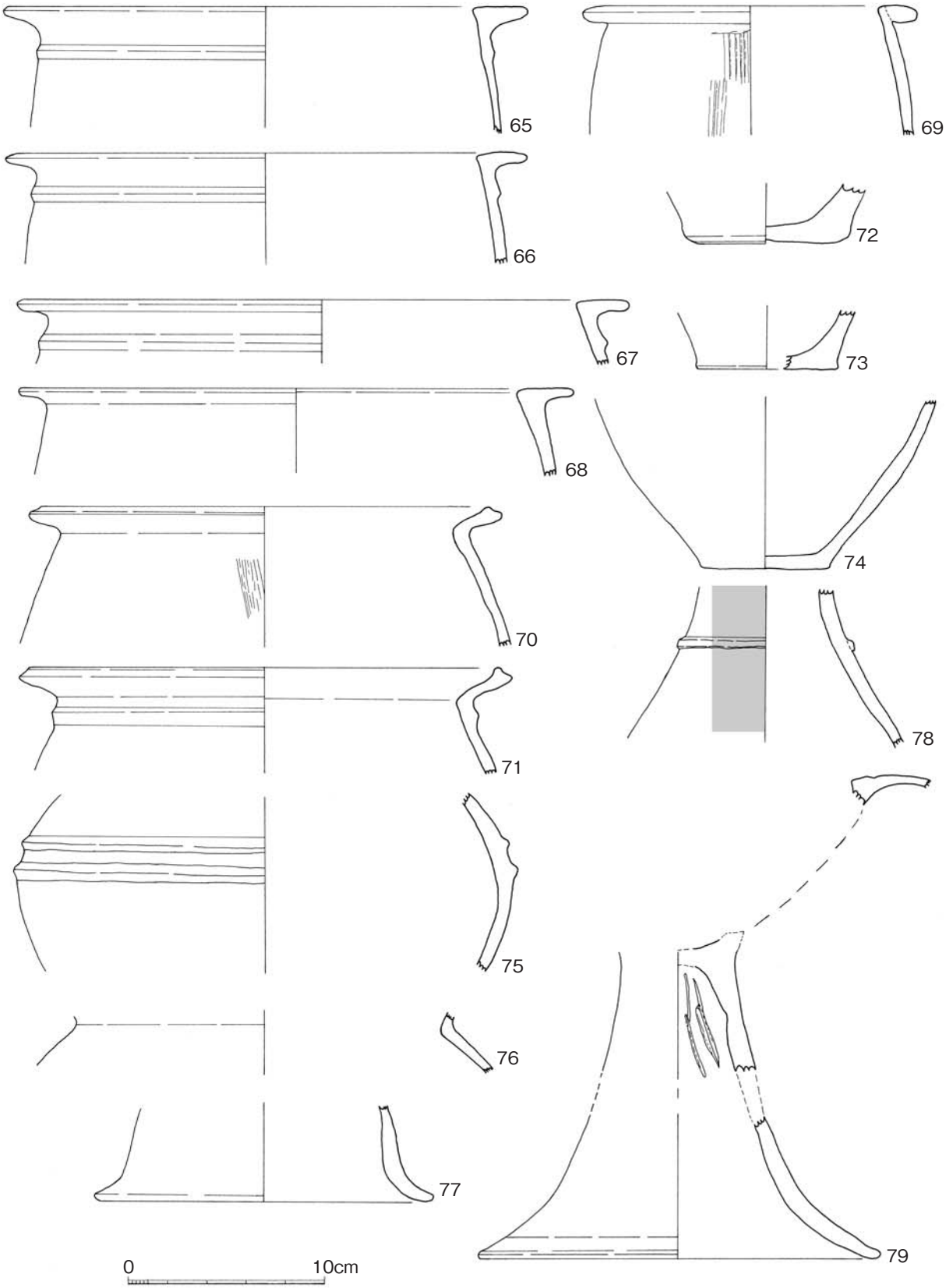


図19　5区9号土坑①層出土土器（S＝1／3）

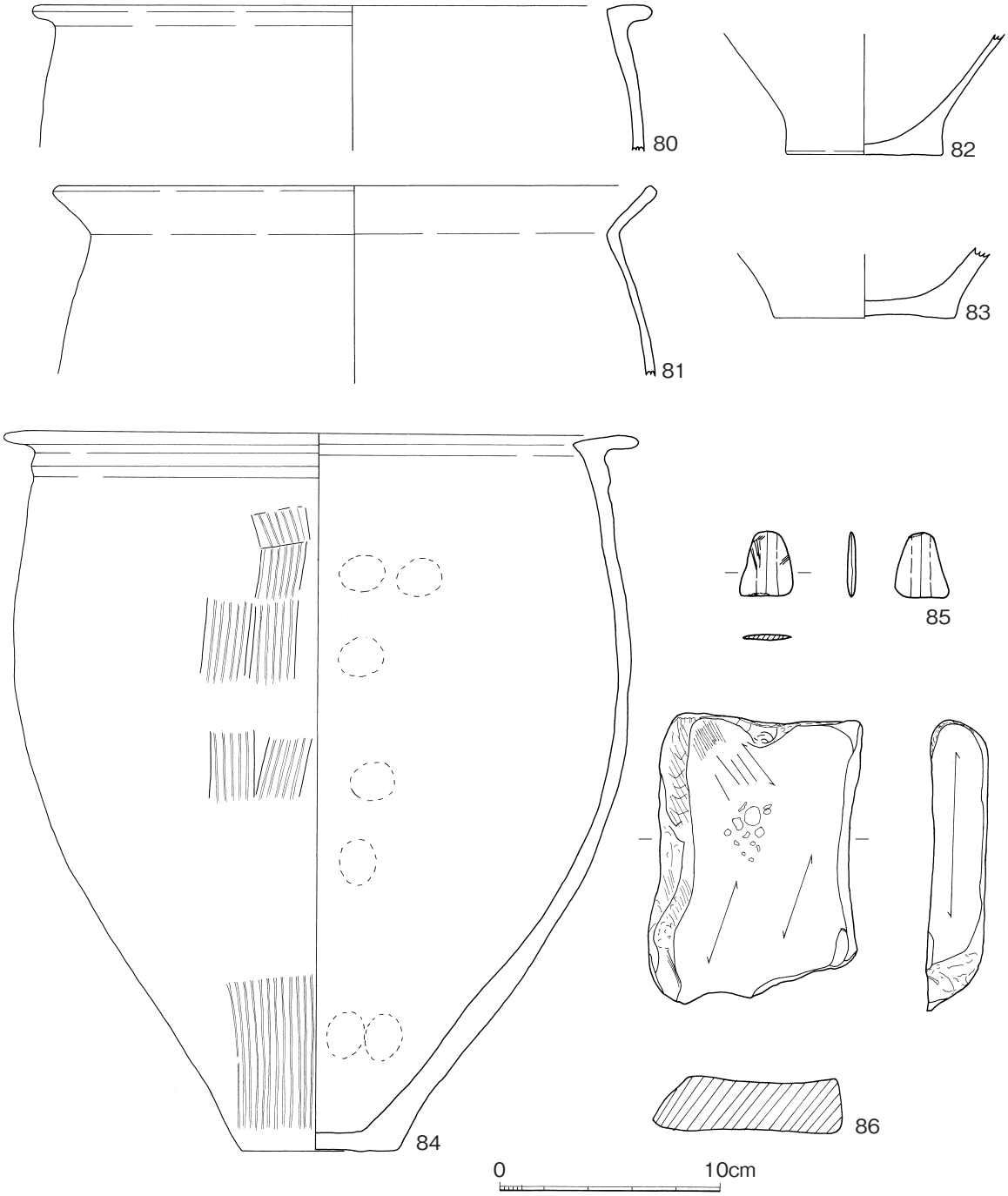


図20　5区9号土坑②層出土土器・①層・②層出土石器（S＝1／3）

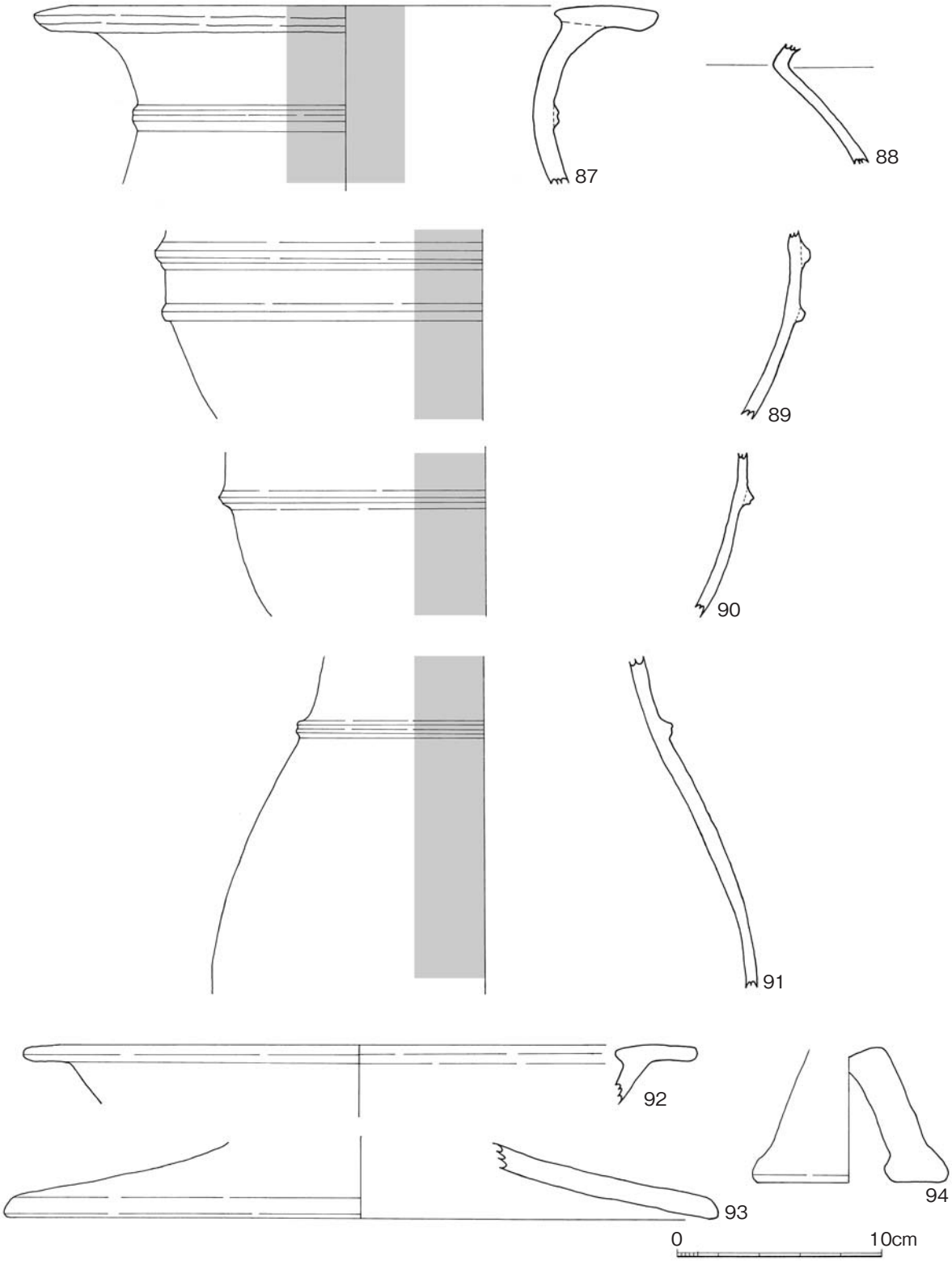


図21　5区9号土坑②層出土土器（S＝1／3）

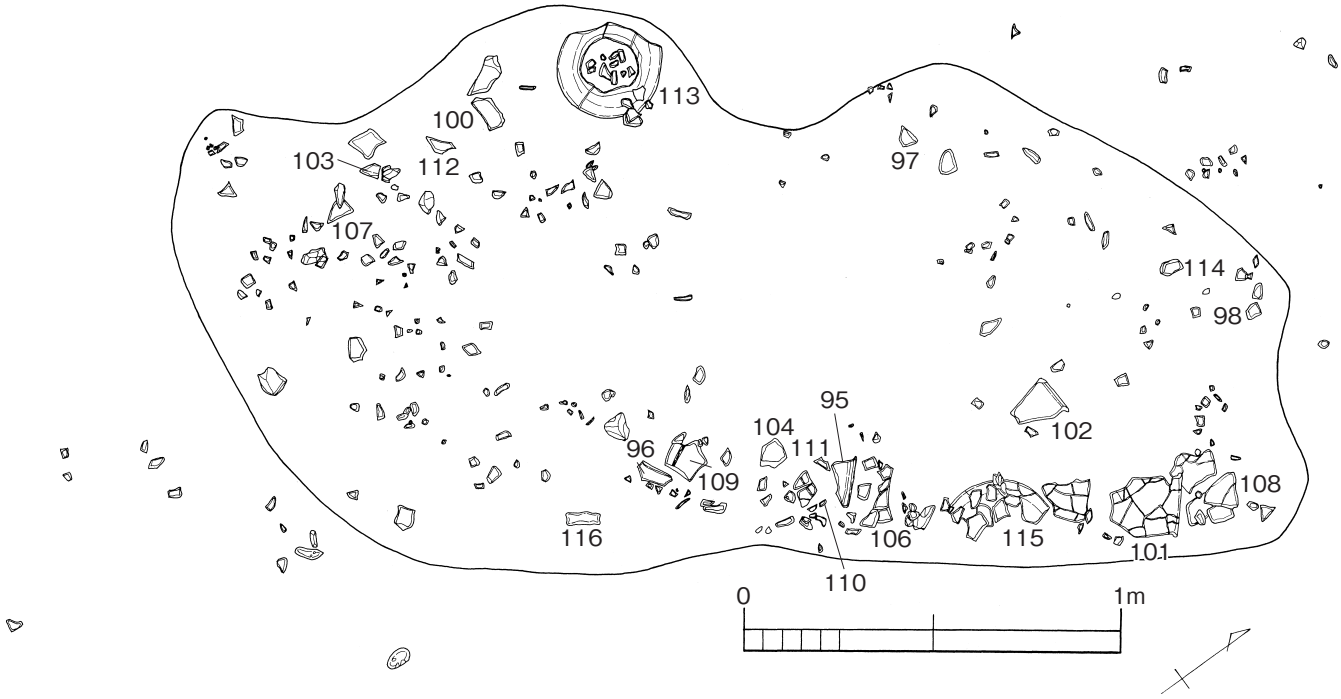


図22　5区10号土坑（1/20）

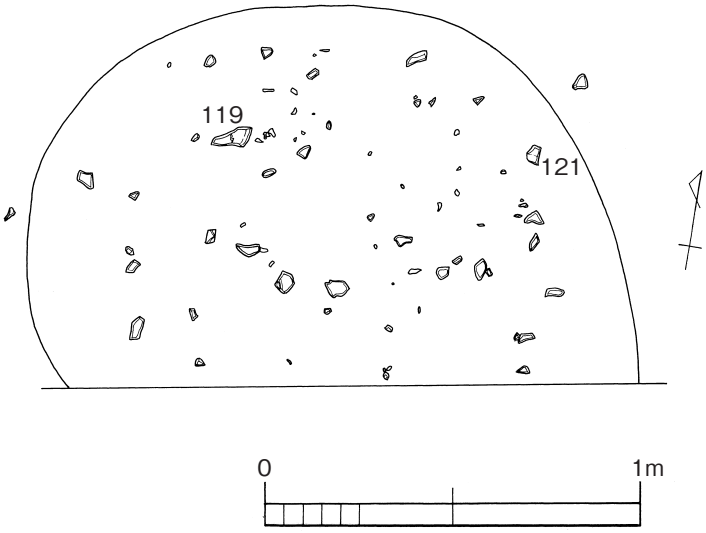


図23　5区11号土坑（1/20）

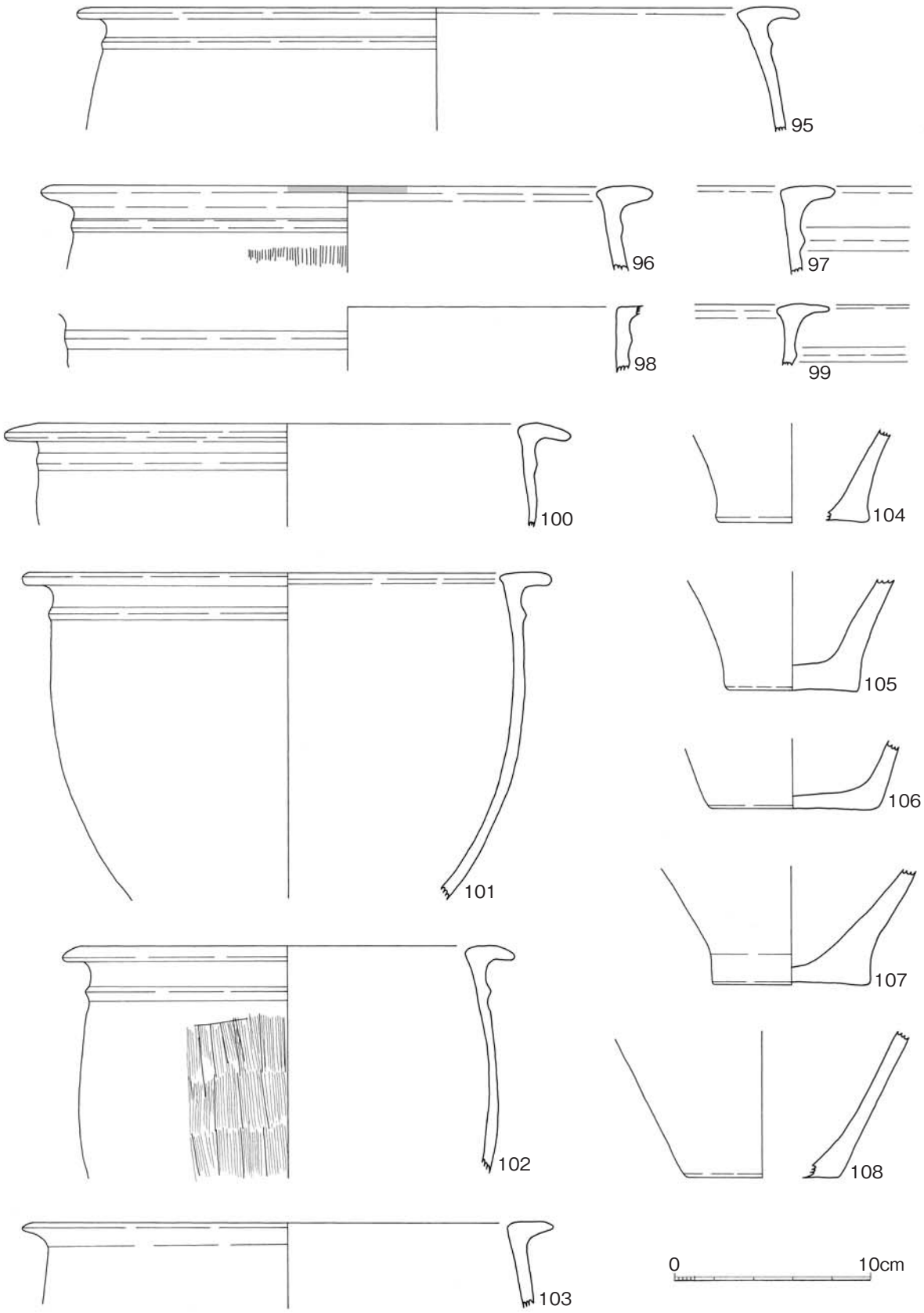


図24　5区10号土坑出土土器（S＝1／3）

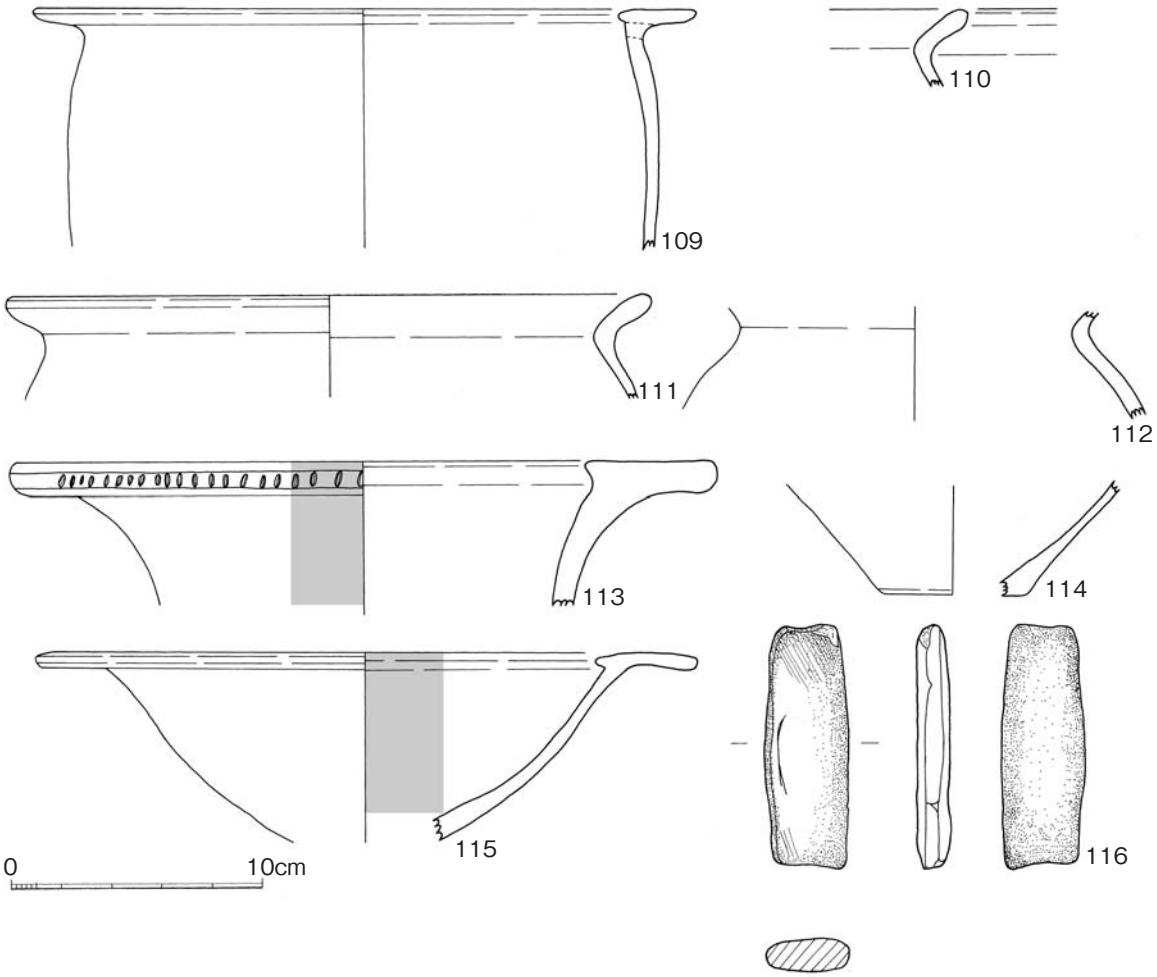


図25　5区10号土坑出土土器・石器（S＝1／3）

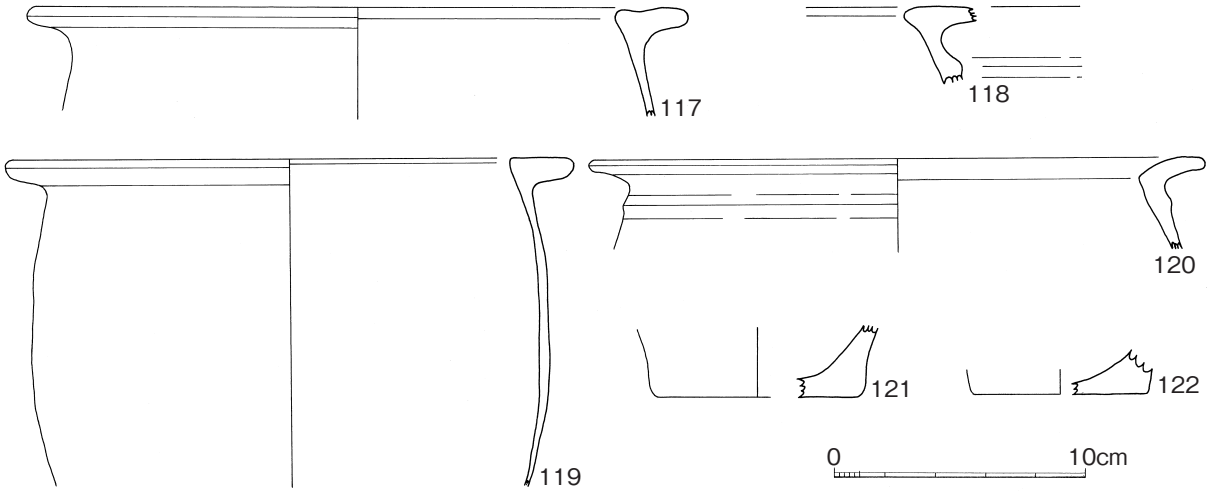


図26　5区11号土坑出土土器（S＝1／3）

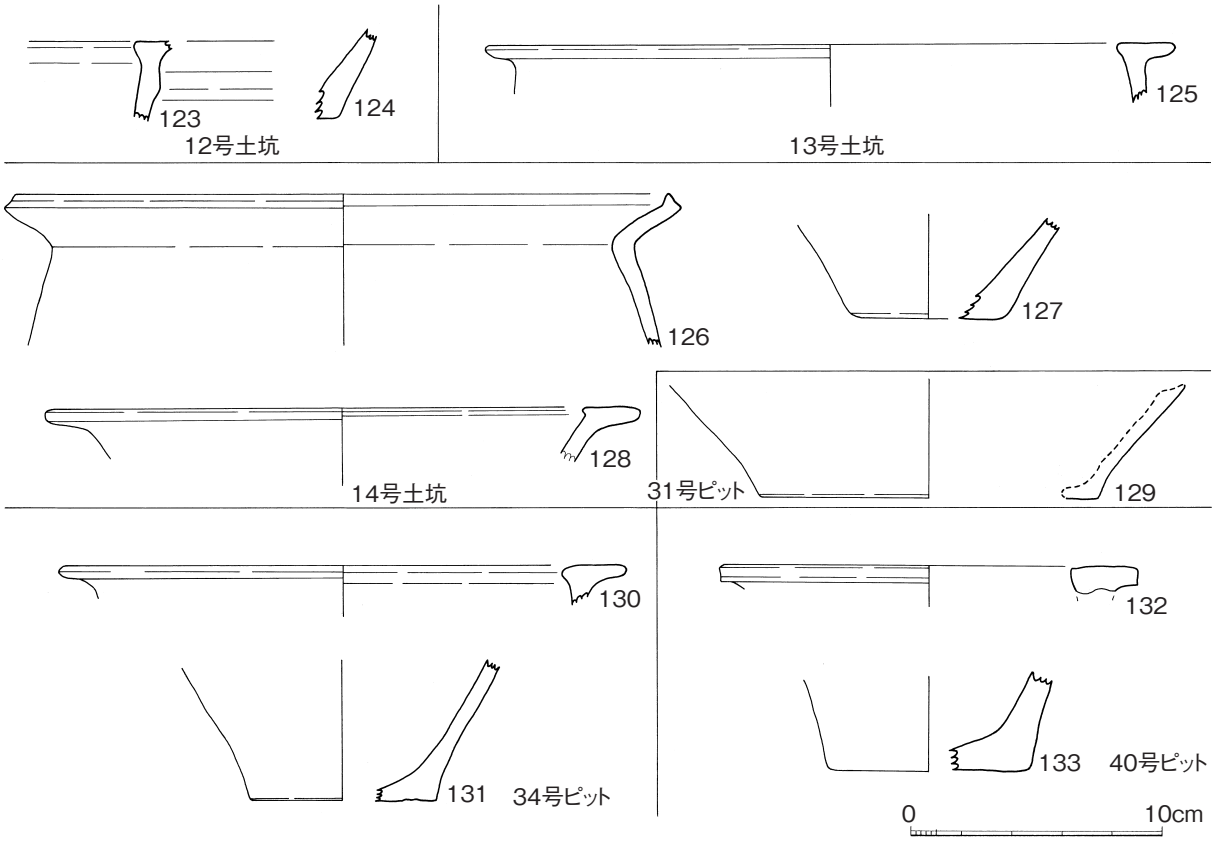


図27　5区土坑・ピット出土土器（S＝1／3）

13号土坑（図８，９）

５区１層で検出した。内部を完掘した。北側は調査区の関係で形態は不明であるが，円形を呈するとみられ，直径は152㎝である。残存深は10㎝で，上部は既に削平を受けたものとみられる。底面の標高は5.12ｍである。表面から観察される覆土は褐灰色（5YR5/1）粘質土に黒色（5YR1.7/1）の有機物及び明赤褐色（5YR5/8）が混じる。遺物は細片が多く，土坑西側で多く出土している。

【遺物】（図27）

須玖Ⅱ式甕口縁部が出土した。

14号土坑（図８，９）

５区１層で検出した。内部を半截した。北部は調査区の関係で形態は不明であるが，楕円形に近い不整形で短軸は136㎝である。残存深は10㎝で，上部は既に削平を受けたものとみられる。底面の標高は5.15ｍである。覆土は１層で，黒褐色（5YR3/1）粘質土に黒色（5YR1.7/1）の有機物及び明赤褐色（5YR5/8）が混じる。遺物は細片が多く，土坑全面に分布している。

【遺物】（図27）

遠賀川以東系跳ね上げ口縁甕口縁部や高杯口縁部が出土した。

22号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は楕円形を呈し，長軸は22㎝，短軸は18㎝である。残存深は10㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.11ｍである。覆土は１層で，褐色（7.5YR4/3）粘質土である。

23号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を1/4截した。平面は円形を呈し，直径は30㎝である。残存深は11㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.11ｍである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

24号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は24㎝である。残存深は14㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.05ｍである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

25号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は24㎝である。残存深は６㎝であるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.12ｍである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

26号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は22cmである。残存深は13cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.05mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

27号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は楕円形を呈し，長軸は36cm，短軸は24cmである。残存深は12cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.10mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

28号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は40cmである。残存深は15cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.05mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

29号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は24cmである。残存深は12cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.06mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

30号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を完掘した。平面は円形を呈し，直径は16cmである。残存深は９cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.11mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

31号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は46cmである。残存深は８cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.10mである。覆土は１層で，褐灰色（7.5YR4/1）粘質土である。

【遺物】（図27）

底部片が出土した。

32号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は60cmである。残存深は４cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.17mである。33号ピットに切られている。覆土は１層で，褐色（7.5YR4/3）粘質土である。

33号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を完掘した。平面は円形を呈し，直径は32cmである。残存深は４cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.17mである。32号ピットを切っている。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

34号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は56cmである。残存深は14cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.08mである。35号ピット及び36号ピットに切られている。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

【遺物】（図27）

甕口縁部と底部が出土した。

35号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は22cmである。残存深は16cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.05mである。34号ピットを切っている。覆土は１層で，褐色（7.5YR4/3）粘質土である。

36号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は24cmである。残存深は12cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.09mである。34号ピットを切っている。覆土は１層で，褐色（7.5YR4/3）粘質土である。

37号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は24cmである。残存深は13cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.06mである。覆土は１層で，褐色（7.5YR4/3）粘質土である。

38号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は20cmである。残存深は12cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.09mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR5/2）粘質土である。

39号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は28cmである。残存深は21cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は4.98mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR5/2）粘質土である。

40号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は32cmである。残存深は17cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.04mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR6/2）粘質土である。

【遺物】（図27）

甕口縁部と底部が出土した。

41号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は22cmである。残存深は10cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.11mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR5/2）粘質土である。

42号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は39cmである。残存深は14cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.05mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR5/2）粘質土である。

43号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は36cmである。残存深は18cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.05mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土に黒色（7.5YR1.7/1）が混じる。

44号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は32cmである。残存深は10cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.10mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土に黒色（7.5YR1.7/1）が混じる。

45号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は28cmである。残存深は11cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.09mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土に黒色（7.5YR1.7/1）が混じる。

46号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は20cmである。残存深は12cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.08mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土に黒色（7.5YR1.7/1）が混じる。

47号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は30cmである。残存深は12cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.07mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土に黒色（7.5YR1.7/1）が混じる。

48号ピット（図８，９）

５区１層で検出し，内部を半截した。平面は円形を呈し，直径は22cmである。残存深は10cmであるが，上部は既に削平を受けているものとみられる。底面の標高は5.10mである。覆土は１層で，灰褐色（7.5YR4/2）粘質土である。

４．自然河川跡及び自然河川跡に伴う遺物

⑴　河川跡の構造

1994年度川原畑地区調査において弥生時代の河川跡が検出されていたが，その北側の調査区である今次の調査においては当該河川跡の延伸状況を確認することができた。河川による堆積土層は１ａ区，２ａ区，２ｂ区，４ａ区，４ｂ区で確認された。３ａ区では確認されなかったものの，３ａ区では後世に削平を受け，新しい土層が堆積しているものとみられ，延伸状況を勘案すると，本来は３ａ区にも河川堆積土層が分布していたものとみられる。

河川堆積土層は一部異なる土色ではあるがおおむね黒褐色を呈しており，１区においては９層，２区においては５層，６層，４区においては５層，６層，6′層，７層，７′層，８層が該当する。また，河川堆積層下部には青灰色系の砂質土や混砂粘質土がみられることが多く，１区10層，２区７層～11層，４区９層～11層が該当する。これまでの調査も含めた河川跡堆積土層の対応表は表３のとおりである。

表３　自然河川関係土層対応表

	1994年度Ｄ１区	1994年度Ｄ２区	1994年度Ｄ３区	2012年度１区	2012年度２区	2012年度４区
河川堆積土	４～13層	５～14層	５～13層	９層	５層，６層	５～８層
河床土層	14層	15層	14層	10層	７～11層	９～11層

１ａ区西側（最低部）の河床面の標高は3.22mである。２ｂ区最底部での河床面の標高は3.10mである。４ｂ区最低部での河床面は3.24mである。現在確認されている河床面の最底部は3.10～3.24mの範囲に収まる。土地の傾斜からは北側から南側に河川が流れていたとみられるが，今次の調査区の範囲では急激な傾斜を示すものではないことが明らかとなった。また，１ａ区東側の河床面の標高は4.54m，２ａ区西側の河床面の標高は4.31m，２ｂ区東側の河床面の標高は4.12m，４ａ区西側の河床面の標高は3.22m，４ｂ区東側での河床面は3.31mである。このことから２ａ区の西側からそれほどはなれていない地点で西岸に至り，１ａ区東側からそれほど離れていない地点（おそらく土層観察用畦の範囲）で東岸に至るものと推定される。この場合，河川の幅は約45mとなる。４ａ区西側の河床面の標高は２ａ区西側の標高とは差異があるため，４ａ区附近の河川西岸はやや離れた地点にあるものと推測される。また，４ｂ区東側の河床面の標高も４ｂ区河床面最低部とほとんど標高差がないため，やや離れた地点に東岸が存在していたものと推測される。但し，５区では河川堆積層は確認されないので，４ｂ区東側から５区西側の範囲に東岸が存在したことは確実である。

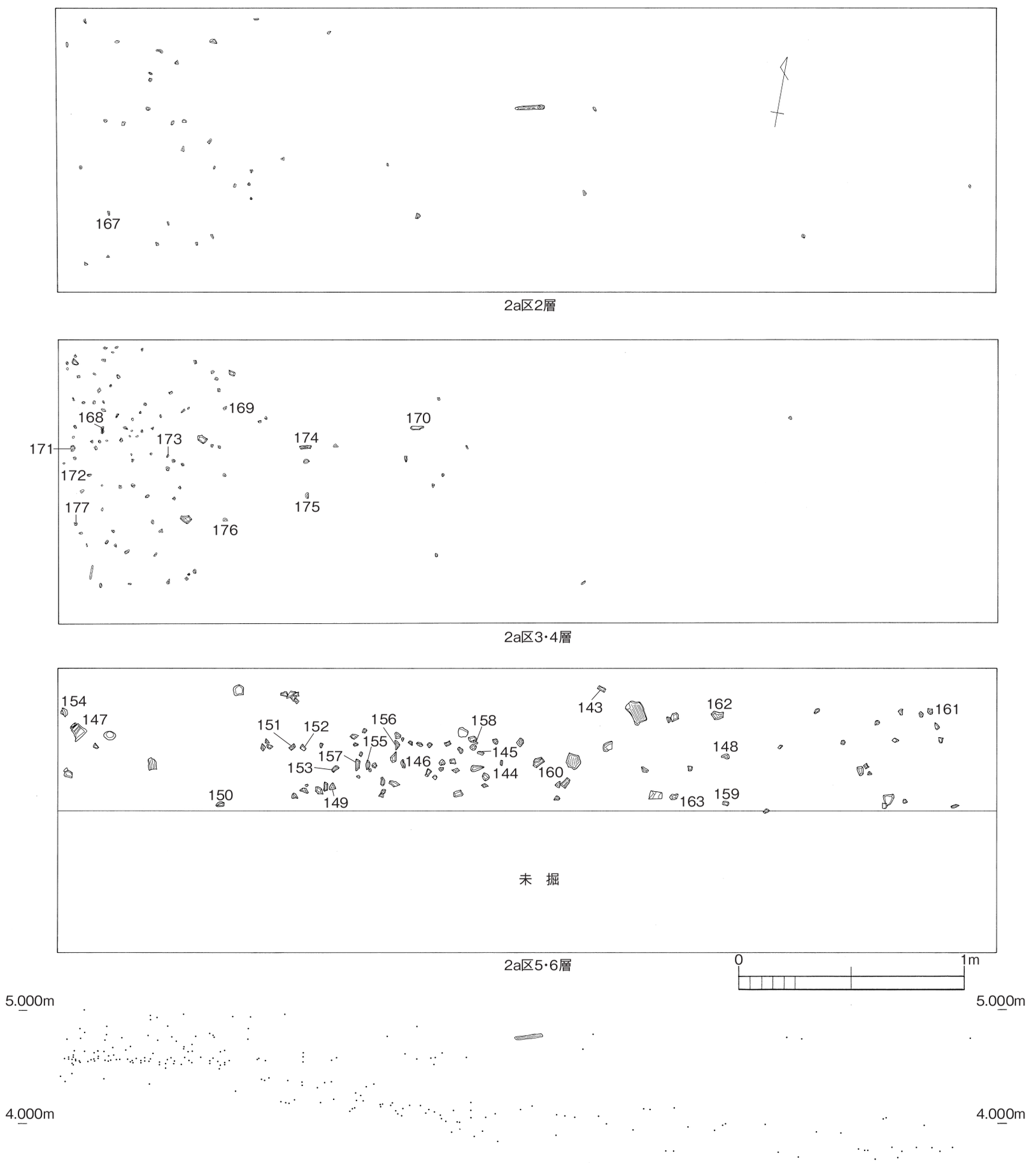


図28　2 a 区 6 層・5 層（河川跡）・4 ～ 2 層遺物出土状況（1/40）

⑵　河川跡からの遺物出土傾向

河川跡から出土した遺物は，基本的に平面図化及び標高測量を行い，出土位置情報を把握している。紙幅及び時間的制約から全てを報告することはできないが，調査区ごとに特徴的な出土傾向がみられたので，以下では調査区ごとに記述する。

・１区９層（図４）

１区で検出された河川堆積土層である９層からは弥生時代中期を中心とする遺物が出土している。遺物の分布は１ａ区内で散漫に分布し，細片が多く，磨耗を受けたものが大部分である。従って，河川により２次堆積したものとみられる。

・２区５層及び６層（図28）

２区で検出された河川堆積土層である５層及び６層からは弥生時代中期を中心とする遺物が多量に出土している。２ａ区と２ｂ区の遺物出土状況を比較すると２ａ区に大部分の遺物が集中する。また，２ａ区内でも中央部から西側にかけて遺物が多く分布している。遺物の大部分は細片で，磨耗を受けている遺物が大部分である。これらの諸点を勘案すると，５層及び６層出土遺物は河川により２次堆積したもので，上流から流れてきた遺物が河川西岸附近の流れの緩慢なところに堆積したものと推測される。

なお，参考として後世に堆積した３層及び４層の出土状況も併せて提示する。２ａ区東側ではほとんど遺物が出土することがなく，西側に集中して遺物が分布する。これらの遺物は本来河川堆積層である５・６層に由来する遺物で，後世に巻き上げられたものとみられる。５・６層出土遺物と比較すると細片が多く，また大部分の遺物が磨耗を受けていることもこれを傍証する。

・４ａ区５層及び８層（図29，カラー写真３，４，写真４）

４ａ区では河川堆積土層として５層と８層がみられる。この内８層では４ａ区東側に集中して遺物が出土した。ここでは,1個体に復元することができる高杯，甕などの遺物が集中して出土した。出土遺物の大部分が遺存状況が良好で，破片も大きく，磨耗もあまりみられない。このような出土状況は上述した１区や２区における河川の作用によって２次堆積した状況とは全く様相を異にする。これは，人為的に投棄され，ほどなく埋没した状況に由来するものとみられる。

・４ｂ区５～８層（図30，カラー写真５，写真５）

４ｂ区では河川堆積土層として５～８層がみられる。この内６層及び6′層では，４ｂ区東側に集中して遺物が出土した。ここでは，調査区が狭小で，また湧水も甚だしかったため，全ての出土土器を平面図化することは不可能であったが，多量の土器片が層をなして出土しており，一種の土器溜のような様相を呈していた。出土土器片の遺存状況は非常に良好で，破片も大きい。また，磨耗もほとんど受けておらず，丹塗土器においては発色も非常に鮮やかであるほどである。このような出土状況は上述した１区や２区における河川の作用によって２次堆積した状況とは全く様相を異にする。これは，４ａ区と同様に人為的に投棄され，ほどなく埋没した状況に由来するものとみられる。

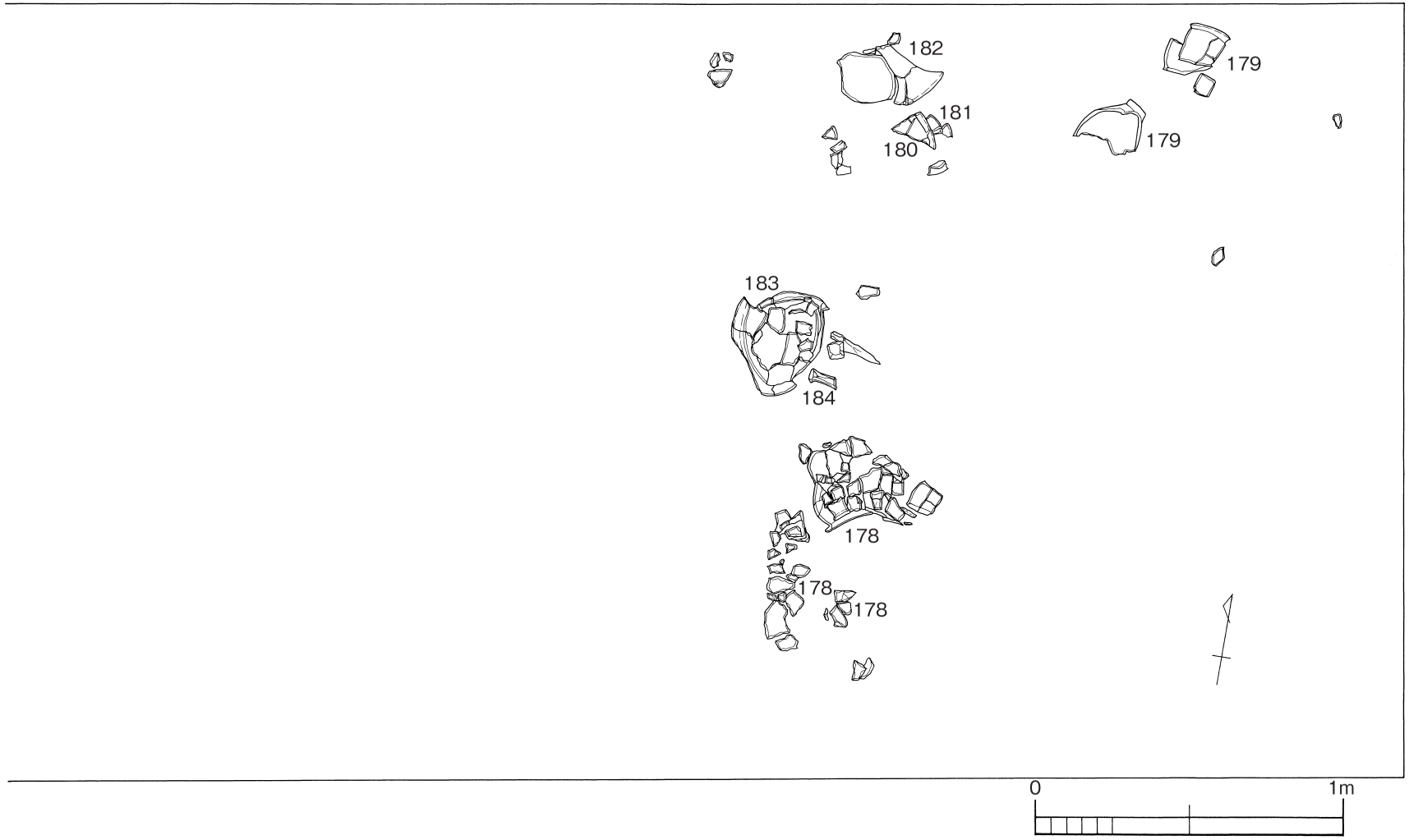


図29　4ａ区東側８層（河川跡）土器出土状況（１/20）

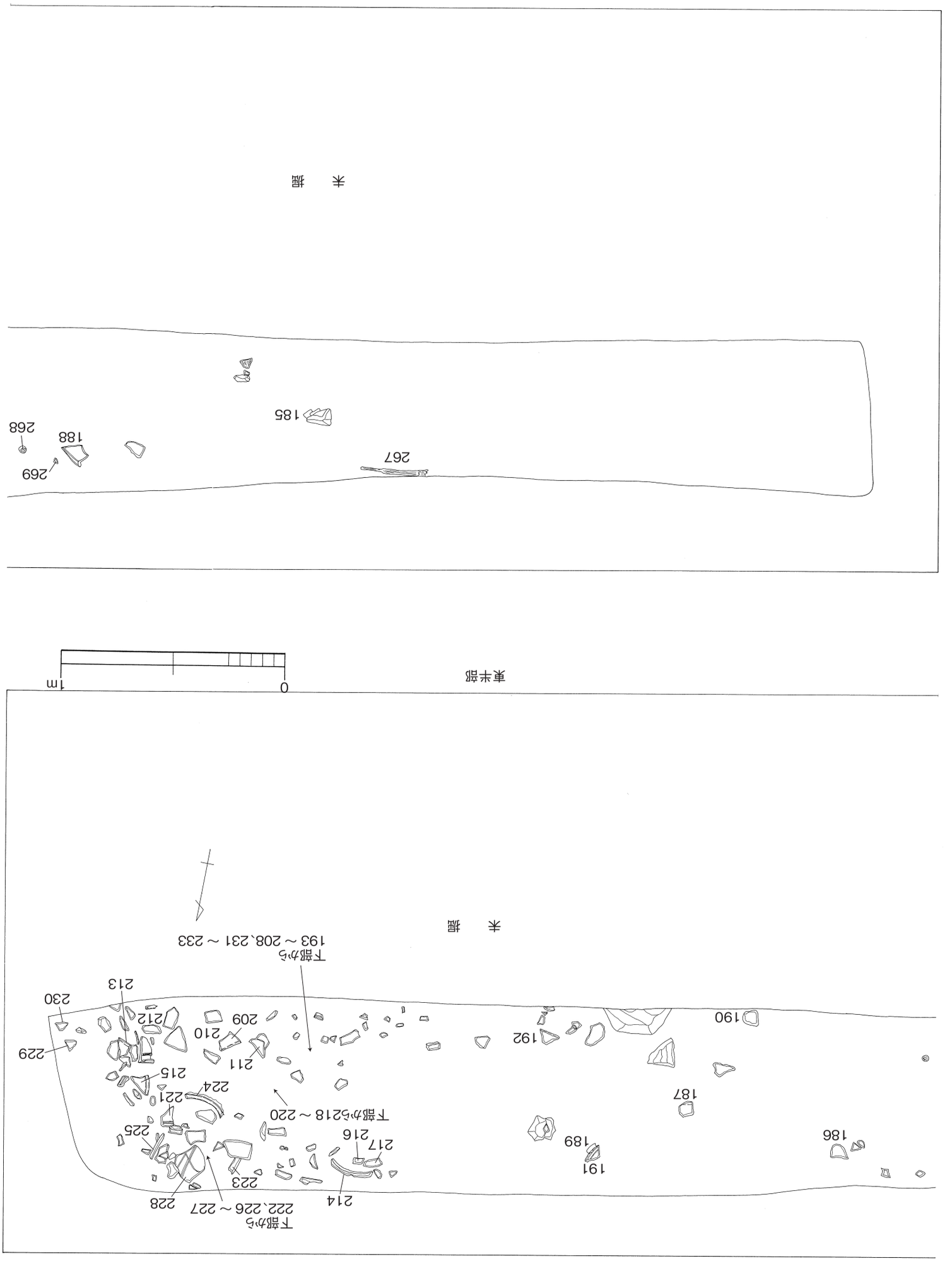


図30　4b区6層（河川跡）土器出土状況（1/20）

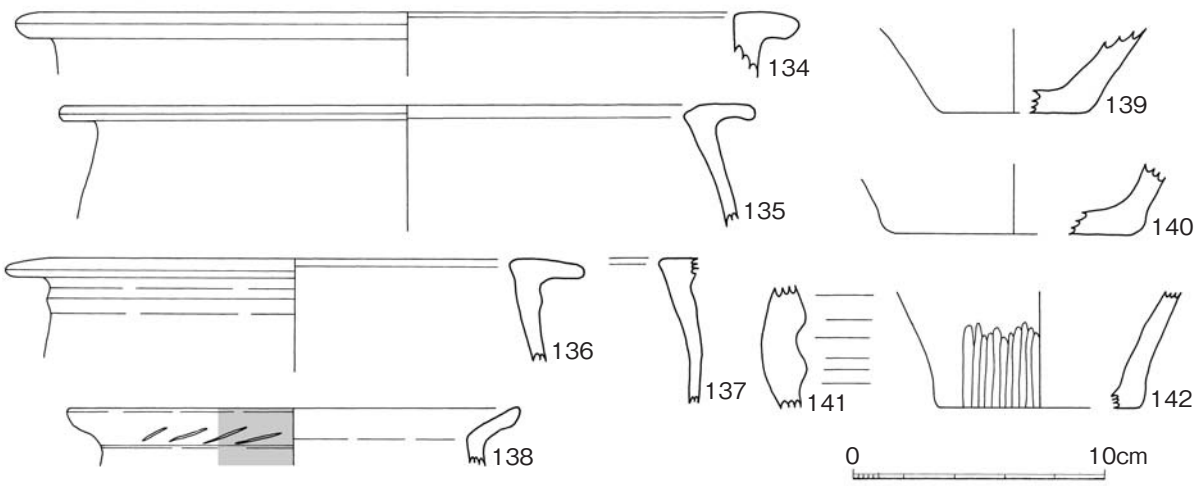


図31　1ａ区９層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）

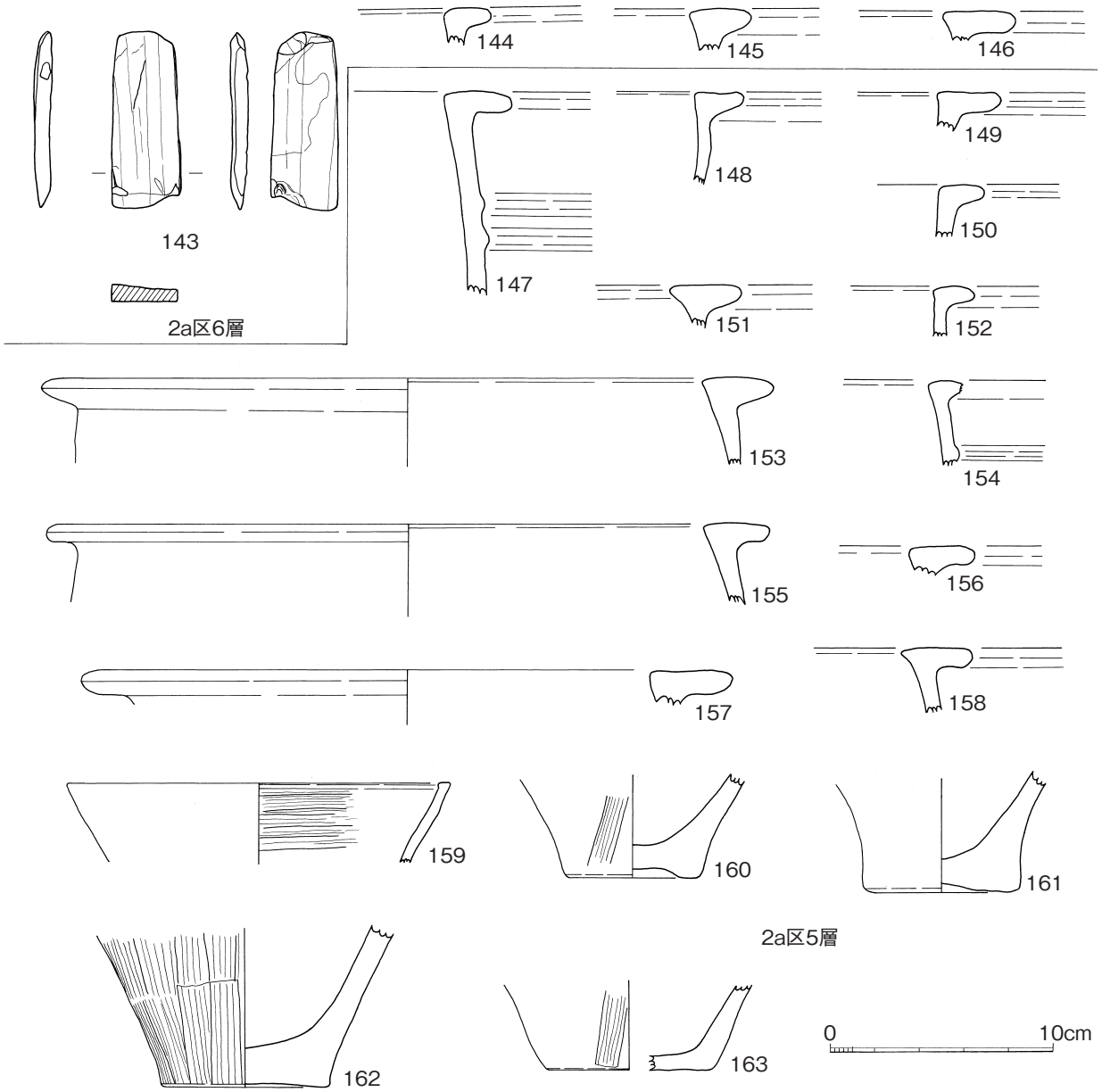


図32　２ａ区６層・５層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）

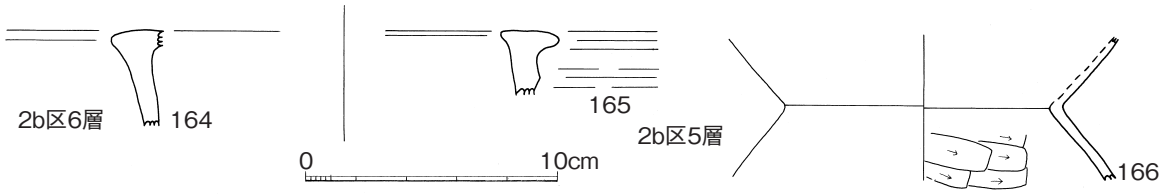


図33　2ｂ区６層・５層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）

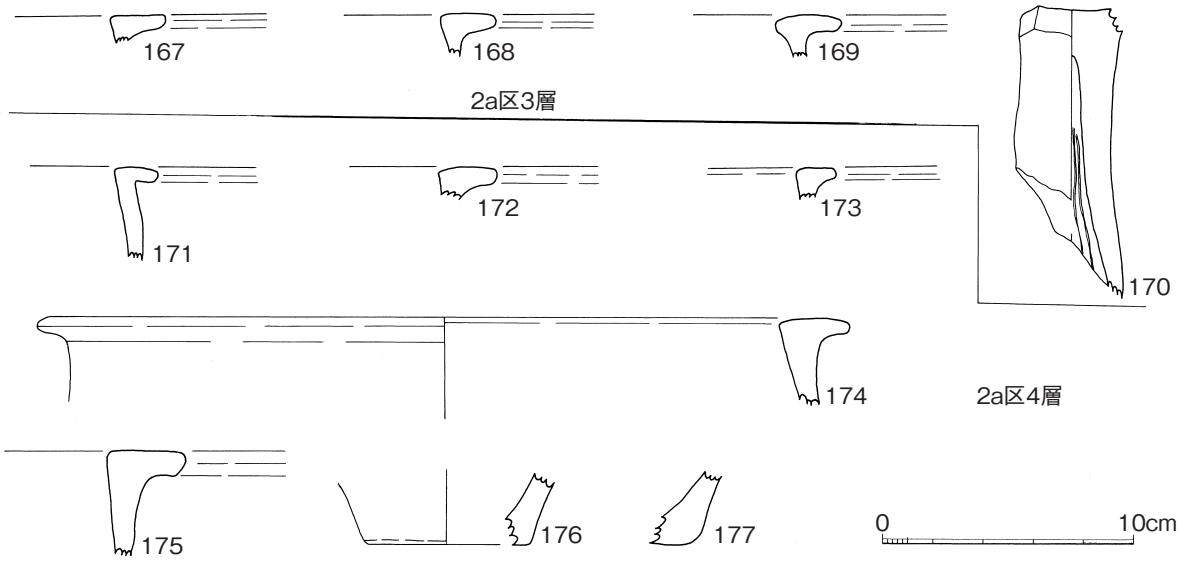


図34　2ａ区４層・３層出土土器（Ｓ＝１／３）

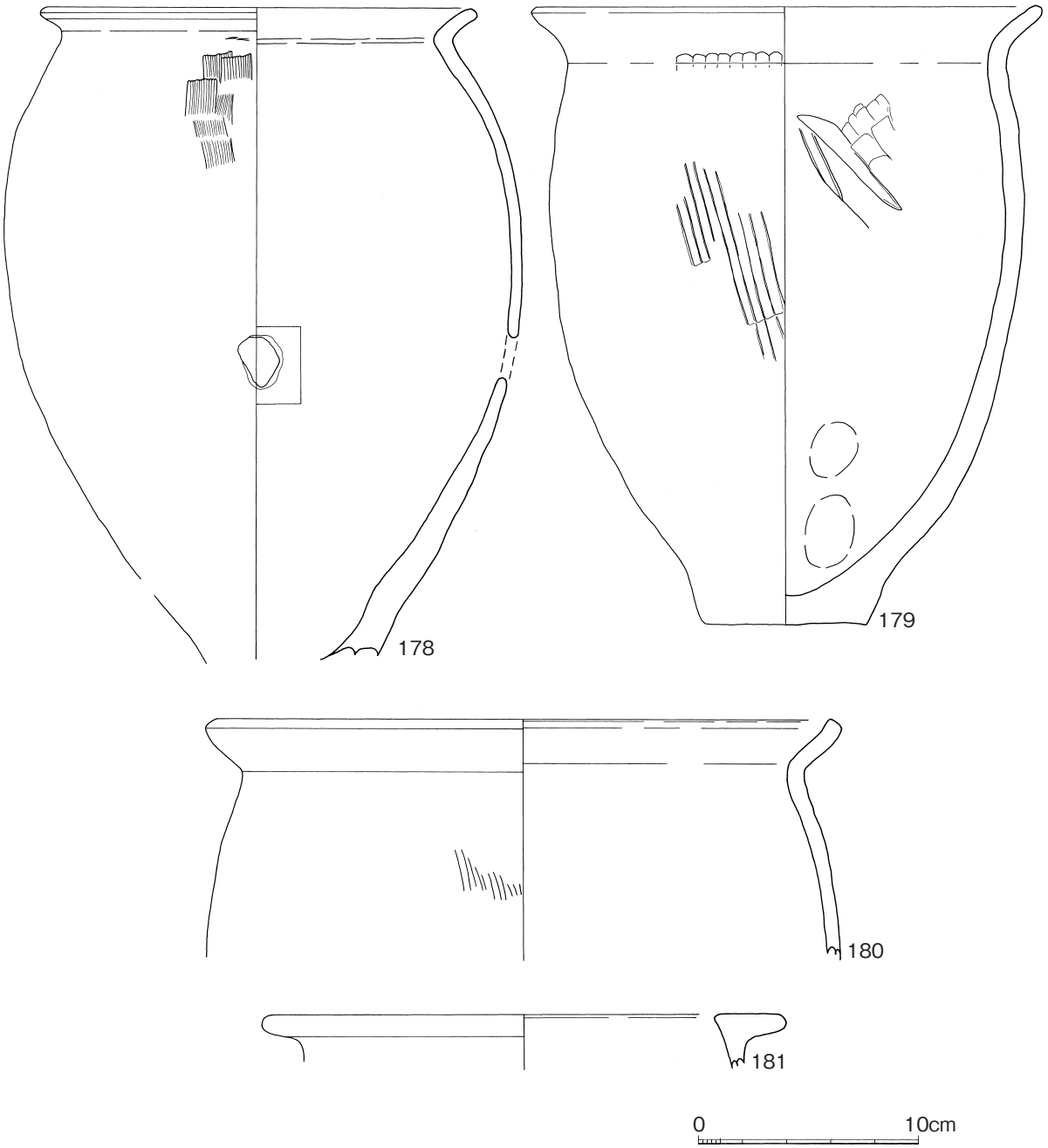


図35　4 a 区 8 層（河川跡）出土土器（S＝1／3）

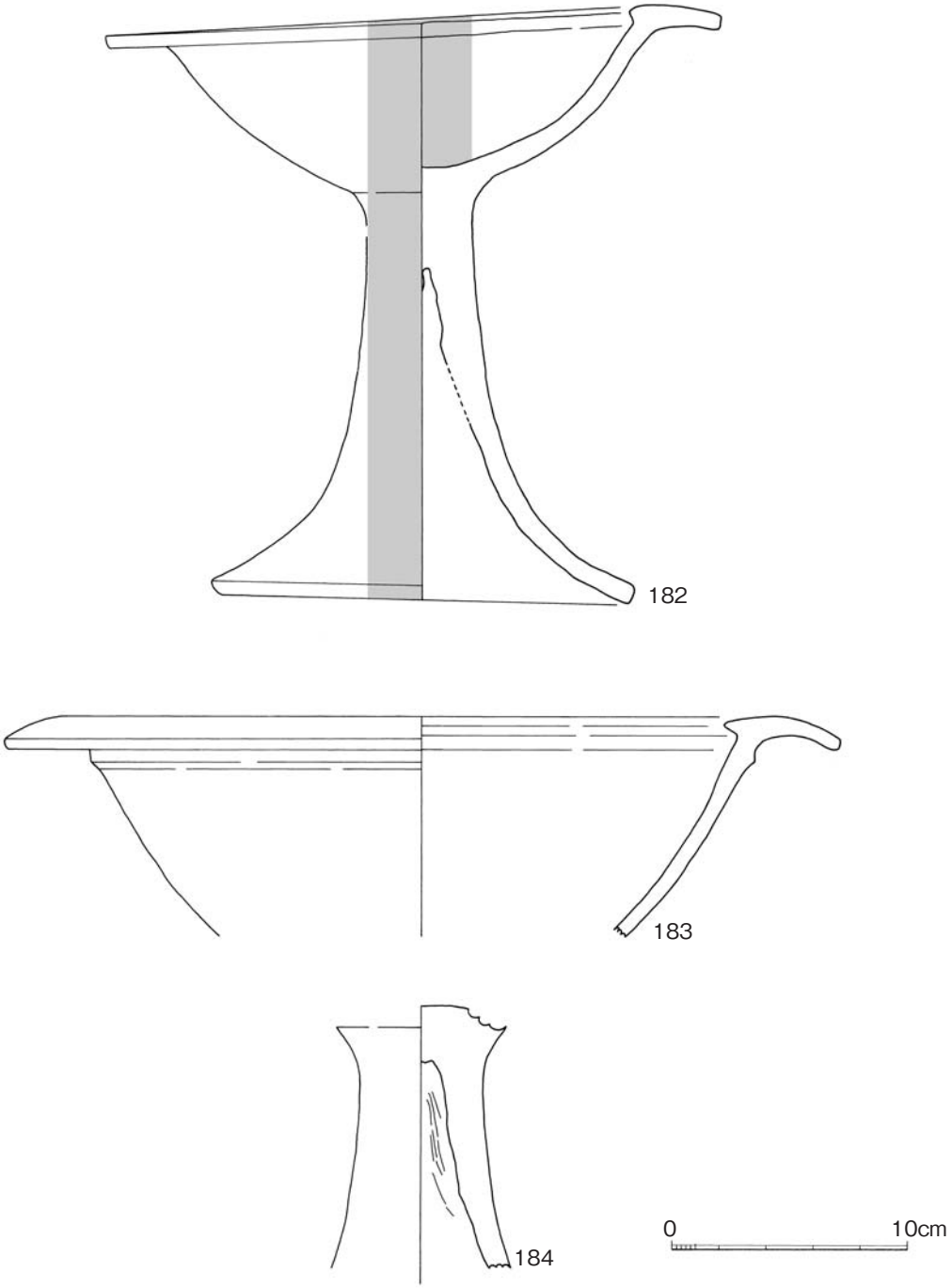


図36　4 a 区 8 層（河川跡）出土土器（S＝1／3）

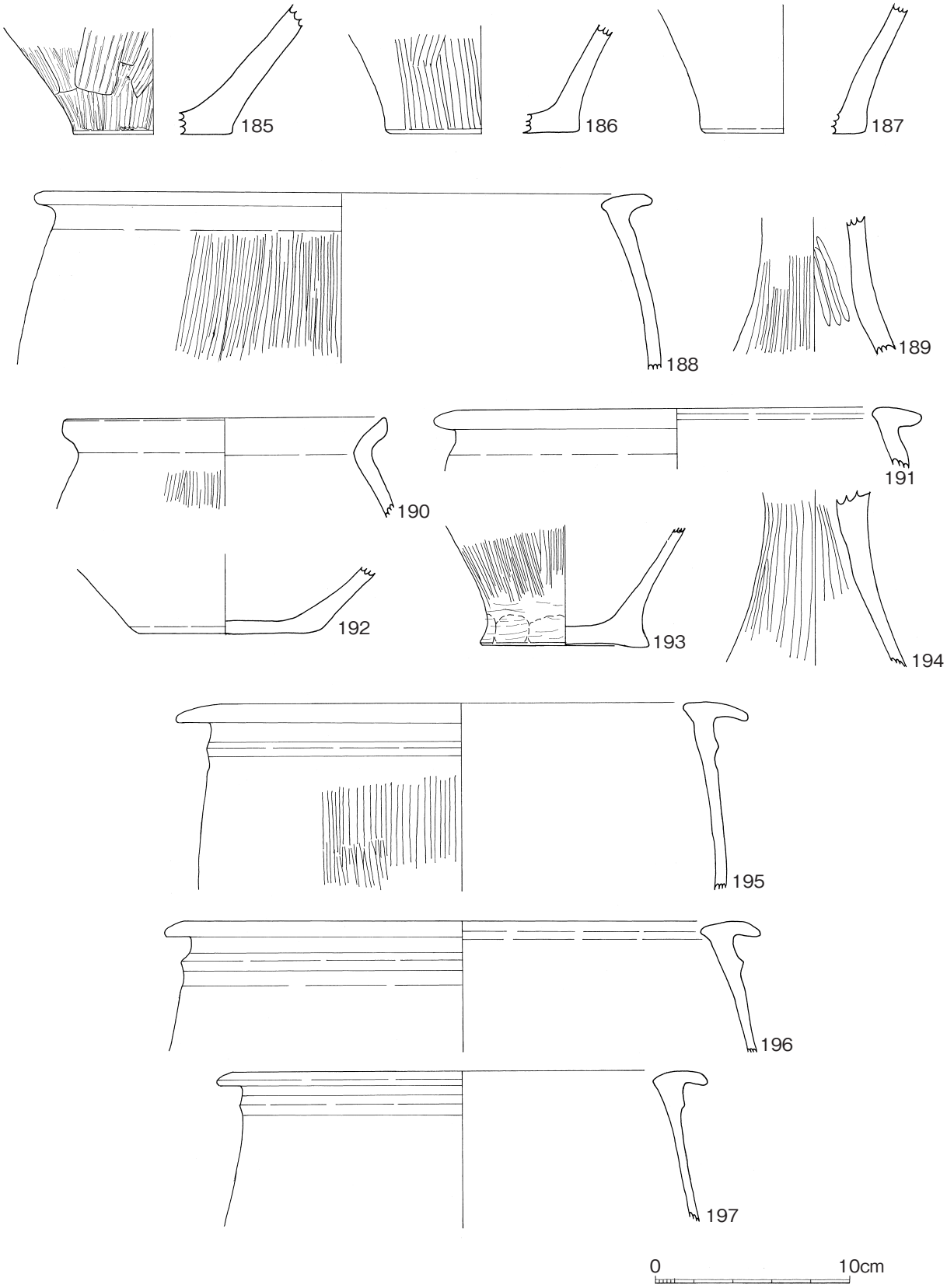


図37　4ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）

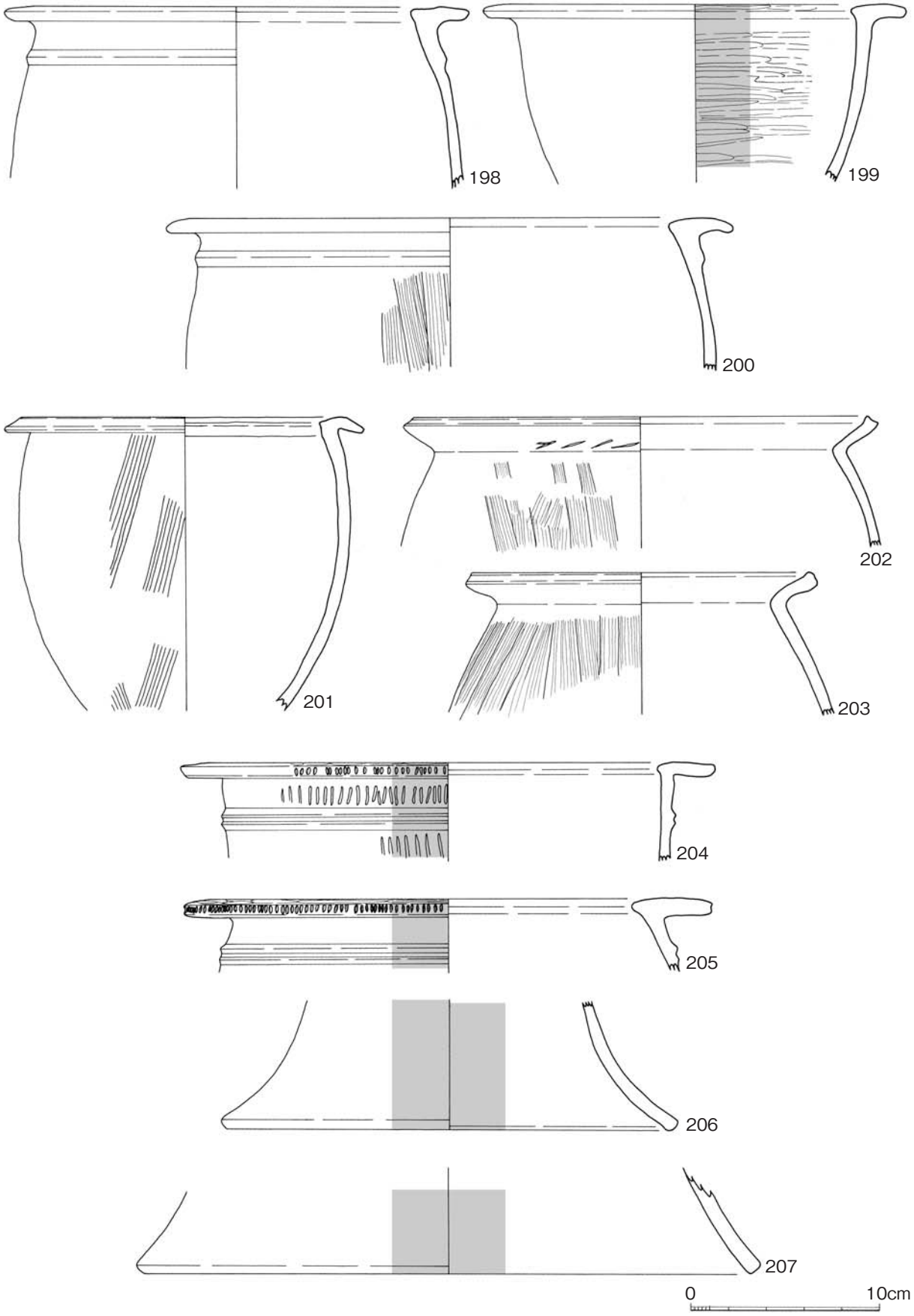


図38　4 b 区 6 層（河川跡）出土土器（S＝1／3）

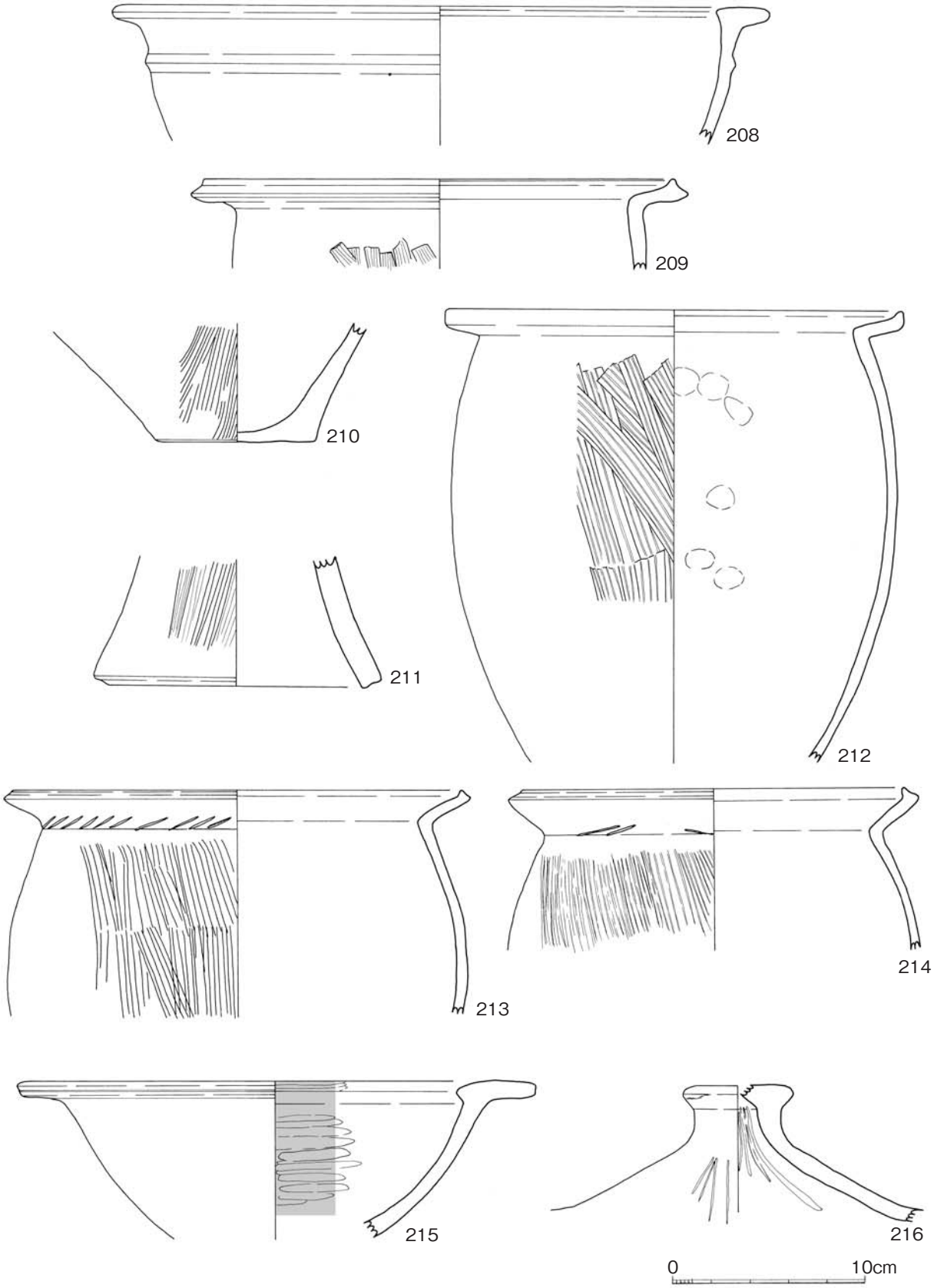


図39　4ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）

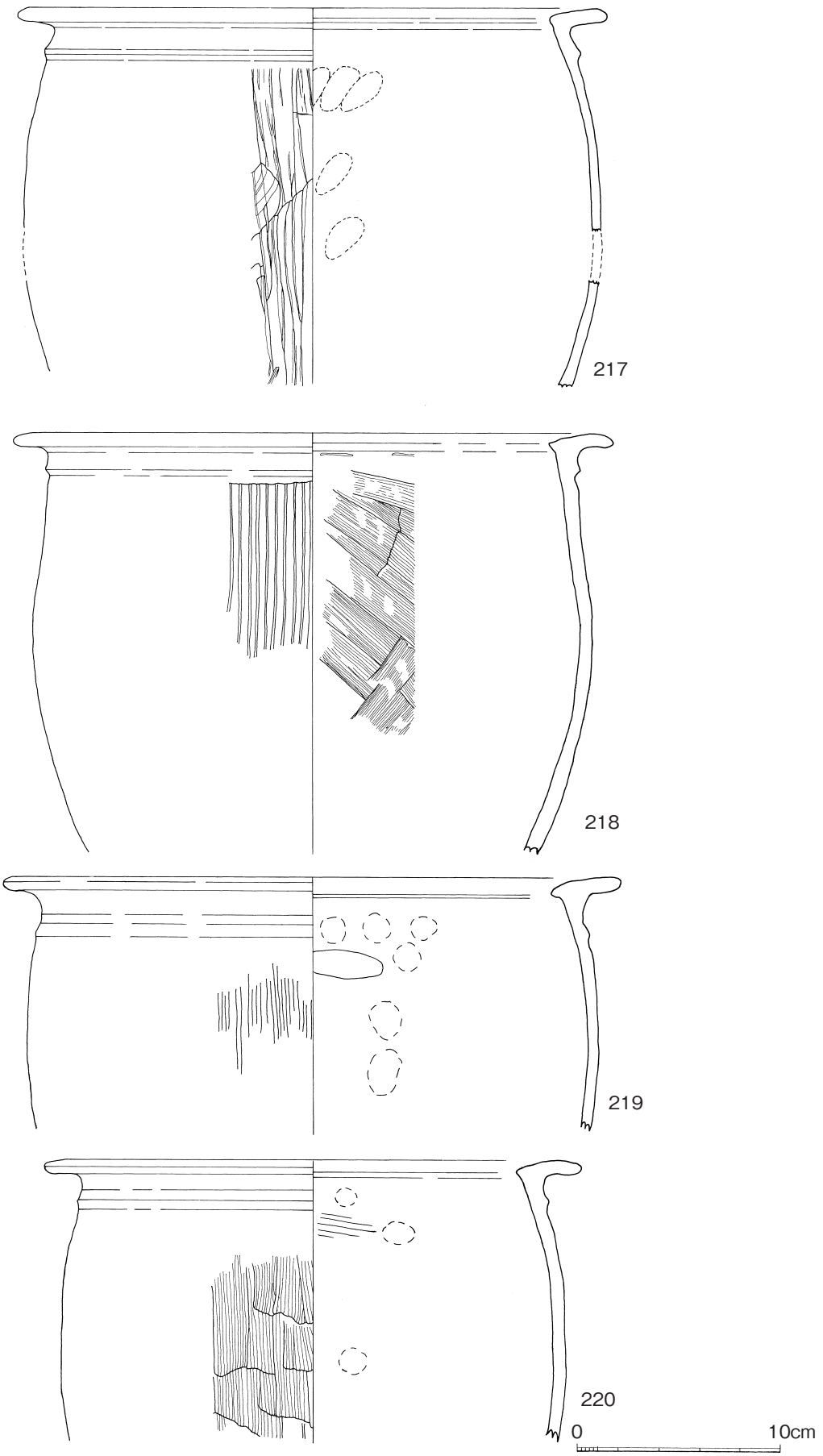


図40　4ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）

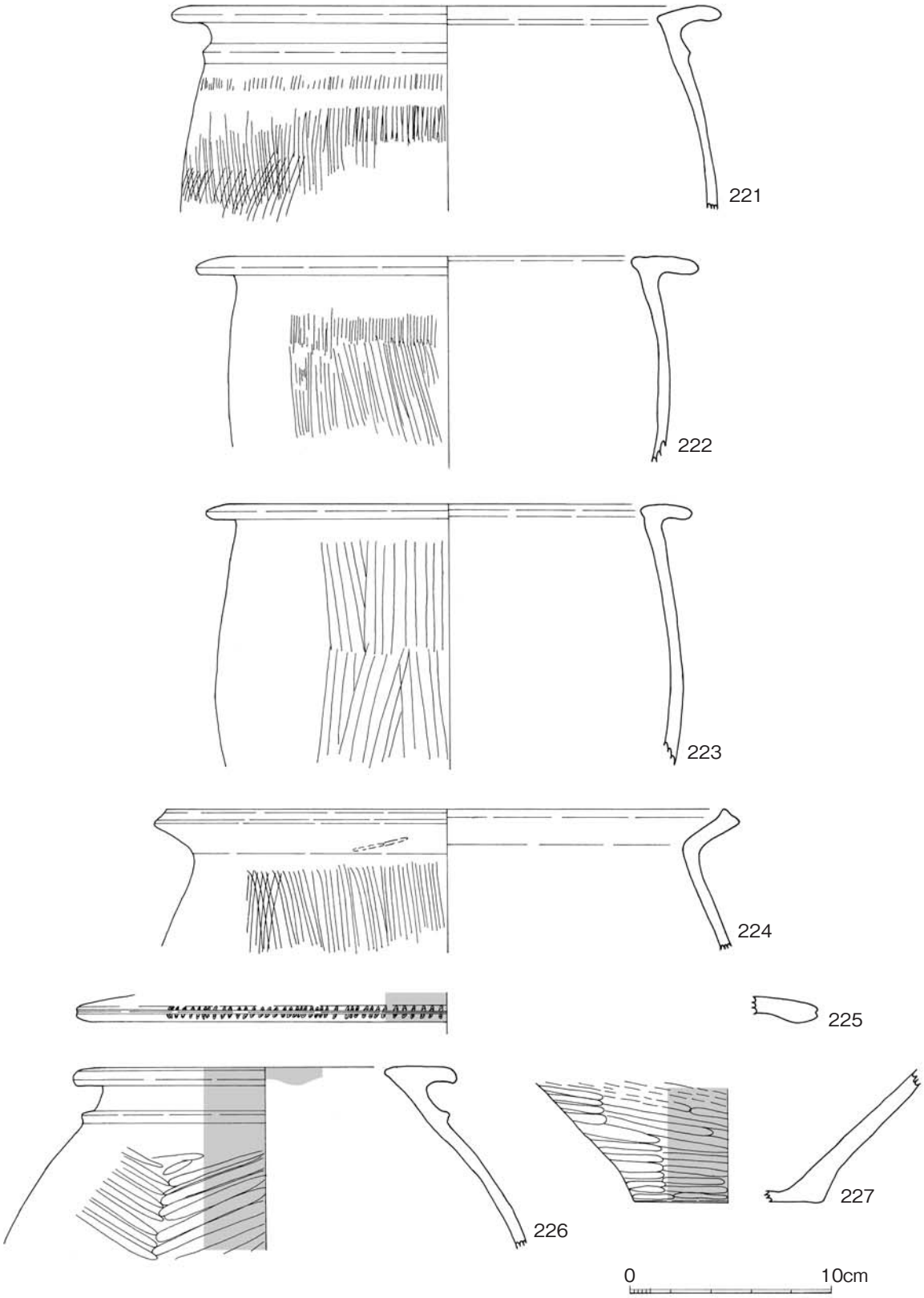


図41　4ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）

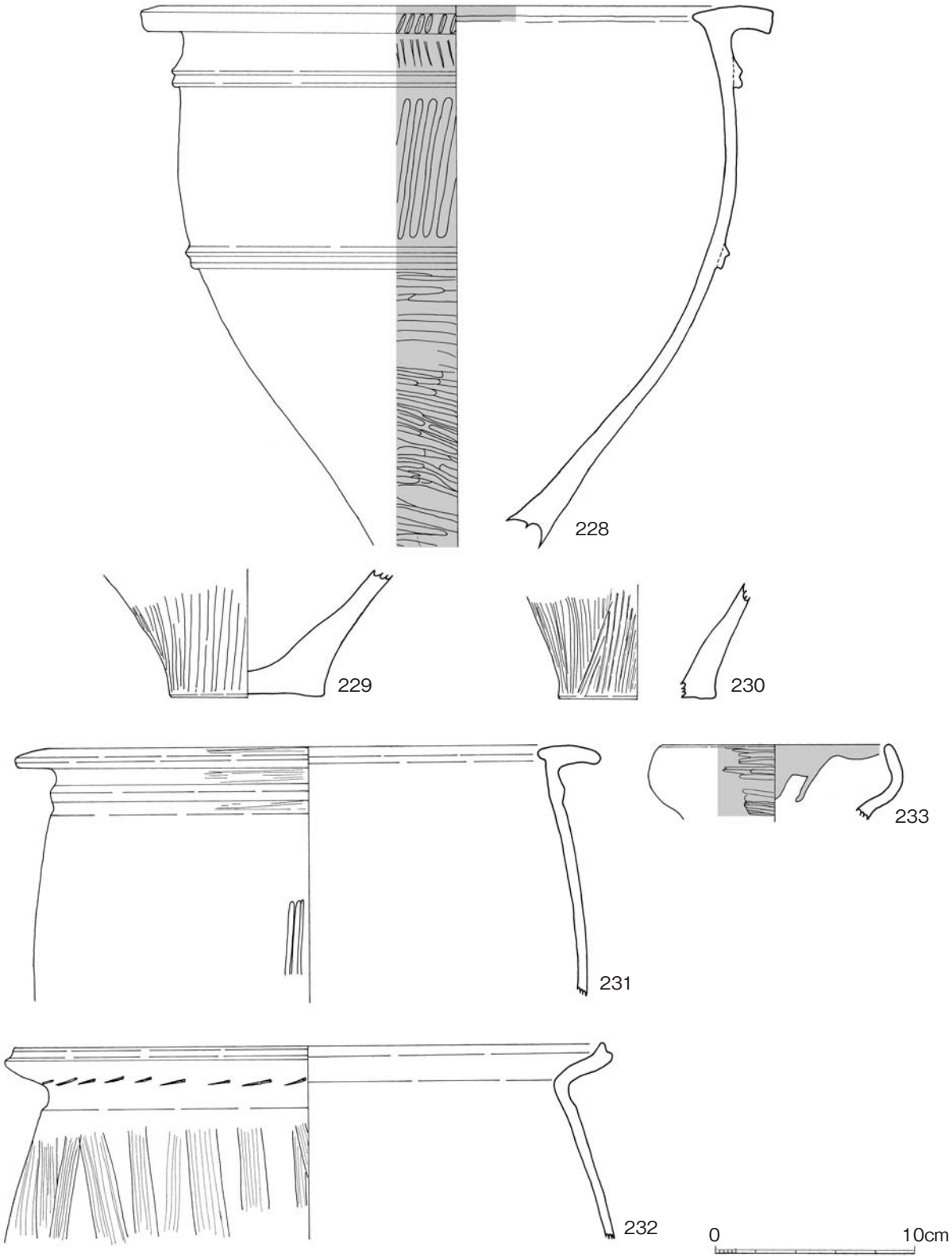


図42　4ｂ区６層（河川跡）出土土器（Ｓ＝１／３）

⑶　河川跡出土遺物

１区出土遺物（図31）

９層では須玖Ⅱ式を主体とする甕などが出土した。丹塗土器としては遠賀川以東系甕口縁部が出土した。

２区出土遺物（図32～34）

６層からは須玖Ⅰ式および須玖Ⅱ式の甕などが出土している。石器としては石鑿が出土した。５層からは須玖Ⅱ式の甕が多く出土したが，２ａ区においても，２ｂにおいても布留式甕口縁部が出土している。中世以降の堆積土である４層及び３層からは須玖Ⅱ式甕や高杯脚部が出土している。

４ａ区出土遺物（図35，36）

８層から須玖Ⅱ式甕，高杯，弥生時代後期初頭甕などが出土している。丹塗土器としては高杯が出土している。甕には遠賀川以西系と遠賀川以東系の両者がみられる。

４ｂ区出土遺物（図37～42）

６層及び６′層から須玖Ⅱ式を主体とする甕，壺，高杯，蓋などが出土している。丹塗土器としては甕，袋羽状口縁壺，高杯などが出土したが，甕と高杯の比率が高いようである。甕には遠賀川以西系と遠賀川以東系の両者がみられる。

５．包含層出土遺物

⑴　弥生時代包含層（図43）

１ｂ区11層では須玖Ⅱ式甕などが出土した。３ｂ区７層では須玖Ⅱ式甕などが出土した。５区１層では，須玖Ⅱ式甕，高杯のほか，柱状片刃石斧の未成品も出土した。

⑵　古代～近世包含層（図44，45）

１ｂ区８層では用途不明石器が出土した。鋭利な工具による線刻がみられる。１ｂ区２層では近世染付が出土している。また弥生時代の磨製石斧も出土した。

２ｂ区４層では中世土師器が集中して出土している。２ｂ区２ｂ層では朝鮮時代の青磁が出土し，２ｂ区２ａ層では全体を研磨した用途不明石器が出土した。

３ａ区５層では須恵器片，大宰府編年（横田・森田1978）白磁碗Ⅳ類口縁部，弥生時代の磨製石剣片が出土した。３ａ区３層では青磁底部が出土した。３ａ区２層では近世磁器片が出土した。

４ｂ区６層は弥生時代の河川堆積層であるが，上面から近世染付が出土した。当該調査区では中世以降の木杭などが上面から打たれているため，上部層から落ち込んだものとみられる。４ｂ区４層では木杭が出土している。４ｂ区２層では近世磁器片と弥生時代の砥石片が出土した。４ｂ区１層では近世染付片のほかに朝鮮時代の青磁片が３点出土した。

266は４ａ区攪乱②層から出土した足袋のコハゼ（鞐）である。黄銅（真鍮）製で表面に「精製」という銘が打刻されている。コハゼがある足袋は江戸時代中期の正徳年間（1711～1715年）に登場す

るが，鯨骨などの骨角製などが多かった。真鍮製のコハゼは明治時代に出現する（潮田1973）。また，真鍮製のコハゼが付くのが1893年（明治26年）頃で関東地方から使われ始めたという見解もある（福助株式会社1984）。従って，当該攪乱の形成時期は明治時代以降であるということがわかる。

註１　遠賀川以東系・以西系の区分は田崎博之の分類（田崎1985）に従う。

潮田鉄雄　1973『ものと人間の文化史８はきもの』法政大学出版局

田崎博之　1985「須玖式土器の再検討」『史淵』122

林隆広　2005『原の辻遺跡主要地方道勝本石田線道路改良工事に伴う緊急発掘調査報告書②』原の辻遺跡調査事務所調査報告 第29集

福助株式会社　1984『フクスケ100年のあゆみ』福助株式会社100周年記念事業委員会

横田賢次郎・森田勉　1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について－型式分類と編年を中心にして－」『九州歴史資料館研究論集』４

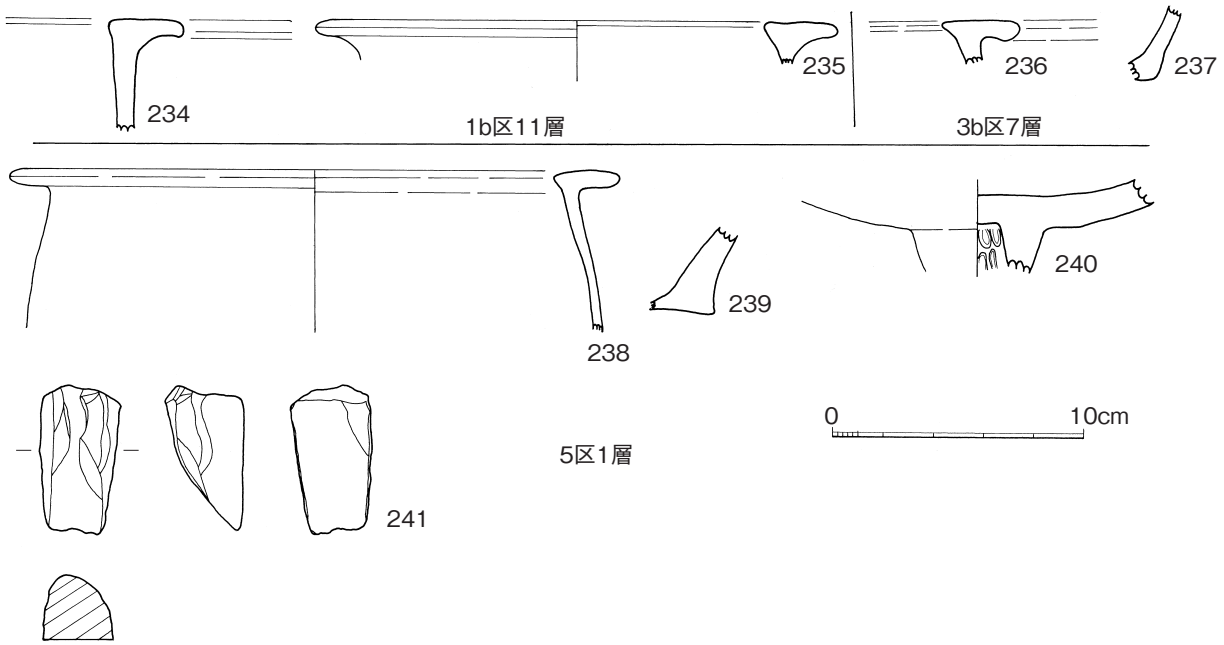


図43　弥生時代包含層出土遺物（Ｓ＝１／３）

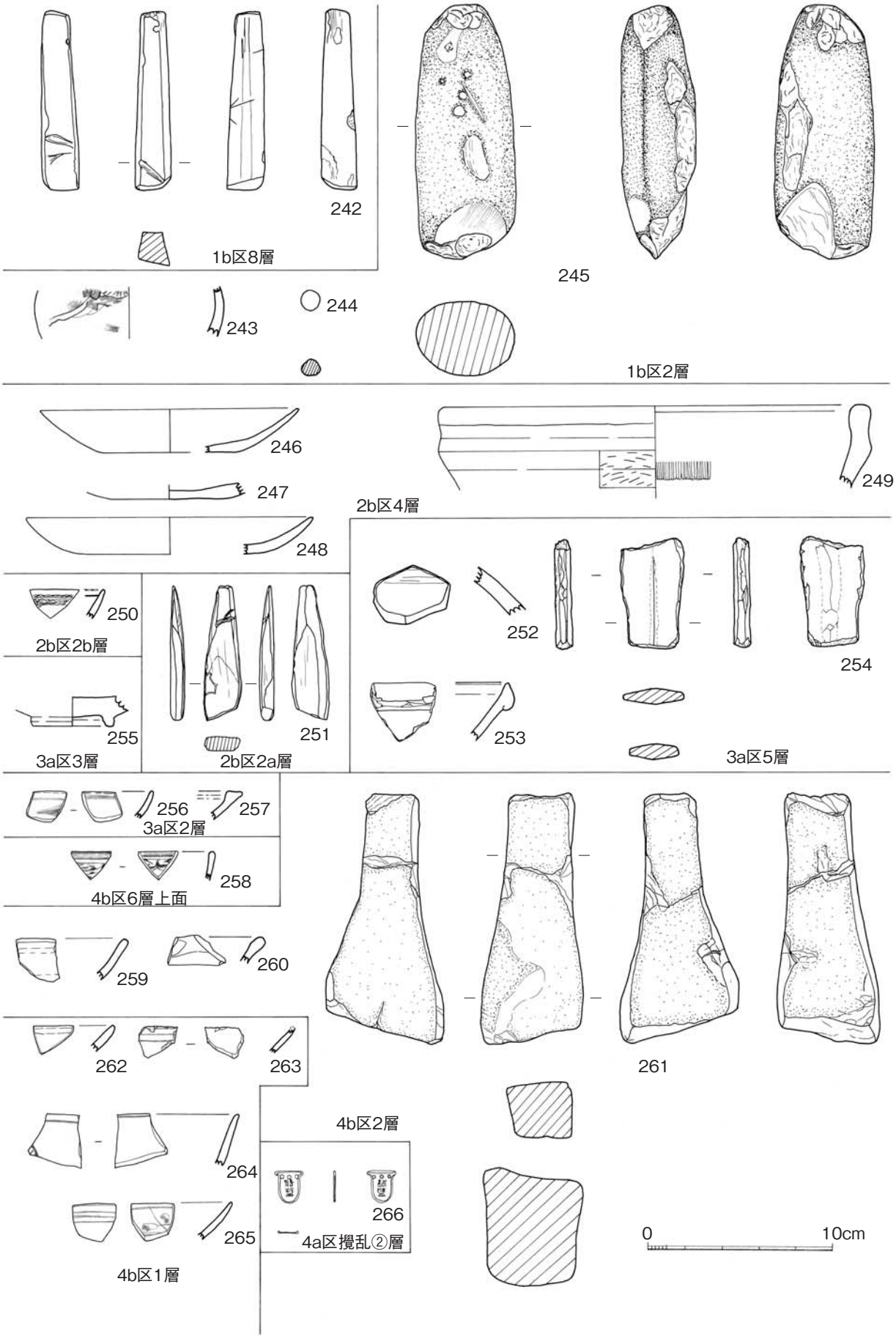


図44　中世～近世包含層出土遺物（S＝1／3）

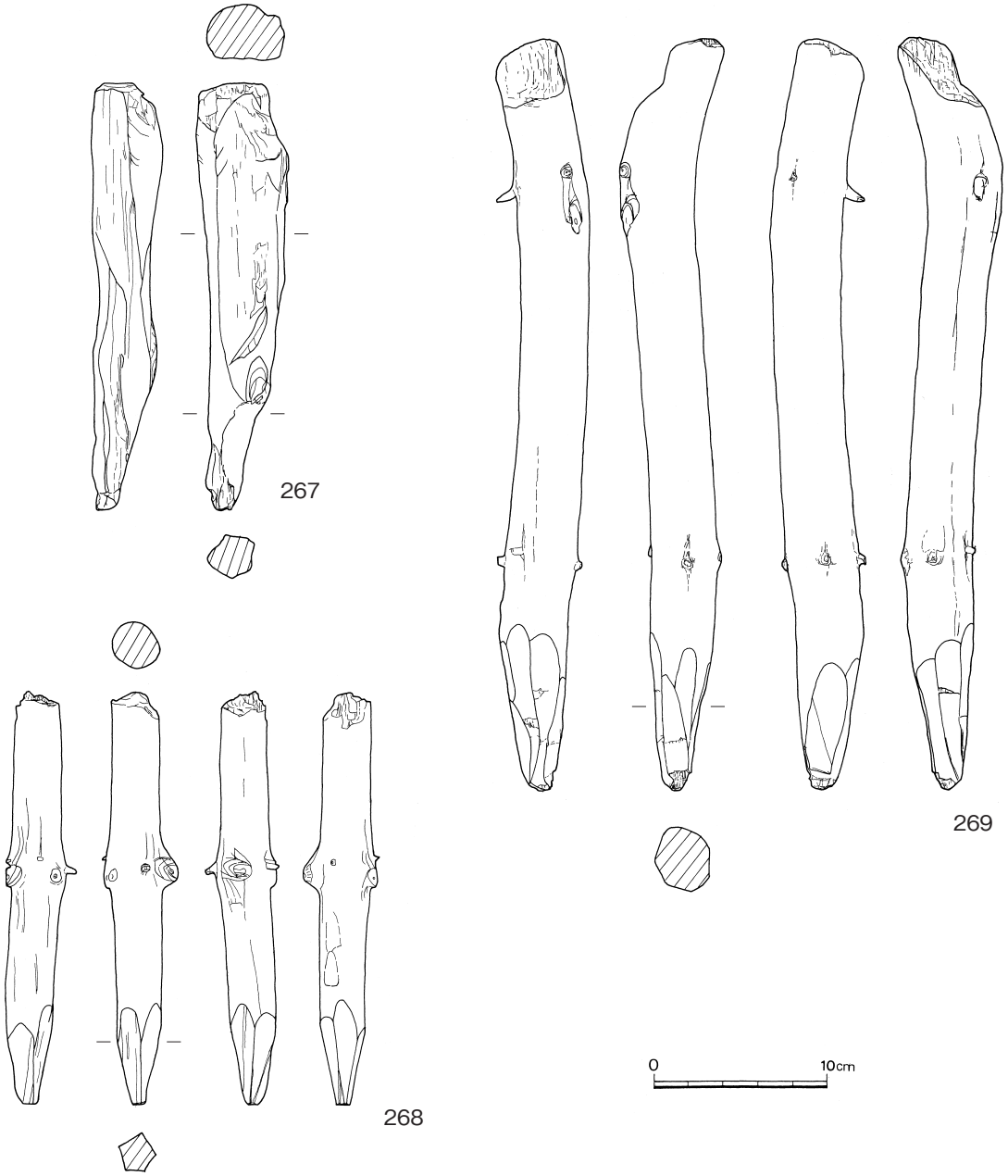


図45　4ｂ区４層出土木杭（Ｓ＝１／４）

表4　遺物観察表（土器・陶磁器）

報告番号	調査区	遺構・層位	器種	部位	口径・底径	色調（外面）		色調（内面）		胎土	調整（外面）	調整（内面）	備考
						色	Hue	色	Hue				
1	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片	24.5cm	明赤褐	2.5YR5/8	明赤褐	5YR5/6	長石・石英・金雲母	ナデ・ヨコナデ		外丹塗り, 須玖Ⅱ式
2	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片		明褐灰	7.5YR7/2	黄橙	7.5YR7/8	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	内・外丹塗り, 須玖Ⅱ式
3	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片		灰黄	2.5Y7/2	にぶい黄橙	10YR7/3		ナデ		須玖Ⅱ式
4	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片	24.8cm	明赤褐	2.5YR5/8	明赤褐	5YR5/6	長石・石英・金雲母	ナデ・ヨコナデ		須玖Ⅱ式
5	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片	24.2cm	にぶい黄褐	10YR5/4	にぶい黄橙	10YR6/3	長石・石英・金雲母	ナデ		須玖Ⅱ式
6	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片	24.6cm	明赤褐	5YR5/6	橙	5YR6/8	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
7	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片	20cm	にぶい黄褐	10YR6/3	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	ナデ・ヨコナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
8	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片	26cm	にぶい黄褐	10YR6/4	にぶい黄褐	10YR6/4	長石・石英・金雲母	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	須玖Ⅱ式
9	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片	16.1cm	橙	5YR6/6	明赤褐	5YR5/6	長石・石英・金雲母	ナデ		須玖Ⅱ式
10	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片	22.7cm	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR7/3	長石・石英・金雲母	ナデ	ヨコナデ	須玖Ⅱ式
11	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片	21.6cm	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	長石・石英・金雲母	ナデ	ヨコナデ	須玖Ⅱ式
12	1b区	1号土坑	甕	底部破片	18.4cm	にぶい黄褐	10YR5/4	橙	5YR6/6	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	内・外丹塗り
13	1b区	1号土坑	甕	底部破片	6.9cm	灰	5Y5/1	灰黄	2.5Y6/2	長石・石英・金雲母			
14	1b区	1号土坑	甕	底部破片	18.3cm	にぶい黄褐	10YR5/4	橙	5YR6/6	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
15	1b区	1号土坑	甕	底部破片	6.8cm	暗灰黄	2.5Y5/2	にぶい黄橙	5YR7/4	長石・石英・金雲母			
16	1b区	1号土坑		底部破片	4cm	にぶい橙	7.5YR6/4	明赤褐	2.5YR5/8	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
17	1b区	1号土坑	甕	口縁部破片		橙	2.5YR6/8	灰白	7.5YR8/2	長石・石英・金雲母			
18	1b区	1号土坑	壺	口縁部破片	28cm	灰黄	2.5Y7/2	にぶい黄橙	2.5Y7/4	長石・石英・金雲母	ナデ		須玖Ⅱ式
19	1b区	1号土坑	壺	口縁部破片	17.6cm	橙	5YR6/8	橙	7.5YR7/6	長石・石英・金雲母	ナデ		須玖Ⅱ式
20	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	31.5cm	橙	2.5YR6/6	灰白	5Y7/2	長石・石英・金雲母	ヨコナデ	ヨコナデ	須玖Ⅱ式
21	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	31cm	灰黄	2.5Y6/2	灰黄	2.5Y7/2	長石・石英	ヨコナデ		須玖Ⅱ式
22	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	14.4cm	明赤褐・黒褐	2.5YR5/8・2.5Y3/1	黒褐	2.5Y3/1	長石・石英	ナデ		すす痕あり, 須玖Ⅱ式
23	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	28.2cm	にぶい赤褐・褐灰	5YR5/4・10YR4/1	にぶい黄橙	10YR6/3	長石・石英・金雲母	ヨコナデ		須玖Ⅱ式
24	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	13cm	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	2.5Y6/4	長石・石英	ヨコナデ		須玖Ⅱ式
25	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	10.2cm	橙	2.5YR6/6	淡赤橙	2.5YR7/3	長石・石英・金雲母	ナデ・ヨコナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
26	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片		浅黄	2.5Y7/3	灰黄	2.5Y7/2	長石・石英	ヨコナデ	ヨコナデ	須玖Ⅱ式
27	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	28.8cm	灰黄	2.5Y6/2	灰黄	2.5Y6/2	長石・石英	ナデ・ヨコナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
28	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	25.6cm	にぶい褐	7.5YR6/3	にぶい赤褐	5YR5/3	長石・石英	ヨコナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
29	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片		灰白・明赤褐	2.5Y8/2・2.5YR5/8	灰白	2.5Y8/2	長石・石英	ヨコナデ	ナデ	丹塗り痕, 須玖Ⅱ式
30	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片		にぶい赤褐	5YR5/4	明黄褐	10YR6/4	長石・石英・金雲母		ヨコナデ	須玖Ⅱ式
31	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片		明赤褐	2.5YR5/6	橙	2.5YR6/8	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
32	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片		橙	5YR5/6	橙	5YR6/6	長石・石英・金雲母			須玖Ⅱ式
33	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	25.8cm	灰黄・灰黄褐	2.5Y6/2・10YR5/2	灰黄褐	10YR5/2	長石・石英・金雲母	ナデ・ヨコナデ・指押え	ハケメ	須玖Ⅱ式
34	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	20.8cm	橙	2.5Y6/8	明赤褐	2.5YR5/8	長石・石英・金雲母	ヨコナデ		内丹塗り, 須玖Ⅱ式
35	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片		黄灰	2.5Y5/1	橙	2.5YR6/6	長石・石英・金雲母			須玖Ⅱ式
36	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片		暗褐	10YR3/3	暗灰黄	2.5Y5/2	長石・石英・金雲母			須玖Ⅱ式
37	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片		橙	7.5YR7/6	橙	2.5YR6/6	長石・石英			須玖Ⅱ式
38	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	21.8cm	橙	7.5YR6/6	浅黄	2.5Y7/3	長石・石英・金雲母	ヨコナデ	ヨコナデ	須玖Ⅱ式
39	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	24.6cm	にぶい黄橙	10YR6/3	灰黄褐	10YR6/2	長石・石英・金雲母	ヨコナデ		須玖Ⅱ式
40	1b区	2号土坑	甕	口縁部破片	26.7cm	赤橙・灰黄褐	10R6/6・10YR5/2	橙	2.5YR6/6	長石・石英・金雲母	ヨコナデ	ヨコナデ	須玖Ⅱ式
41	1b区	2号土坑	甕	底部破片	8cm	褐灰・にぶい黄橙	10YR5/1・10YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/4	長石・石英	ヨコナデ・指押え	ハケメ	
42	1b区	2号土坑	甕	底部破片	7.2cm	にぶい黄橙	10YR6/4	灰黄	10YR6/2	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・指押え		
43	1b区	2号土坑	甕	底部破片		浅黄	2.5Y7/4	浅黄	2.5Y7/3	長石・石英・金雲母			
44	1b区	2号土坑	甕	底部破片	8.2cm	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/3	長石・石英・金雲母			
45	1b区	2号土坑	甕	底部破片		明赤褐	5YR5/6	オリーブ褐	2.5Y4/4	長石・石英			
46	1b区	2号土坑	壺	口縁部破片	17cm	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母		ヨコナデ	内・外丹塗り, 須玖Ⅱ式
47	1b区	2号土坑	袋状口縁壺	口縁部破片	12.7cm	赤	10R4/8	赤	10R4/8	長石・石英・金雲母			内・外丹塗り, 須玖Ⅱ式
48	1b区	2号土坑	壺	胴部破片		赤・にぶい褐	10R5/8・7.5YR6/3	暗赤灰	10R4/1	長石・石英・金雲母	ヨコナデ		丹塗り痕
49	1b区	2号土坑	壺	底部破片	6.2cm	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4	長石・石英・金雲母	ナデ・ヨコナデ	ナデ・指押え	
50	1b区	2号土坑	壺	底部破片	6.2cm	灰オリーブ	5Y6/2	灰黄	2.5Y6/2	長石・石英	ヨコナデ	ナデ・指押え	
51	1b区	2号土坑	椀		17.4cm	橙	5YR6/6	橙	2.5YR6/6	長石・石英	ナデ・ヨコナデ	ナデ・指押え	
52	1b区	2号土坑	高杯	口縁部破片	20.2cm	暗灰黄	2.5Y4/2	にぶい黄	2.5Y6/3	長石・石英・金雲母			内・外丹塗り痕, 須玖Ⅱ式
53	1b区	2号土坑	高杯	口縁部破片	30.8cm	暗灰黄	2.5Y5/2	黒褐	10YR3/2	長石・石英・金雲母		ヨコナデ	丹塗り痕, 須玖Ⅱ式
54	1b区	2号土坑	高杯	口縁部破片		にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/3	長石・石英・金雲母		ヨコナデ	内・丹塗り痕, 須玖Ⅱ式
55	1b区	2号土坑	高杯	脚部破片		橙	5YR6/8	橙	5YR6/8	長石・石英・金雲母			
56	1b区	2号土坑	蓋	裾部破片		黒褐・橙	10YR3/1・5YR6/8	橙	5YR6/8	長石・石英・金雲母			しぼり痕
57	3b区	3号土坑	甕	底部破片	7.7cm	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
58	3b区	4号土坑	甕	口縁部破片	32.8cm	にぶい黄褐	10YR4/3	灰黄	2.5Y6/2	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
59	3b区	8号土坑	甕	口縁部破片	17cm	明赤褐	5YR5/8	橙	5YR6/8	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
60	3b区	8号土坑	甕	底部破片		橙	7.5YR6/6	にぶい黄	2.5Y6/3	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
61	3b区	2号溝	染付椀	口縁部・胴部破片	10.2cm	灰白	10Y7/1	灰白	10Y7/1				
65	5区	9号土坑①層	甕	口縁部破片	26.45cm	にぶい橙	7.5YR7/4	橙	7.5YR7/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
66	5区	9号土坑①層	甕	口縁部破片	26.3cm	橙	7.5YR7/6	灰白	10YR8/2	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	65と同一個体か?須玖Ⅱ式
67	5区	9号土坑①層	甕	口縁部破片	30.9cm	にぶい黄橙	10YR6/4	浅黄橙	10YR8/3	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
68	5区	9号土坑①層	甕	口縁部破片	28cm	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR7/3	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
69	5区	9号土坑①層	甕	口縁部破片	16.9cm	にぶい黄褐・明赤褐	10YR5/4・5YR5/8	灰黄褐	10YR4/2	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ハケメ		須玖Ⅱ式
70	5区	9号土坑①層	甕	口縁部破片	23.9cm	橙	5YR7/6	にぶい黄褐	10YR5/3	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ハケメ		須玖Ⅱ式
71	5区	9号土坑①層	甕	口縁部破片	24.8cm	浅黄橙	7.5YR8/4	橙	7.5YR7/6	長石・石英・金雲母	剥離	剥離	須玖Ⅱ式
72	5区	9号土坑①層	甕	底部破片	8.4cm	橙	2.5YR6/8	黒褐	10YR3/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
73	5区	9号土坑①層	甕	底部破片	7.15cm	橙	7.5YR6/6	にぶい黄橙	10YR6/3	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
74	5区	9号土坑①層	甕	底部破片	6.6cm	にぶい黄橙	10YR7/2	灰白	10YR8/2	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
75	5区	9号土坑①層	壺	胴部破片		明赤褐・にぶい褐	5YR5/8・7.5YR5/4	にぶい橙	7.5YR7/4	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
76	5区	9号土坑①層	壺			にぶい橙	7.5YR7/4	暗灰黄	2.5Y5/2	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
77	5区	9号土坑①層		裾部破片		にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄	2.5Y6/3	長石・石英・金雲母	ナデ	剥離	
78	5区	9号土坑①層	壺			橙	7.5YR6/6	灰黄	2.5Y7/2	長石・石英・金雲母			丹塗り剥離
79	5区	9号土坑①層	高杯	口縁部破片・脚部破片	20.3cm	にぶい黄	2.5Y6/4	にぶい黄橙	10YR6/4	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
80	5区	9号土坑②層	甕	口縁部破片	27.2cm	暗灰黄	10YR5/2	にぶい黄褐	10YR5/3	長石・石英・金雲母	剥離	剥離	須玖Ⅱ式
81	5区	9号土坑②層	甕	口縁部破片	27.3cm	浅黄橙	10YR8/3	明黄褐・にぶい黄橙	10YR7/6・10YR6/3	長石・石英	剥離	剥離	後期初頭
82	5区	9号土坑②層	甕	底部破片	7.15cm	黒褐・にぶい橙	10YR3/4・7.5YR7/4	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
83	5区	9号土坑②層	甕	底部破片	8.7cm	橙	5YR6/8	橙	5YR6/8	長石・石英	摩耗	摩耗	
84	5区	9号土坑②層	甕		28.8cm, 7.2cm	にぶい黄橙・にぶい褐・橙	10YR7/3・7.5YR6/3・2.5YR6/8	黒褐・浅黄橙	7.5YR3/1・10YR8/3	長石・石英	指押え・ナデ・ヨコナデ	ハケメ摩耗	須玖Ⅱ式

報告番号	調査区	遺構・層位	器種	部位	口径・底径	色調(外面)		色調(内面)		胎土	調整(外面)	調整(内面)	備考
						色	Hue	色	Hue				
87	5区	9号土坑(2)層	壺	口縁部破片	30.4cm	橙	7.5YR6/8	にぶい黄橙	10YR7/4	長石・石英・金雲母	ナデ・摩耗		内・外丹塗り痕, 須玖Ⅱ式
88	5区	9号土坑(2)層	壺	胴部破片		橙	5YR6/8	明赤褐	5YR5/8	長石・石英・金雲母			
89	5区	9号土坑(2)層	壺	胴部破片		赤褐・にぶい黄橙	2.5YR4/6・YR7/4	にぶい黄橙・灰黄	10YR7/4・2.5YR7/2	長石・石英	摩耗		外・丹塗り痕
90	5区	9号土坑(2)層	壺	胴部破片		にぶい赤褐	2.5YR4/4	にぶい黄橙	10YR6/4	長石・石英	ヨコナデ・摩耗		外・丹塗り痕
91	5区	9号土坑(2)層	壺	胴部破片		灰黄・赤褐	2.5Y7/2・2.5YR4/6	にぶい黄橙	10YR6/3・7/4	長石・石英	ヨコナデ・摩耗		外・丹塗り痕
92	5区	9号土坑(2)層	高杯	口縁部破片	32.75cm	明赤褐	5YR5/8	明赤褐	5YR5/8	長石・石英・金雲母			内・外摩耗
93	5区	9号土坑(2)層	蓋	裾部破片		にぶい褐	7.5YR5/4	明褐	7.5YR5/6	長石・石英・金雲母			
94	5区	9号土坑(2)層		裾部破片		灰黄	2.5Y7/2	淺黄	2.5Y7/3	長石・石英・金雲母			
95	5区	10号土坑	甕	口縁部破片	36.1cm	にぶい橙	7.5YR7/4	明黄褐	10YR7/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗・ヨコナデ	須玖Ⅱ式
96	5区	10号土坑	甕	口縁部破片	30.8cm	にぶい黄橙	10YR7/4	浅黄	2.5Y8/4	長石・石英	強ヨコナデ・ヨコナデ・ハケメ	摩耗	丹塗り, 須玖Ⅱ式
97	5区	10号土坑	甕	口縁部破片		橙	5YR7/6	橙	2.5YR7/6	長石・石英・金雲母	ヨコナデ摩耗	ヨコナデ摩耗	須玖Ⅱ式
98	5区	10号土坑	甕	口縁部破片	28.4cm	橙	5YR6/8	明赤褐	5YR5/8	長石・石英・金雲母			須玖Ⅱ式
99	5区	10号土坑	甕	口縁部破片		黄灰	2.5Y4/1	明黄褐	10YR7/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
100	5区	10号土坑	甕	口縁部破片	28.4cm	橙	2.5YR7/6	橙	2.5YR7/6	長石・石英	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
101	5区	10号土坑	甕	口縁部破片	26.6cm	橙・褐	7.5YR4/4・5YR6/8	にぶい黄橙	10YR7/3	長石・石英	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
102	5区	10号土坑	甕	口縁部破片	22.6cm	にぶい黄褐	10YR6/3	灰黄褐	10YR4/2	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	摩耗	須玖Ⅱ式
103	5区	10号土坑	甕	口縁部破片	26.8cm	にぶい黄橙	10YR7/4	明黄褐	10YR7/6	長石・石英	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
104	5区	10号土坑	甕	底部破片	6.4cm	橙	5YR6/6	にぶい黄橙	10YR7/4		摩耗	摩耗	
105	5区	10号土坑	甕	底部破片	6.8cm	にぶい橙	5YR7/4	にぶい黄橙	10YR6/4	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
106	5区	10号土坑	甕	底部破片	8.6cm	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
107	5区	10号土坑	甕	底部破片	8cm	橙	2.5YR6/6	にぶい黄褐	10YR5/3	長石・石英	摩耗	摩耗	
108	5区	10号土坑	甕	底部破片	8cm	橙	7.5YR6/6	にぶい黄褐	10YR6/3	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
109	5区	10号土坑	甕	口縁部破片	26cm	橙	5YR6/6	明赤褐	5YR5/6	長石・石英	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
110	5区	10号土坑	甕	口縁部破片		橙	5YR6/6	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
111	5区	10号土坑	甕	口縁部破片	25.3cm	オリーブ褐	2.5Y4/3	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
112	5区	10号土坑	壺	胴部破片		にぶい黄褐	10YR5/4	にぶい黄褐	10YR5/3	長石・石英	ナデ	ナデ	
113	5区	10号土坑	壺	口縁部破片	27.9cm	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	長石・石英		ナデ	外・丹塗り黒斑・刻目, 須玖Ⅱ式
114	5区	10号土坑	壺	底部破片	6cm	明黄褐	10YR7/6	黄灰	2.5Y6/1	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
115	5区	10号土坑	高杯	口縁部	26cm	にぶい黄橙	10YR7/4	橙	7.5YR6/6	長石・石英		摩耗	内・丹塗り痕, 須玖Ⅱ式
117	5区	11号土坑	甕	口縁部破片	26.2cm	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
118	5区	11号土坑	甕	口縁部破片		黄橙	7.5YR7/8	橙	7.5YR7/6	長石・石英・金雲母	ナデ		須玖Ⅱ式
119	5区	11号土坑	甕	口縁部破片	22.6cm	にぶい黄褐	10YR5/3	にぶい黄褐	10YR5/4	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
120	5区	11号土坑	甕	口縁部破片	24.4cm	橙	5YR7/8	橙	5YR6/8	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
121	5区	11号土坑	甕	底部破片	8cm	褐灰	10YR6/1	橙	5YR7/6	長石・石英・金雲母	ナデ		
122	5区	11号土坑	甕	底部破片	7cm	橙	7.5YR6/6	明赤褐	2.5YR5/8	長石・石英・金雲母			
123	5区	12号土坑	甕	口縁部破片		橙	5YR6/6	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母			須玖Ⅱ式
124	5区	12号土坑	甕	底部破片		明褐	7.5YR5/6	黄褐	2.5Y5/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
125	5区	13号土坑	甕	口縁部破片	27.25cm	黄橙	10YR5/6	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
126	5区	14号土坑	甕	口縁部破片	26.8cm	明褐	7.5YR5/6	にぶい黄褐	2.5Y6/3	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
127	5区	14号土坑	甕	底部破片	5.7cm	にぶい黄褐・橙	10YR4/3・5YR6/8	灰褐	7.5YR4/2	長石・石英・金雲母	剥離	剥離	
128	5区	14号土坑	高杯	口縁部破片	23.5cm	橙	5YR6/8	にぶい黄橙	10YR7/4	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
129	5区	31号ピット	甕	底部破片	13.4cm	橙・暗灰黄	7.5YR7/6・2.5Y4/2	橙	7.5YR6/8	長石・石英・金雲母			
130	5区	34号ピット	甕	口縁部破片	22.4cm	暗灰黄	2.5Y5/2	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
131	5区	34号ピット	甕	底部破片	7.35cm	灰褐	7.5YR4/2	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	剥離	剥離	
132	5区	40号ピット	甕	口縁部破片	16.6cm	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
133	5区	40号ピット	甕	底部破片	8.1cm	橙	5YR6/8	にぶい黄褐	10YR5/4	長石・石英・金雲母			
134	1a区	9層	甕	口縁部破片	31cm	褐灰	7.5YR4/1	明赤褐	2.5YR5/6	長石・石英・金雲母	ナデ		須玖Ⅱ式
135	1a区	9層	甕	口縁部破片	27.5cm	灰黄	2.5Y7/2	にぶい橙	7.5YR7/3	長石・石英・金雲母	ナデ		須玖Ⅱ式
136	1a区	9層	甕	口縁部破片	22.9cm	灰オリーブ	5Y6/2	灰オリーブ	5Y6/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
137	1a区	9層	甕	口縁部破片		暗灰黄	2.5Y5/2	灰黄	2.5Y6/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
138	1a区	9層	甕	口縁部破片	18cm	明黄褐	10YR7/6	橙	7.5YR7/6	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
139	1a区	9層	甕	底部破片	6cm	灰白	10Y7/1	灰白	10Y7/1	長石・石英・金雲母			
140	1a区	9層	甕	底部破片	9.4cm	にぶい黄	2.5Y6/3	灰白	5Y7/2	長石・石英・金雲母			
141	1a区	9層		胴部破片		にぶい橙	5YR6/4	橙	5YR6/6	長石・石英・金雲母			
142	1a区	9層	甕	底部破片	8cm	灰黄褐	10YR6/2	にぶい褐	7.5YR6/3	長石・石英・金雲母	ミガキ		
144	2a区	6層	甕	口縁部破片		にぶい橙	7.5YR6/8	橙	2.5YR6/8	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅰ式
145	2a区	6層	甕	口縁部破片		にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい橙	7.5YR6/4	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅰ式
146	2a区	6層	甕	口縁部破片		にぶい黄褐	10YR5/3	にぶい黄橙	10YR7/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
147	2a区	5層	甕	口縁部破片		にぶい黄橙	10YR6/4	灰黄	2.5Y7/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
148	2a区	5層	甕	口縁部破片		にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4		ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
149	2a区	5層	甕	口縁部破片		橙	7.5YR6/6	明赤褐	5YR5/8	長石・石英・金雲母			須玖Ⅱ式
150	2a区	5層	甕	口縁部破片		明赤褐	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
151	2a区	5層	甕	口縁部破片		明褐	7.5YR5/6	橙	5YR7/6	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
152	2a区	5層	甕	口縁部破片		橙	5YR6/8	にぶい橙	7.5YR7/4	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
153	2a区	5層	甕	口縁部破片	32.4cm	オリーブ褐	2.5Y4/3	にぶい黄橙	10YR6/4	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
154	2a区	5層	甕	口縁部破片		にぶい黄	2.5Y6/4	にぶい黄	2.5Y6/4	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
155	2a区	5層	甕	口縁部破片	31.9cm	黄褐	2.5Y5/3	黄褐	2.5Y5/3	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
156	2a区	5層	甕	口縁部破片		橙	2.5YR6/6	にぶい黄橙	10YR6/3	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
157	2a区	5層	甕	口縁部破片	28.9cm	橙	5YR6/6	にぶい黄	7.5YR5/3	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
158	2a区	5層	甕	口縁部破片		褐	10YR4/6	にぶい橙	7.5YR7/4	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
159	2a区	5層	甕	口縁部破片	17cm	にぶい黄	2.5Y6/3	暗灰黄	2.5Y5/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ハケメ	布留式
160	2a区	5層	甕	底部破片	16.0cm	にぶい黄	2.5Y6/3	灰オリーブ	5Y6/2	長石・石英・金雲母	ナデ・ハケメ摩耗	ナデ	
161	2a区	5層	甕	底部破片	7cm	オリーブ黒	5Y3/2	明赤褐	5YR5/6	長石・石英・金雲母	ナデ摩耗	ナデ	
162	2a区	5層	甕	底部破片	7.55cm	黄褐	2.5Y5/4	にぶい黄	2.5Y6/3	長石・石英	ナデ・ハケメ	ナデ	
163	2a区	5層	甕	底部破片	7.5cm	橙	5YR6/6	灰黄褐	10YR6/2	長石・石英・金雲母	ナデ・ハケメ	ナデ	
164	2b区	6層	甕	口縁部破片		灰オリーブ	5Y6/2	オリーブ黄	7.5Y6/3	長石・石英・金雲母	ナデ・削り		須玖Ⅱ式
165	2b区	5層	甕	口縁部破片		にぶい黄橙	10YR7/4	橙	7.5YR7/6	長石・石英・金雲母	ナデ		須玖Ⅱ式
166	2b区	5層	甕	頸部破片		オリーブ黒	10Y3/1	灰	10Y4/1	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ・削り	布留式
167	2a区	3層	甕	口縁部破片		にぶい黄褐	10YR5/4	にぶい黄褐	10YR6/4	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
168	2a区	3層	甕	口縁部破片		浅黄	2.5Y7/3	灰黄	2.5Y6/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
169	2a区	3層	甕	口縁部破片		黒褐	7.5YR3/1	にぶい黄褐	10YR5/4	長石・石英	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
170	2a区	3層	高杯	脚部破片		灰黄褐	10YR5/2	にぶい黄橙	10YR6/3	長石・石英	ナデ	絞り	
171	2a区	4層	甕	口縁部破片		明褐灰	7.5YR7/2	にぶい褐	7.5YR6/3	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
172	2a区	4層	甕	口縁部破片		明赤褐	2.5YR5/6	灰黄褐	10YR6/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅰ式
173	2a区	4層	甕	口縁部破片		オリーブ褐	5Y6/3	灰オリーブ	5Y6/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅰ式

報告番号	調査区	遺構・層位	器種	部位	口径・底径	色調(外面)		色調(内面)		胎土	調整(外面)	調整(内面)	備考
						色	Hue	色	Hue				
174	2 a 区	4 層	甕	口縁部破片	32.2cm	にぶい橙	7.5YR6/4	灰黄	2.5Y7/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅰ式
175	2 a 区	4 層	甕	口縁部破片		にぶい赤褐	5YR5/1	灰黄	2.5Y6/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅰ式
176	2 a 区	4 層	甕	底部破片	6.6cm	赤褐	5YR4/6	にぶい赤褐	5YR4/3	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
177	2 a 区	4 層	甕	底部破片		オリーブ黒	5Y3/1	灰オリーブ	5Y4/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
178	4 a 区	8 層	甕		19.8cm	灰黄褐	10YR7/4	灰黄	2.5Y6/2	長石・石英・金雲母	ヨコナデ	ヨコナデ・指調整	接合,後期初頭
179	4 a 区	8 層	甕		22.5cm, 7.4cm	にぶい赤褐・灰褐	2.5YR5/4・5YR5/2	橙・黒褐	7.5YR6/6・7.5YR3/1	長石・石英	ヨコナデ	ヘラナデ・指押え・すす痕あり,後期初頭	
180	4 a 区	8 層	甕	口縁部破片	28.9cm	橙	7.5YR6/6	にぶい黄褐	10YR5/3	金雲母	指ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ	すす痕あり,須玖Ⅱ式
181	4 a 区	8 層	甕	口縁部破片	23.8cm	浅黄	2.5Y7/3	灰黄	2.5Y7/2	長石・石英・金雲母	ヨコナデ	ヨコナデ	須玖Ⅱ式
182	4 a 区	8 層	高杯	高杯	25.4cm, 17.8cm	にぶい黄	2.5Y6/3	にぶい黄	2.5Y6/3	長石・石英・金雲母	ヨコナデ		内・丹塗り,須玖Ⅱ式
183	4 a 区	8 層	高杯	高杯(杯)	35.2cm	にぶい黄	2.5Y6/4	にぶい黄	2.5Y6/4	長石・石英・金雲母			184と同一個体か,須玖Ⅱ式
184	4 a 区	8 層	高杯	高杯(脚)		黄褐	2.5Y5/3	灰オリーブ	5Y5/3	長石・石英・金雲母			183と同一個体か,須玖Ⅱ式
185	4 b 区	6 層	甕	底部破片	8cm	にぶい黄橙	10YR6/4	黒褐	10YR3/2	長石・石英・金雲母	ハケメ・ナデ	ナデ	
186	4 b 区	6 層	甕	底部破片	9.5cm	にぶい黄橙	10YR7/2	にぶい黄橙	10YR6/4	長石・石英・金雲母	ハケメ・ヨコナデ	ナデ	
187	4 b 区	6 層	甕	底部破片	8.3cm	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/4	長石・石英	摩耗	ナデ	
188	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	30cm	黒	10YR2/1	にぶい黄	2.5YR6/4	長石・石英・金雲母	ハケメ・ヨコナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
189	4 b 区	6 層	高杯	脚部破片		橙	7.5YR6/6	灰褐	7.5YR5/2	長石・石英・金雲母			
190	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	16.2cm	灰黄褐	10YR6/2	褐灰	10YR4/1	長石・石英	ハケメ・ヨコナデ		須玖Ⅱ式
191	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	24.5cm	にぶい橙	5YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/3	長石・石英	ヨコナデ・ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
192	4 b 区	6 層	壺	底部破片	9cm	明赤褐・黒	5YR5/6・5Y2/1	明赤褐	5YR5/6	長石・石英	ナデ	ナデ	
193	4 b 区	6 層	甕	底部破片	8.5cm	黄褐	2.5Y5/4	にぶい黄	2.5Y6/4	長石・石英	ナデ・ハケメ・圧痕+強いヨコナデ	ナデ	
194	4 b 区	6 層	高杯			にぶい黄	2.5Y6/4	にぶい黄橙	10YR6/4	長石・石英	ハケメ	ナデ	
195	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	28.7cm	赤褐	5YR4/6	にぶい赤褐	5YR4/4	長石・石英	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	須玖Ⅱ式
196	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	29.5cm	暗灰黄	2.5Y5/2	灰黄褐	10YR5/2	長石・石英	ヨコナデ・ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
197	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	24.6cm	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4	長石・石英・金雲母			須玖Ⅱ式
198	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	33.8cm	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	長石・石英			須玖Ⅱ式
199	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	22.3cm	明赤褐	5YR5/8	明赤褐	2.5YR5/6	長石・石英・金雲母	ミガキ・強いヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ミガキ	内・丹塗り,須玖Ⅱ式
200	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	30cm	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい褐	7.5YR5/4	長石・石英	ナデ・ハケメ	ナデ	須玖Ⅱ式
201	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	19.0cm	橙	7.5YR6/6	明赤褐	5YR5/6	長石・石英・金雲母	ヨコナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
202	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	24cm	にぶい黄橙	10YR6/4	明赤褐	5YR5/6	長石・石英	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	須玖Ⅱ式
203	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	17.8cm	橙・明黄褐	5YR6/8・10YR6/6	橙	5YR6/8	長石・石英	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	須玖Ⅱ式
204	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	28.2cm	明赤褐	2.5YR5/8	にぶい黄褐	10YR5/4	長石・石英・金雲母	ミガキ・ヨコナデ・暗文・刻み目	ナデ	外・丹塗り,須玖Ⅱ式
205	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	27.9cm	明赤褐	2.5YR5/8	黒褐	2.5Y3/1	長石・石英・金雲母	ミガキ・ナデ	ナデ	外・丹塗り,須玖Ⅱ式
206	4 b 区	6 層	高杯	すそ部破片		赤褐	2.5YR4/6	にぶい黄	2.5Y6/4	長石・石英・金雲母	ナデ		
207	4 b 区	6 層	高杯	すそ部破片		橙	7.5YR6/6	明赤褐	2.5YR5/6	長石・石英・金雲母	ナデ・摩耗	ナデ	
208	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	24.5cm	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙・橙	10YR7/4・7.5YR6/8	長石・石英	ヨコナデ・ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
209	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	24.2cm	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR6/4	長石・石英	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押え	須玖Ⅱ式
210	4 b 区	6 層	甕	底部破片	8cm	にぶい褐	7.5YR5/3	灰黄褐	10YR4/2	長石・石英・金雲母	ハケメ	指押え	
211	4 b 区	6 層		すそ部破片		橙	7.5YR6/8	橙・橙	5YR6/8・7.5YR6/6	長石・石英	ハケメ	ナデ	
212	4 b 区	6 層	甕		23.4cm	明赤褐・灰黄褐	2.5YR5/8・10YR6/2	明赤褐・にぶい褐	5YR5/6・7.5YR5/4	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・ヨコナデ	須玖Ⅱ式
213	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	23.1cm	灰白・橙	10YR8/2・2.5YR6/8	にぶい橙	7.5YR7/4	長石・石英	ヨコナデ・ハケメ・工具痕	ナデ	粘土の継ぎ目でハケメがかわる,須玖Ⅱ式
214	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	19.6cm	褐	7.5YR4/3	にぶい黄褐	10YR5/3	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
215	4 b 区	6 層	高杯	口縁部破片	26.7cm	橙	5YR6/6	明赤褐	2.5YR5/8	長石・石英	ミガキ・摩耗	ナデ・ミガキ	内・丹塗り,須玖Ⅱ式
216	4 b 区	6 層	蓋	つまみ部分破片		にぶい黄橙	10YR6/3	灰黄	2.5Y7/2	長石・石英・金雲母	ナデ・粘土たまり・工具痕	しぼり痕	
217	4 b 区	6 層	甕		28.8cm	暗灰黄	2.5Y5/2	暗灰黄	2.5Y4/2	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押え	須玖Ⅱ式
218	4 b 区	6 層	甕		29.3cm	橙・褐灰	2.5YR6/6・5YR4/1	褐灰	10YR	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ	須玖Ⅱ式
219	4 b 区	6 層	甕		30.4cm	明赤褐	5YR5/6	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ヘラナデ		すす痕,須玖Ⅱ式
220	4 b 区	6 層	甕		26.4cm	明赤褐	2.5YR5/6	明赤褐	2.5YR5/6	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ハケメ		須玖Ⅱ式
221	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	27.4cm	明黄褐・灰黄褐	10YR6/6・10YR4/2	にぶい褐	7.5YR5/3	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	須玖Ⅱ式
222	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	24.8cm	灰褐	7.5YR4/2	にぶい黄橙	10YR6/3	長石・石英・金雲母	ナデ・ハケメ	ナデ	須玖Ⅱ式
223	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	24cm	灰黄褐	10YR6/2	灰黄褐	10YR5/2	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	須玖Ⅱ式
224	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	28.8cm	にぶい橙・黒褐	5YR7/3・5YR3/1	にぶい橙	5YR7/4	長石・石英・金雲母	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ	須玖Ⅱ式
225	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	36.8cm	明赤褐	2.5YR5/6	灰黄褐	10YR4/2	長石・石英	ミガキ・ナデ		外・丹塗り,須玖Ⅱ式
226	4 b 区	6 層		口縁部破片	19・0cm	赤褐	2.5YR4/8	明赤褐	2.5YR5/6	長石・石英	ナデ・ミガキ	ナデ	外・丹塗り,須玖Ⅱ式
227	4 b 区	6 層	壺	底部破片	9.4cm	明赤褐	2.5YR5/8	赤褐	5YR4/8	石英・長石	ミガキ	ナデ	外・丹塗り
228	4 b 区	6 層	甕		30.4cm	明赤褐	2.5YR5/8	橙	5YR6/6	長石・石英	ヨコナデ・暗文・ミガキ	ヨコナデ	外・丹塗り痕,須玖Ⅱ式
229	4 b 区	6 層	甕	底部破片	7.8cm	にぶい褐	7.5YR5/4	橙	7.5YR6/6	長石・石英	ハケメ・ナデ	ナデ	
230	4 b 区	6 層	甕	底部破片	7.6cm	橙	5YR6/6	褐灰	10YR4/1	長石・石英・金雲母	ハケメ・ナデ	ナデ	
231	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	28.8cm	にぶい黄褐・明褐	10YR5/3・7.5YR5/6	明褐・にぶい黄橙	7.5YR5/6・10YR6/4	長石・石英	ナデ・強いヨコナデ・一部ミガキ	ナデ	須玖Ⅱ式
232	4 b 区	6 層	甕	口縁部破片	29cm	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR6/3	長石・石英	ヨコナデ・強いヨコナデ・ハケメ	ナデ	須玖Ⅱ式
233	4 b 区	6 層	袋状口縁壺	口縁部破片	11.2cm	明赤褐	5YR4/6	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	ミガキ		内・外丹塗り
234	1 b 区	11 層	甕	口縁部破片		黒褐	2.5Y3/1	浅黄	2.5Y7/3	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
235	1 b 区	11 層	甕	口縁部破片	26cm	明褐	7.5YR5/6	灰黄褐	10YR5/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	須玖Ⅱ式
236	3 b 区	7 層	甕	口縁部破片		橙	7.5YR6/6	黄褐	2.5Y5/3	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
237	3 b 区	7 層	甕	底部破片		明褐	7.5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	
238	5 区	1 層	甕	口縁部破片	24.1cm	明黄褐	10YR6/6	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	摩耗	摩耗	須玖Ⅱ式
239	5 区	1 層	甕	底部破片		にぶい黄橙	10YR6/4	灰黄	2.5Y6/2	長石・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
240	5 区	1 層	高杯			にぶい黄橙	10YR6/3	橙	7.5YR6/6	長石・石英・金雲母	摩耗・しぼり	摩耗	
243	1 a 区	2 層	徳利	胴部破片		明黄褐	2.5Y7/6	明黄褐	2.5Y7/6	長石			染付
246	2 b 区	4 層	中世土師器	底部破片	7.4cm	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	金雲母			
247	2 b 区	4 層	中世土師器	底部破片	5.6cm	橙	5YR6/8	橙	5YR6/8	金雲母			
248	2 b 区	4 層	中世土師器	口縁部破片	15.5cm	橙	5YR6/8	明赤褐	5YR5/8	金雲母			
249	2 b 区	4 層	中世土師器	口縁部破片	23.4cm	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6			ヨコナデ	
250	2 b 区	2 b 層	朝鮮時代青磁	口縁部破片		灰オリーブ	7.5Y6/2	灰オリーブ	7.5Y6/2		無釉	無釉	朝鮮時代
252	3 a 区	5 層	須恵器								沈線	ナデ	
253	3 b 区	5 層	白磁碗	口縁部破片		灰オリーブ	5Y6/2	灰オリーブ	5Y6/2		施釉	施釉	
255	3 a 区	3 層	青磁碗	底部破片		灰白	2.5Y7/1	灰オリーブ	5Y6/2		無釉	施釉	中国青磁
256	3 a 区	2 層	近世磁器										
257	3 a 区	2 層	近世磁器	口縁部破片		青灰	5BG6/1	にぶい橙	7.5YR6/4		施釉	無釉	
258	4 b 区	6 層	近世磁器	口縁部破片		灰白	7.5Y8/1	灰白	7.5Y8/1		施釉	施釉	
259	4 b 区	2 層	朝鮮時代青磁	口縁部破片		灰	7.5Y5/1	灰	7.5Y5/1		施釉	施釉	朝鮮時代
260	4 b 区	2 層	青磁	口縁部破片		にぶい黄	2.5Y6/4	にぶい黄	2.5Y6/4		施釉	施釉	
262	4 b 区	1 層	朝鮮時代青磁	口縁部破片		にぶい黄	2.5Y6/3	にぶい黄	2.5Y6/3		施釉	施釉	朝鮮時代
263	4 b 区	1 層	朝鮮時代青磁	口縁部破片		灰黄	2.5Y6/1	灰黄	2.5Y6/2		施釉	施釉	朝鮮時代
264	4 b 区	1 層	近世磁器	口縁部破片		灰白	5Y7/1	灰白	5Y7/1		施釉	施釉	
265	4 b 区	1 層	近世磁器	口縁部破片		灰	10Y6/1	灰	10Y6/1		施釉	施釉	

表５　遺物観察表（石器）

報告番号	調査区	遺構・層位	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
85	５区	９号土坑①層	石剣	3	2.5	0.3	3.1
86	５区	９号土坑②層	砥石	13.1	8.6	2.7	531.95
116	５区	10号土坑	石錘	9.7	3.3	1.3	74.17
143	２a区	６層	石鑿	7.85	3	0.8	31.2
241	５区	１層	柱状片刃石斧	5.95	3.2	3.2	66.42
242	１a区	9	用途不明石器	9.7	1.9	2	54.44
245	１a区	２層	石斧	13.7	5.4	4	500
251	２b区	２a層	用途不明石器	7.25	2.05	0.75	15.2
254	３a区	５層	石剣	5.9	3.35	0.9	27.49
261	４b区	２層	砥石	13.6	6.3	5.6	460

表６　遺物観察表（金属器）

報告番号	調査区	遺構・層位	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
244	１a区	２層	弾丸	1.1	1.05	0.9	6.3
266	４a区	攪乱②層	足袋のコハゼ	1.7	1.6	0.1	

表７　遺物観察表（木製品）

遺物番号	調査区	層位	種類	長さcm	最大径cm
62	３b区	２号溝	木杭	22.3cm	2.3cm
63	３b区	２号溝	木杭	28cm	3.85cm
64	３b区	２号溝	木杭	32cm	4.8cm
267	４b区	４層	木杭	24.4cm	5.2cm
268	４b区	４層	木杭	23.6cm	4 cm
269	４b区	４層	木杭	42.9cm	4.85cm

Ⅳ　総　　括

１．土坑・ピット群について（図46）

今次の川原畑地区の調査では，多数の土坑・ピット群が検出された。平面分布としては１ｂ区，３ｂ区，５区にみられ，調査区東側に集中する。1994年度川原畑地区の調査（山下2997）ではＢ区で土坑・ピットが集中して出土していることと対応する。ほとんど全ての土坑・ピットは上面が削平を受けているものとみられ，本来の掘り込み面の標高は不明である。底面の標高は4.90m～5.10mに集中する。これらの土坑・ピット群の時期は須玖Ⅱ式が主体的に出土していることから弥生時代中期後葉であるとみられる。土坑内から出土する土器は磨耗が甚だしいことや底面附近では完形に復元できる土器が出土するものの，断面をみると土層の堆積に沿って遺物も分布していることから土坑に廃棄後しばらくして土層が堆積したものとみられる。ただし，土器型式の時期幅は大きくないため，弥生時代後期初頭には既に埋没していたことは確実である。

土坑の多くは生活用具を廃棄したいわゆる廃棄土坑であるとみられる。５区１号土坑については丹塗土器や石剣片が出土したことから祭祀土坑の可能性も考えられるが，断定する積極的な根拠はない。

なお，土坑・ピット群は多数確認されたものの，住居址とみられる遺構は発見されておらず，また1994年度川原畑地区の調査でも住居址は確認されていないことから，河川東岸の土地は居住以外の生活空間として利用されたものとみられる。

２．自然河川跡における遺物の出土状況について

河川堆積土層からの遺物の出土傾向をみると，１区及び２区における河川の作用による２次堆積と４ａ区及び４ｂ区における人為的な投棄による埋没という２類型の出土状況に分類される。

河川の作用による２次堆積においても，１区と２区の様相には差異があり，河川西側に該当する２ａ区では比較的多量の遺物が集中して出土する一方，河川東側１ａ区では少量の遺物が散漫に出土し，河川中央部と推定される２ｂ区では遺物の分布があまりみられない。これは，河川の埋没状況や流速の差異が反映しているものとみられ，特に河川西側では流れが緩慢で，遺物が堆積しやすい状況にあったものと推察される。このように箇所によって河川の流速が異なっていたことは，流路が必ずしも直線的ではなく蛇行していたことを窺わせる。

一方，４ａ区や４ｂ区でみられた土器出土状況は自然堆積とは様相を異にする。これらの資料は，遺存状況が極めて良好で，個体復元できるものも多く，また磨耗も少ない。調査区東側では多くの土坑・ピット群が検出されているが，このような土坑・ピット群が，河川によって覆われた可能性もないわけではない。しかし，調査区東側の土坑・ピット群で出土する土器は比較的磨耗が甚だしい。一方，４ｂ区等で出土した土器はほとんど磨耗もなく，今次の調査で最も遺存状態が良好な一群である。このような点からは，陸地に築かれた土坑・ピット群に由来する土器が河川に覆われたと考えるよりは，河川に人為的に土器を投棄し，磨耗を受けることがほとんどないくらい短い期間で埋没し，水分の多い土壌により包含された結果，極めて遺存状況の良い出土状況に至ったと考える方が合理的であると判断される。

このような４ａ区や４ｂ区にみられた河川中の土器溜の性格についての正確な判断は難しいが，人

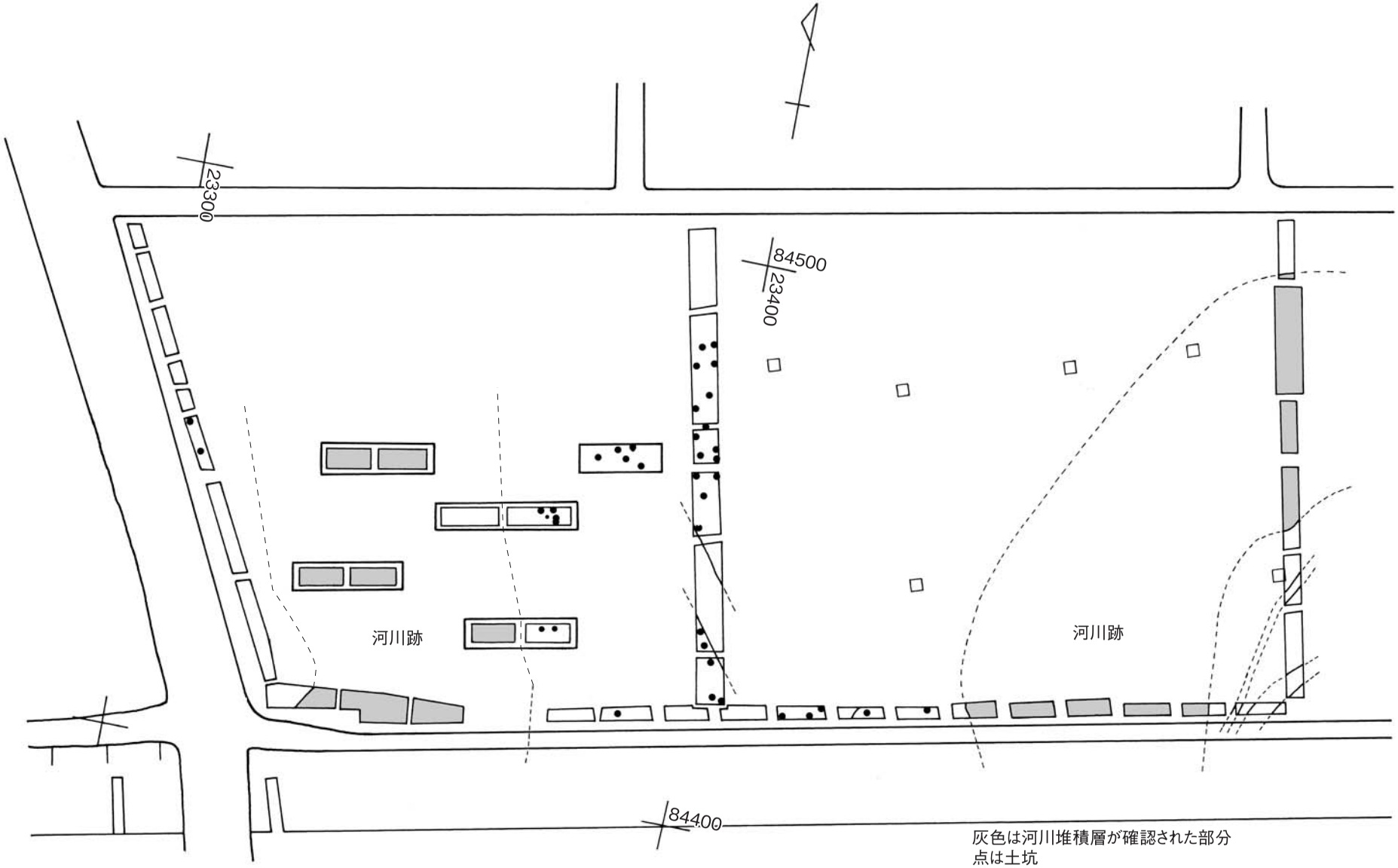


図46　川原畑地区弥生時代遺構分布図（1／1000）

為的に形成されている点，丹塗土器が多く認められる点などから水辺の祭祀など精神文化に関わる行為が行われた結果であるという可能性が考えられる。これまでにも原の辻遺跡では水辺での祭祀行為が指摘されたことがある。2003年度調査不條地区では河道２の④層から弥生時代中期後葉から後期初頭にかけての丹塗土器が集中して出土しており，祭祀が行われたとみられている。また，川岸には弥生時代中期前葉の祭祀土坑が検出されている（林2005）。このように河川に丹塗土器を集中して投棄する祭祀が丘陵西側低地で行われていたことが明らかになっているが，今次の調査で出土した４ｂ区の河川内土器溜についても同様に性格を考えることができ，丘陵北側低地でも水辺の祭祀が行われていたものとみられる。

３．出土遺物について

今次の川原畑地区における調査では弥生時代土器をはじめ多量の遺物が出土した。遺物は須玖Ⅱ式古段階を中心とする時期の遺物が多い。甕には遠賀川以西系の逆Ｌ字口縁の甕が多くみられるが，遠賀川以東系の跳ね上げ口縁の甕も一定量認められる。これは，完掘した土坑である５区１号土坑というある程度一括性の保証された土器群でみられるばかりでなく，４ｂ区６層といった河川堆積層においても同様であり，この地区の特徴であるといえる。1994年度川原畑地区調査においても遠賀川以東系に跳ね上げ口縁甕が多く出土し，多く出土した土坑では20％前後の出現率を示していることは，今次の調査成果と対応している。なお，遠賀川以東系の跳ね上げ口縁の口縁部（頸部直上）に，鋭い木片状の工具痕が残る例が多い（138，202，213，214，224，232等）。この工具痕の中にはあたかも口縁部を一巡する文様装飾のような効果を出しているものもある。このような工具痕について北九州市小倉南区所在の重留遺跡の調査報告では、「口縁部を接合するときに、ハケメ原体を口縁部の下に当てて、口縁部を上方から接合する際の支えにした結果、残った痕跡」であると想定されている（柴尾2001）（註１）。この工具痕と胴部に調整されるハケメ原体が同一のものであるかは今後の検討課題としたいが，年輪痕がみられないものもあることは注意される。これまでの原の辻遺跡の報告ではほとんど注意されたことがないのでここに特筆しておく。

また，今次の調査では丹塗土器も河川堆積層である４ｂ区６層などから多く出土した。2005年までに原の辻遺跡で出土した丹塗土器を分析した林隆広によって低地部，すなわち水辺で多く出土するということが指摘されていたが（林2005），４ｂ区の出土事例などはまさにこのような傾向を補強し，水辺の祭祀と丹塗土器の結びつきを想定させてくれる。これまで原の辻遺跡全体で出土した丹塗土器の中で袋状口縁壺の比率が相当に高いことから糸島地域との関係が想定されてきた。しかし，今次の調査で出土した丹塗土器の中で袋状口縁壺の比率が極端に高いということはなく，甕や広口壺も相当数認められることはこれまでの出土傾向とはやや様相を異にする。今次の調査区である川原畑地区では，上述のとおり遠賀川以東系の土器が相当数出土していることからみて，遠賀川以東の地域との結びつきが強かったため，袋状口縁壺がとりわけ多く出土するという状況にいたらなかったものと推察される。

なお，今次の川原畑地区の調査では，韓半島・中国大陸系といった外来系土器の出土はみられなかった。今次の調査で主体的に出土した須玖Ⅱ式段階は併行関係からみると，粘土帯土器や滑石混入土器を含む楽浪系土器が該当する。これまでの調査結果（古澤2010）と照らしても川原畑地区における外

来系土器の比率は高くなく，また，弥生時代中期の外来系土器は不條地区に集中し，弥生時代中期の段階における不條地区での渡来人の集住が想定されてきた（宮﨑2000）。今次の調査で外来系土器の出土がみられなかったことはこれまでの出土傾向を補強するものであるといえる。

４．川原畑地区における時期的変遷

弥生時代中期

調査区中央を中心に幅約45m程度の河川が流れていた。河川堆積土からは須玖Ⅰ式新段階・須玖Ⅱ式段階の土器が主体的に包含されていることから，弥生時代中期に堆積が始まっている。そして，この河川に対して，４区など一部では土器を人為的に投棄するような祭祀的行為が行われていた。河川堆積は土器の遺存状況が良好な４区では，土器投棄後ほどなく堆積したものとみられる一方，磨耗した土器の細片が多く出土した２区では河川作用による２次堆積がみられる。このことは２ｂ区６層で花粉密度が比較的高く，４ａ区８層，４ｂ区６層では花粉密度が比較的低いことと関連がある可能性がある。４ｂ区６層で花粉がほとんど検出されなかった要因の一つに土層の堆積速度の速さが挙げられており，遺物の出土状況からの想定と整合的である。環境としては日当たりの良い比較的乾燥した人里であったことが検出された草木類花粉から推測されている。

一方，１ｂ区・３ｂ区・５区といった調査区東側では，土坑・ピット群が多く築かれた。1994年度の調査でも附近で多くの土坑・ピット群が検出されているが，これらの土坑・ピット群と一連のものである。土坑の多くは廃棄土坑であるとみられる。住居址と判断される遺構は1994年度の調査も含めて認められないため，調査区東側という河川の東岸の空間は居住空間ではない生活空間であったものとみられる。

弥生時代後期・古墳時代初頭

この時期の遺構は認められない。遺物としては２ａ区・２ｂ区５層といった河川堆積土から少量認められるため，この段階にも河川の堆積は続いていたものであると考えられる。

古代

1994年度の調査では，道路状遺構が発見されていたため，今次の調査でも道路状遺構の延伸部分の発見が期待されていたが，遺憾なことに後世の削平のため，５区では既に古代の包含層は煙滅していた。３ａ区で古代の須恵器が少量確認されているのは，この時期の土地利用を示すものではないかと考えられる。また，１ａ区河川跡から出土した自然木の放射性炭素年代（1350±30年 BP）や1994年度調査におけるＤ２区・Ｄ３区からは土師器等も出土していることから古墳時代・奈良時代にも河川部の堆積作用が継続していたことが想定される。

中世

中世の明確な遺構は確認されなかったが，貿易陶磁や土師皿などが少量出土している。貿易陶磁で特筆されることは朝鮮時代の雑釉陶磁が比較的多くみられることである。一方，中国系の貿易陶磁の出土点数は多くはない。このことは中世の大消費地であった博多における貿易陶磁の出土比率とは顕

著な差異を示しており，壱岐の勢力が独自に韓半島と交渉を持っていたことを示す可能性がある。さらに朝鮮時代の陶磁については象嵌青磁や粉青沙器などを含まず，ほとんどが雑釉陶磁であり，日常生活用具であることも特徴である。この時期の当該地域の土地利用としては，木杭などの出土から農地としての利用が想定される。

近世

この時期の遺構としては２号溝が挙げられる。この溝に沿って木杭が打たれており，用水関係の遺構とみられ，農地としてこの土地が利用されたことが想定される。

５．2012年度川原畑地区の調査成果

2012年度の川原畑地区の調査の成果としては，①従来の調査で確認されていた弥生時代の河川の状況確認，②弥生時代中期における河川に対する祭祀行為の想定，③従来の調査で確認されていた弥生時代中期の土坑・ピット群の面的な広がりの確認，④中世・近世における当該地の土地利用様相の確認等が挙げられる。これらの成果により今後，史跡整備にあたって貴重な資料を提示したという点に本調査の意義がある。

（註１）この点について財団法人北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室の柴尾俊介氏、九州大学大学院比較社会文化研究院の石田智子氏からご教示を得た。柴尾氏によるとこの工具痕は北九州市域の遠賀川以東系跳ね上げ口縁甕に必ずみられるものではないという。また、石田氏によるとカラカミ遺跡出土遠賀川以東系跳ね上げ口縁甕にも同様の工具痕が認められるという。

【引用文献】

柴尾俊介2001『重留遺跡第３地点』北九州市埋蔵文化財調査報告書　第268集

林隆広　2005『原の辻遺跡主要地方道勝本石田線道路改良工事に伴う緊急発掘調査報告書②』原の辻遺跡調査事務所調査報告 第29集

古澤義久　2010「壱岐における韓半島系土器の様相」『日本出土の朝鮮半島系土器の再検討－弥生時代を中心に－』第59回埋蔵文化財研究集会発表要旨集

宮﨑貴夫　2000「原の辻遺跡の朝鮮半島系土器について」『原の辻ニュースレター』５

山下英明　1997「原の辻遺跡（平成６年度川原畑地区）の調査」『原の辻遺跡・安国寺前Ａ遺跡・安国寺前Ｂ遺跡幡鉾川流域総合整備計画（圃場整備事業）に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ』原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第１集

2012年度原之辻遗址川原畑地区发掘调查成果

2012年11月1日～2013年1月18日，为了明确土地利用状况，对原之辻遗址北侧低地处进行了发掘调查。发掘调查区域为，南北5米东西20米的三个区域，南北5米东西25米的一个区域，和南北5米东西15米的一个区域，并从1到5分别编号，共分为五个区域。边长20米以及25米的调查区又被分为西侧（a区）和东侧（b区）。第5区没有划分。根据目前的调查结果，在调查区域的周围发现了弥生时代中期的河流，灰坑・小灰坑群。

根据发掘调查的结果，共发现了灰坑14坐，小灰坑48坐，沟2条，河流1条等。在调查区中央和西侧发现了弥生时代的河流。遗物散乱地分布在河流中。但是在第4区的河流，由于集中出土红衣陶等，因此确认了丢弃陶器的状况。有可能举行过祭祀仪式。在调查区的东侧，弥生时代中期的灰坑・小灰坑相对集中。大部分的灰坑是用来丢弃生活用具的。因为没发现房址，可以推断河流东岸不是居住地。

此次调查出土的遗物，主要认为有弥生陶器，弥生时代石器，中世的陶器，朝鲜时代陶瓷等。

（訳：古澤義久，校：張佳）

2012년도 하루노쯔지（原の辻）유적 카와하라바타케(川原畑)지구 발굴 조사 성과

2012 년 11 월 1 일～2013 년 1 월 18 일에 걸쳐,하루노쯔지유적 북측 저지부 토지 이용을 밝히는 것을 목적으로 발굴조사를 실시하였다.발굴조사구는 남북 5m×동서 20m 조사구 3 개소,남북 5m×동서 25m 조사구 1 개소,남북 5×15m 조사구 1 개소를 설정하고,1 구에서 5 구까지 번호를 지정하였다.또한,장변이 20m및 25m 는 길기 때문에 조사구를 절반으로 나누어 서측을 a 구,동측을 b 구（5 구는 분할하지 않음）라고 하였다.현재까지 발굴구 주변 조사에서는,야요이시대 중기의 하천유적,토갱 ・ 구멍이 발견되었다.

이번 발굴조사에서는 ,토갱 14 기,구멍 48 기,구상유구 2 조,하천등이 발견되었다.조사구 중앙 및 서측에서는 야요이시대의 하천이 발견되었다.하천에서는 유물이 흩어져서 출토되고 있지만, 4 구에서는 단도마연토기 등이 집중적으로 출토되고 있고,인위적으로 토기를 폐기 한 양상이 확인되었다.제사의식을 치루었을 가능성이 보여진다.조사구 동측에서는 야요이시대 중기의 토갱・구멍이 집중적으로 발견되었다.대부분의 토갱은 생활 용구를 폐기한 것으로 추측된다.그러나 주거지 등은 발견되지 않았기 때문에,하천의 동측은 거주공간은 아니었던 것으로 추측된다.

출토 유물로는 야요이 토기,야요이시대 석기,중세 하지키,조선시대 도자기 등이 있다.

（訳：高恩美，校：古澤義久）

写真１　１ｂ区１号土坑出土土器（19）

写真２　１ｂ区２号土坑遺物出土状況（覆土１面）

写真３　１ｂ区２号土坑遺物出土状況（床面附近）

写真４　４ａ区８層土器出土状況

写真５　４ｂ区６層土器出土状況

写真６　５区土坑・ピット検出状況

写真７　５区９号土坑遺物出土状況

写真８　５区10号土坑検出状況

平成24年度原の辻遺跡調査研究事業発掘調査における自然科学分析

株式会社　古環境研究所

Ⅰ．原の辻遺跡における放射性炭素年代測定

1．はじめに

放射性炭素年代測定は，光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（^{14}C）の濃度が，放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体，骨，貝殻，土壌，土器付着炭化物などが測定対象となり，約５万年前までの年代測定が可能である。

2．試料と方法

次表に，試料の採取箇所，種類，前処理・調整法および測定法を示す。

試料名	採取箇所	種類	前処理・調整	測定法
№4	川原畑１ａ区，９層出土	木材	酸－アルカリ－酸洗浄	AMS
№5	川原畑１ｂ区， １号土坑土器19内出土木材	木材	酸－アルカリ－酸洗浄	AMS

AMS：加速器質量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）

3．測定結果

加速器質量分析法（AMS）によって得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行い，放射性炭素（^{14}C）年代および暦年代（較正年代）を算出した。次表にこれらの結果を示す。

試料名	測定№ （Beta−）	未補正^{14}C年代 （年BP）	δ^{13}C （‰）	^{14}C年代 （年BP）	暦年代（較正年代） （２σ：95％確率，１σ：68％確率）
№4	341792	1370±30	−26.3	1350±30	交点：Cal AD660 ２σ：Cal AD650～690 １σ：Cal AD650～670
№5	341793	1990±30	−26.2	1970±30	交点：Cal AD30，40，50 ２σ：Cal BC 40～AD80 １σ：Cal AD 0 ～70

BP：Before Physics（Present），Cal：Calibrated，BC：紀元前，AD：西暦紀元

(1)　未補正^{14}C年代

試料の^{14}C/^{12}C比から，単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は5,730年であるが，国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いている。

(2)　δ^{13}C（デルタ）測定値

試料の測定^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）

の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。試料のδ^{13}C値を－25（‰）に標準化することで同位体分別効果を補正している。

(3) ^{14}C年代

δ^{13}C測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。暦年代較正にはこの年代値を使用する。

(4) 暦年代（Calendar Years）

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中^{14}C濃度の変動および^{14}Cの半減期の違いを較正することで，より実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には，年代既知の樹木年輪の詳細な^{14}C測定値およびサンゴのU/Th（ウラン/トリウム）年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線（IntCal09）を使用した。

暦年代の交点は，^{14}C年代値と較正曲線との交点の暦年代値を示し，1σ（シグマ）（68％確率）と2σ（95％確率）は，^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって，複数の交点や複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

4．所見

加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定の結果，№4の木材では1350±30年BP（2σの暦年代でAD650～690年），№5の木材では1970±30年BP（BC40～AD80年）の年代値が得られた。

【文献】

Paula J Reimer et al., (2009) IntCal 09 and Marine 09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0−50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, p.1111-1150.

中村俊夫（2003）放射性炭素年代測定法と暦年代較正．環境考古学マニュアル．同成社，p. 301−322.

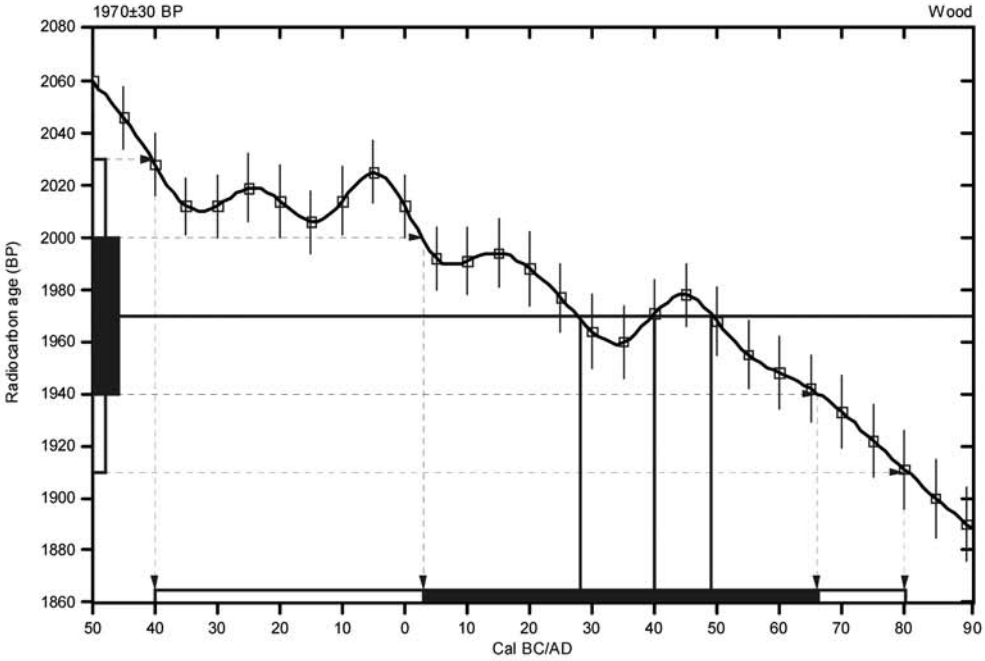
CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.2:lab. mult=1)

Laboratory number:	**Beta-341793**
Conventional radiocarbon age:	**1970±30 BP**
2 Sigma calibrated result: (95% probability)	**Cal BC 40 Cal AD 80 (Cal BP 1990 to 1870)**

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age with calibration curve:	Cal AD 30 (Cal BP 1920) and Cal AD 40 (Cal BP 1910) and Cal AD 50 (Cal BP 1900)
1 Sigma calibrated result: (68% probability)	Cal AD 0 to 70 (Cal BP 1950 to 1880)



References:

Database used

INTCAL09

References to INTCAL09 database

Heaton,et.al.,2009, Radiocarbon 51(4):1151-1164, Reimer,et.al, 2009, Radiocarbon 51(4):1111-1150, Stuiver,et.al,1993, Radiocarbon 35(1):1-244, Oeschger,et.al.,1975,Tellus 27: 168-192

Mathematics used for calibration scenario

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2):317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

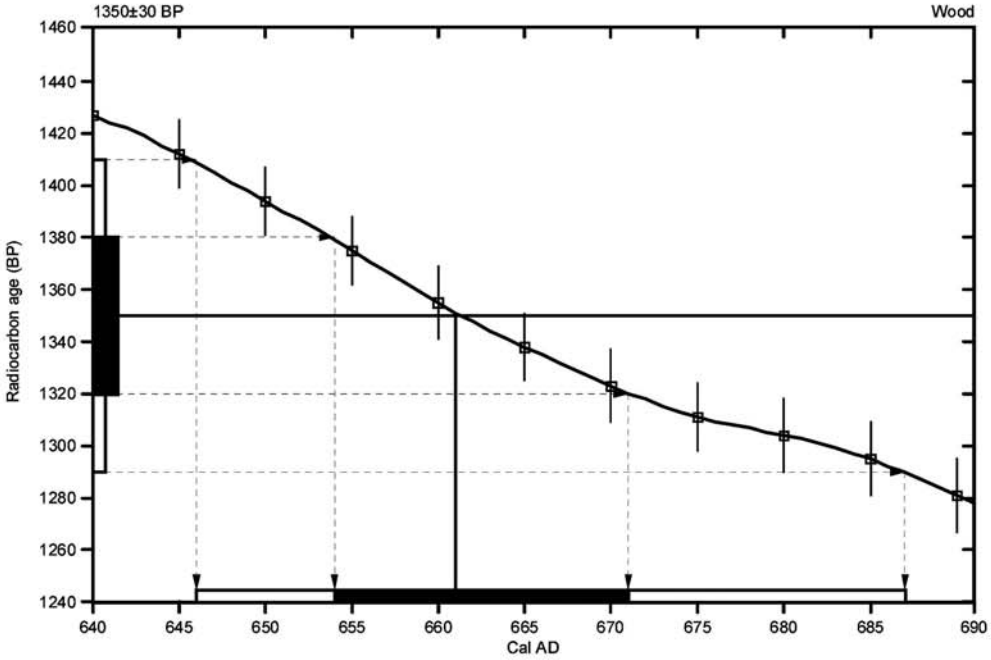
CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.3:lab. mult=1)

Laboratory number:	**Beta-341792**
Conventional radiocarbon age:	**1350±30 BP**
2 Sigma calibrated result: (95% probability)	**Cal AD 650 to 690 (Cal BP 1300 to 1260)**

Intercept data

Intercept of radiocarbon age with calibration curve:	Cal AD 660 (Cal BP 1290)
1 Sigma calibrated result: (68% probability)	Cal AD 650 to 670 (Cal BP 1300 to 1280)



References:

Database used

INTCAL09

References to INTCAL09 database

Heaton,et.al.,2009, Radiocarbon 51(4):1151-1164, Reimer,et.al, 2009, Radiocarbon 51(4):1111-1150, Stuiver,et.al,1993, Radiocarbon 35(1):137-189, Oeschger,et.al.,1975,Tellus 27:168-192

Mathematics used for calibration scenario

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2):317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

Ⅱ．原の辻遺跡における花粉分析

１．はじめに

花粉分析は，一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており，遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は，水成堆積物では保存状況が良好であるが，乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

２．試料

分析試料は，川原畑２ｂ区の６層，４ａ区の８層，４ｂ区６層から採取された№１～№３の計３点である。

３．方法

花粉の分離抽出は，中村（1967）の方法をもとに，以下の手順で行った。

１）試料から１㎤を秤量

２）0.5％リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加えて15分間湯煎

３）水洗処理の後，0.5㎜の篩で礫などの大きな粒子を取り除き，沈澱法で砂粒を除去

４）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置

５）水洗処理の後，氷酢酸によって脱水し，アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す

６）再び氷酢酸を加えて水洗処理

７）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し，グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成

８）検鏡・計数

検鏡は，生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は，島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして，所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって，科，亜科，属，亜属，節および種の階級で分類し，複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。イネ属については，中村（1974，1977）を参考にして，現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが，個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

４．結果

⑴　分類群

出現した分類群は，樹木花粉13，樹木花粉と草本花粉を含むもの５，草本花粉13，シダ植物胞子２形態の計33である。なお，寄生虫卵は認められなかった。分析結果を表１に示し，花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マツ属複維管束亜属，スギ，ハンノキ属，クリ，シイ属－マテバシイ属，コナラ属コナラ亜属，コナ

ラ属アカガシ亜属，ニレ属－ケヤキ，サンショウ属，モチノキ属，ブドウ属，アオキ属，イスノキ属
〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕
クワ科－イラクサ科，バラ科，マメ科，ゴマノハグサ科，ニワトコ属－ガマズミ属
〔草本花粉〕
イネ科，イネ属型，カヤツリグサ科，ネギ属，ギシギシ属，アカザ科－ヒユ科，ナデシコ科，キンポウゲ属，アブラナ科，ゴキヅル，タンポポ亜科，キク亜科，ヨモギ属
〔シダ植物胞子〕
単条溝胞子，三条溝胞子

(2) 花粉群集の特徴

1）２ｂ区６層（№1）

花粉密度が比較的高く，草本花粉の占める割合が71.5%，樹木花粉が20.5%である。草本花粉では，ヨモギ属，イネ科（イネ属型を含む）が優勢で，カヤツリグサ科，タンポポ亜科，アブラナ科，キンポウゲ属，ゴキヅル，キク亜科などが伴われる。樹木花粉では，シイ属－マテバシイ属，クリ，コナラ属アカガシ亜属，スギなどが認められた。

2）４ａ区８層（№2）

花粉密度が比較的低く，草本花粉の占める割合が59.0%，樹木花粉が12.5%，シダ植物胞子が28.5%である。草本花粉では，ヨモギ属，イネ科が優勢で，カヤツリグサ科，タンポポ亜科，キク亜科などが伴われる。樹木花粉では，コナラ属アカガシ亜属，シイ属－マテバシイ属，クリ，コナラ属コナラ亜属，ハンノキ属，スギなどが認められた。

3）４ｂ区６層（№3）

タンポポ亜科，キク亜科などが検出されたが，いずれも少量である。

5．花粉分析から推定される植生と環境

２ｂ区６層の堆積当時は，ヨモギ属やイネ科をはじめ，カヤツリグサ科，タンポポ亜科，キク亜科，アブラナ科などの草本類が生育する日当たりの良い比較的乾燥した人里の環境であったと推定される。また，少量ながらイネ属型が認められることから，周辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。森林植生としては，周辺地域にシイ類（シイ属－マテバシイ属），カシ類（コナラ属アカガシ亜属）などの照葉樹，クリ，ナラ類（コナラ属コナラ亜属）などの落葉広葉樹，およびスギなどが分布していたと推定される。

４ａ区８層では，花粉密度が比較的低いことから植生や環境の詳細な推定は困難であるが，２ｂ区６層と花粉組成が類似していることから，おおむね同様の状況であった可能性が考えられる。

４ｂ区６層では，花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては，1）乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと，2）土層の堆積速度が速かったこと，3）水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられる。

【文献】

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p. 248–262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集，60p.

中村純（1967）花粉分析．古今書院，p. 82–110.

中村純（1974）イネ科花粉について，とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，p. 187–193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p. 21–30.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

表１　原の辻遺跡における花粉分析結果

分類群		川原畑2b区	川原畑4a区	川原畑4b区
学名	和名	６層	８層	６層
Arboreal pollen	樹木花粉			
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	3		
Cryptomeria japonica	スギ	1	1	
Alnus	ハンノキ属		2	
Castanea crenata	クリ	16	3	
Castanopsis-Pasania	シイ属-マテバシイ属	27	4	
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	5	3	
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	13	10	
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	1		
Zanthoxylum	サンショウ属	1		
Ilex	モチノキ属	1		
Vitis	ブドウ属	1		
Aucuba	アオキ属	1		
Distylium	イスノキ属	1		
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉			
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	5		
Rosaceae	バラ科	1		
Leguminosae	マメ科	1		
Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科	1		
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属	2	1	
Nonarboreal pollen	草本花粉			
Gramineae	イネ科	69	35	
Oryza type	イネ属型	2		
Cyperaceae	カヤツリグサ科	18	10	1
Allium	ネギ属	1		
Rumex	ギシギシ属	2		
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	3	1	
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1		
Ranunculus	キンポウゲ属	4		
Cruciferae	アブラナ科	7		
Actinostemma lobatum	ゴキヅル	5		
Lactucoideae	タンポポ亜科	13	9	1
Asteroideae	キク亜科	5	7	
Artemisia	ヨモギ属	122	48	2
Fern spore	シダ植物胞子			
Monolate type spore	単条溝胞子	6	29	4
Trilate type spore	三条溝胞子	13	24	
Arboreal pollen	樹木花粉	71	23	
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	10	1	
Nonarboreal pollen	草本花粉	252	110	4
Total pollen	花粉総数	333	134	4
Pollen frequencies of 1cm^3	試料1cm^{3}中の花粉密度	5.0 $\times 10^3$	5.0 $\times 10^2$	3.6 $\times 10$
Unknown pollen	未同定花粉	4	12	2
Fern spore	シダ植物胞子	19	53	4
Helminth eggs	寄生虫卵	(−)	(−)	(−)
Stone cell	石細胞	(−)	(−)	(−)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(−)	(−)	(−)
Charcoal fragments	微細炭化物	(++)	(+)	(+)

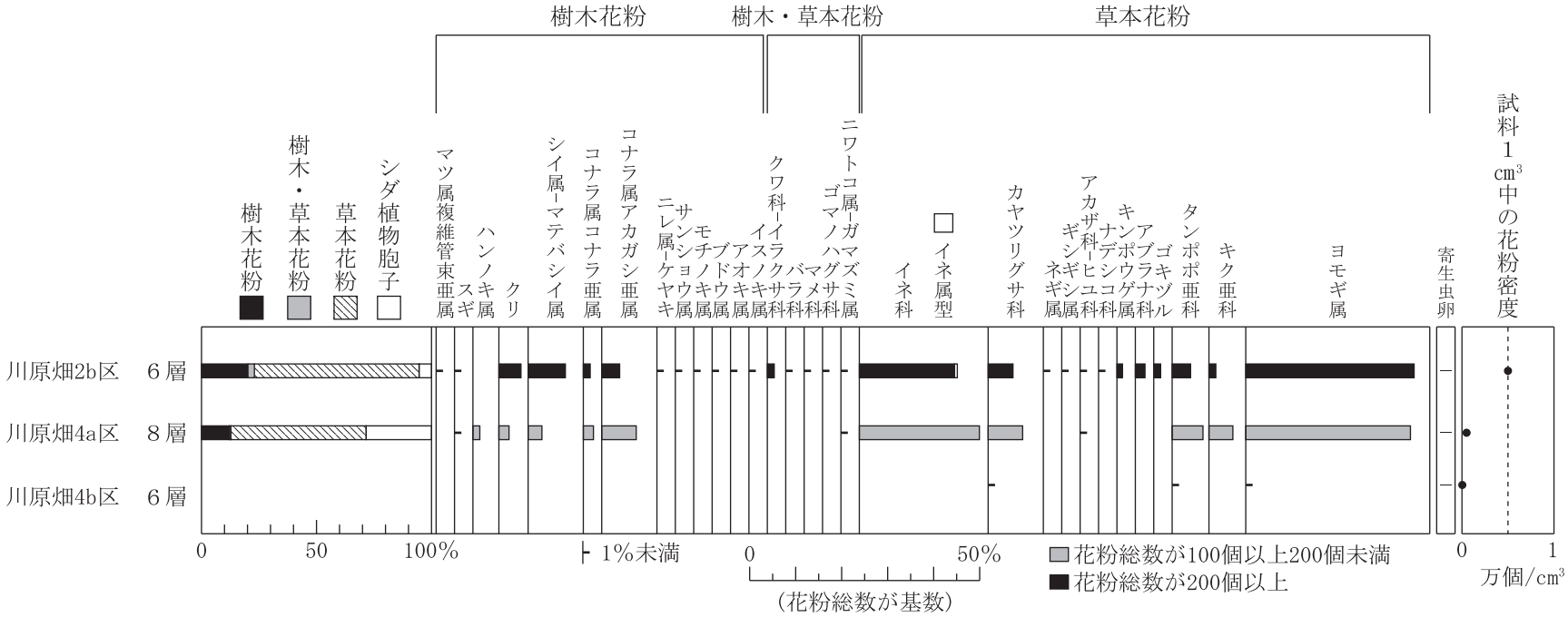
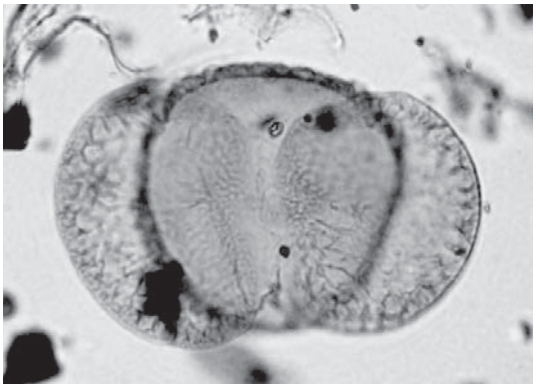
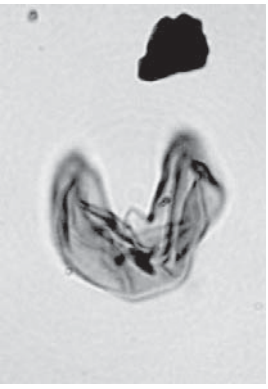


図1　原の辻遺跡における花粉ダイアグラム

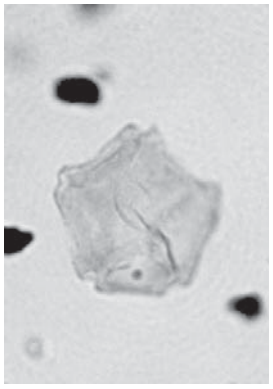
原の辻遺跡の花粉・胞子



1　マツ属複維管束亜属（2b区　６層）

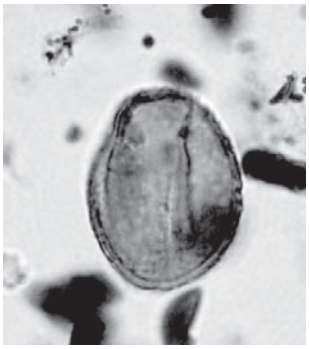


2　スギ（4a区　８層）



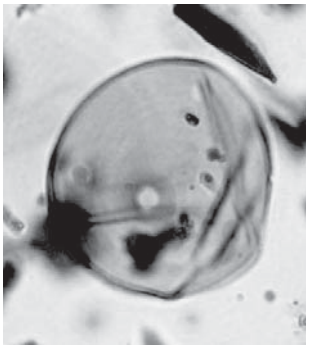
3　ハンノキ属
（4a区　８層）

4　シイ属－
マテバシイ属
（2b区　６層）



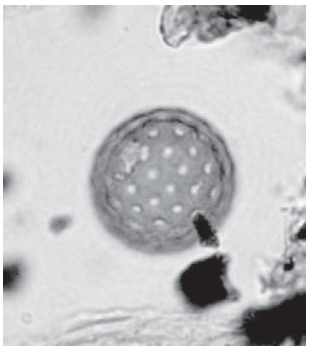
5　コナラ属コナラ亜属
（2b区　６層）

6　コナラ属アカガシ亜属
（2b区　６層）

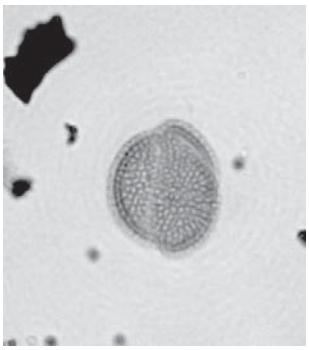


7　イネ属型（2b区　６層）

8　カヤツリグサ科
（4a区　８層）



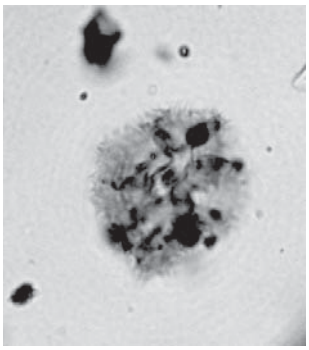
9　アカザ科－ヒユ科
（2b区　６層）



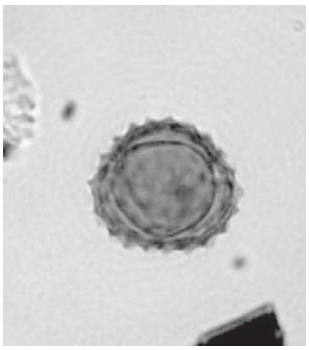
10　アブラナ科
（2b区　６層）

11　セリ亜科（2b区　６層）

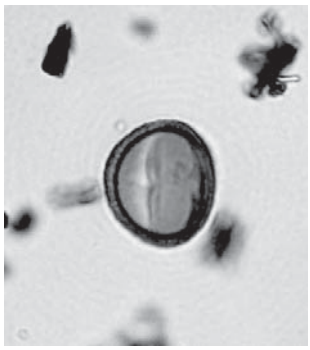
12　ゴキヅル（2b区　６層）



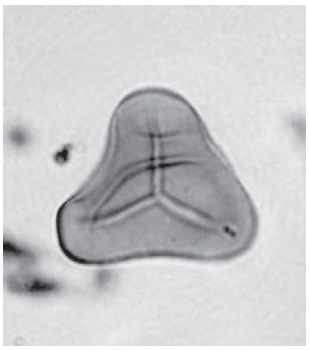
13　タンポポ亜科
（4a区　８層）



14　キク亜科（4a区　８層）



15　ヨモギ属（4a区　８層）



16　シダ植物三条溝胞子
（4a区　８層）

10μm

報告書抄録

ふりがな	はるのつじいせき
書名	原の辻遺跡
副書名	原の辻遺跡調査調査研究事業調査報告書
巻次	
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第９集
編著者名	古澤義久（編）・田口貴久
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒811-5322　長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触515番地１　TEL0920（45）4080
発行年月日	西暦2013年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
原の辻遺跡（はるのつじ）	長崎県壱岐市（ながさきけんいきし） 芦辺町（あしべちょう） 深江鶴亀触（ふかえつるきふれ）	42424	72-92	33°45′30″	129°45′55″	2012. 11. 1 ～ 2013. 1. 18	500㎡	原の辻遺跡調査研究事業（国庫補助事業）

収録遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
原の辻遺跡 （川原畑地区）	集落	弥生時代・古代・中世・近世	土坑・ピット・自然河川跡・溝等	弥生土器，弥生時代石器，古代須恵器，中世土師器・朝鮮時代陶磁器，近世陶磁器，木杭　等	

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第９集

原の辻遺跡

2013（平成25）年３月31日

発行　長崎県教育委員会
　　長崎市江戸町２番13号

印刷　株式会社　昭和堂